

第9章 社会教育

第1節 概要

1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、本県における家庭と地域社会の現状より、社会全体として子育て家庭を支援する必要等について審議することにより、提言「地域全体で子どもたちを育てる協働体制の実現に向けて～地域総ぐるみによる家庭教育・学校教育の充実を通じて～」をまとめ、進捗状況を検証してきた。（第2章 第7節に記載）

2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、双方向性の協働体制のもと、地域が学校を支援していく活動だけでなく、学校も地域に貢献する活動を展開する「地域学校協働活動事業」をはじめ、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援活動事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業と連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等

の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「地域学校協働本部事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七音で奏でよう絆ふれあい支援事業」を実施した。

5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

6 子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、中高校生によるビブリオバトルを開催した。

さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、第四次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

(1) 事業1「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために『『ふくしまの心』を育む自然体験応援事業』を実施し、東日本大震災後の自然体験の不足や体力の低下等を補うため、充実した自然体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

(2) 事業2「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「『ふくしまの未来』へつなぐ体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 平成31年4月5日(金)

場 所 公立学校共済組合飯坂保養所

第2回 日 時 令和2年1月31日(金)

場 所 公立学校共済組合飯坂保養所

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

県立図書館が市町村立図書館を31自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、2高等教育機関も巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された令和元年台風19号、20号及び21号で被災した公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定等の事務を行った。

また、東日本大震災で被災し、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和元年5月15日(水)～16日(木)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 1日目64名、2日目61名

オ 講師

教育庁社会教育課

社会教育主事兼指導主事 神田 忠恒

福島大学地域創造支援センター

副センター長・教授 木暮 照正

福島県公民館連絡協議会 会長 黒田 知恵子

いわき市教育委員会 常磐公民館

主査 赤津 智彦

教育庁社会教育課主幹

仁科 英俊

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和元年8月26日(月)～27日(火)

イ 会場 郡山市立中央公民館

ウ 参加対象 社会教育関係行政職員(公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員)、社会教育指導員等

エ 参加者数 1日目47名、2日目24名

オ 講師

尚綱学院大学 教授 松田 道雄

福島市杉妻学習センター 館長 鈴木 秀夫

郡山市立柴宮地域公民館 館長 橋本 隆

国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター

社会教育調査官 山田 智章

4 社会教育研究集会

(1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

(2) 主管 相馬地区社会教育委員連絡協議会

(3) 共催 双葉地区社会教育委員連絡協議会

(4) 後援 福島県教育委員会、相馬市・南相馬市・飯館村

・新地町・浪江町・葛尾村・双葉町・大熊町・

富岡町・川内村・檜葉町・広野町の各教育委員会

(5) 日程・内容

ア 期日 令和元年8月29日(木)～30日(金)

イ 会場 相馬市民会館大ホール ほか

ウ 参加対象 市町村社会教育委員、市町村社会教育行政担当者、社会教育関係施設職員、社会教育関係団体会員等

エ 参加者数 2日間延べ439名

オ 基調講演

講師 南相馬市博物館学芸員 二上 文彦
演題 「相馬野間追の歴史と今」

カ 分科会

- 第1分科会「子育て・家庭教育支援について」
- 第2分科会「地域と学校との連携・協働について」
- 第3分科会「地域を担う人材発掘・人材育成について」
- 第4分科会「社会教育委員の役割について」

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

(単位：人)

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
社会教育指導員数	45	17	11	57	15	12	6	163

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会（年2回）

ア 第1回

- (ア) 期日 令和元年5月8日(水)
- (イ) 場所 郡山市労働福祉会館
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員
- (エ) 参加者数 132名
- (オ) 講師 社会教育課主幹 仁科 英俊

イ 第2回

- (ア) 期日 令和元年9月27日(金)
- (イ) 場所 パルセいいざか
- (ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者
- (エ) 参加人数 116名
- (オ) 講師 福島県立医科大学 主任教授 大平 哲也
演題 「笑い与健康」

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方針を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	2月20日	桑折町	30名
県中	7月12日	天栄村	10名
県南	5月21日	矢祭町	9名
	5月30日	西郷村	27名
	11月14日	白河市	30名
会津	9月6日	三島町	5名
	11月6日	喜多方市	60名
会津	11月28日	北塩原村	12名
	11月29日	会津若松市	10名
南会津	7月10日	只見町	13名
	9月3日	南会津町	21名
相双	8月22日	相馬市	11名
	9月4日	葛尾村	4名
いわき	6月5日	いわき市	148名
	2月4日	いわき市	121名

合計 15か所 参加者 511名

8 福島県公民館研究集会

(1) 期日 令和元年10月11日(金)

(2) 会場 いわき市文化センター

(3) 参加対象 公民館職員等

(4) 講師 東洋システム株式会社

代表取締役 庄司 秀樹

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日・会場

令和元年6月21日(金)

福島県男女共生センター

令和元年7月1日(月)～8月7日(水)

国立磐梯青少年交流の家

東北大学教育学部

ウ 受講者数 14名

エ 修了者名

域内	氏名	勤務先
県北(3)	伊藤 文博	福島市松川学習センター
	佐久間友貴	福島市飯坂学習センター
	尾形 陽介	大玉村立玉井小学校
県中(2)	今井 悠仁	須賀川市立第三小学校
	米本 順一	小野町立浮金小学校
県南(2)	高田 顕	白河市立白河第一小学校
	吉田 頼信	白河市立東北中学校
会津(1)	穴澤 正人	喜多方市立会北中学校

域内	氏名	勤務先
南会津(2)	長澤 秀弥	只見町立只見小学校
	吉村 周平	下郷町教育委員会
相双(2)	猪狩 香奈	広野町立広野小学校
	尾形 泰英	富岡町立富岡第一小学校
いわき(1)	秋山 薫	いわき市立汐見が丘小学校
県立(1)	木原 清和	県立郡山支援学校

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和元年7月19日(金)～8月23日(金)

b B講習 令和2年1月20日(月)～2月27日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 1名

(エ) 修了者名

講習名	氏名	勤務先
B講習	西田 治	県立相馬農業高等学校

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	11月5日(火)～8日(金)	1

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.339	社会教育	A4	13	Web掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 地域学校協働活動事業

(1) 目的

県内8本部を先進的な取組のモデル学区に指定し、地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を置き、地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、郷土学習や地域行事への参加等をとおして、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域づくりを推進する事業を展開する。

(2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回

期日：令和元年7月16日(火)

会場：杉妻会館

第2回

期日：令和元年10月9日(水)

会場：西郷村立羽太小学校

第3回

期日：令和2年2月4日(火)

会場：杉妻会館

イ 地域連携担当教職員等連絡協議会の実施

第1回

期日：令和元年5月27日(月) 39名参加

講義：尚綱学院大学 教授 松田 道雄

第2回

期日：令和元年11月5日(火) 42名参加

講演：国立教育政策研究所生涯学習政策研究部総括研究官(併)社会教育実践センター社会教育調査官 志々田 まなみ

第3回

期日：令和2年2月21日(金) 44名参加

事例発表：「『キャリア教育』がこれからの時代に必要な力を育む～近津小学校の取組を通して～」 棚倉町立近津小学校 佐々木 功
丹治 康幸

ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

期日：令和2年1月28日(火) 316名参加

会場：郡山市ビッグパレットふくしま

実践発表：「地域学校協働活動事業の実践について」
モデル8市町村(国見町、大玉村、天栄村、西郷村、西会津町、川内村、双葉町、檜葉町)

基調講演：「地域と共にある学校をつくる～地域連携担当教職員の使命と、地域と学校の連携・協働の推進～」

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部
防災・減災企画官 廣田 貢

シンポジウム：「地域と共にある学校をつくる」

コーディネーター

尚綱学院大学 教授 松田 道雄

パネリスト

国見町教育委員会教育長 岡崎 忠昭

本宮市立五百川小学校 安齋 宏之

いわき市常磐公民館 赤津 智彦

西会津町立西会津小学校 山口 弘

総評：尚綱学院大学 教授 松田 道雄

(3) 市町村事業

ア 評価・検証委員会の実施

イ 地域学校協働活動事業の実施 8町村

2 放課後子ども教室事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

- ア 放課後子ども教室の実施
県立特別支援学校（2教室）
・福島県立聴覚支援学校
・福島県立平支援学校

(3) 市町村事業

- ア 運営委員会の実施
イ 子ども教室の実施
38市町村 127教室実施

3 学校支援活動事業

(1) 目的

様々な体験・交流・学習活動等を通じて、子どもたちの社会性・創造性の豊かな人間性を涵養するとともに、地域の子どもたちと大人の積極的な参加と交流による地域コミュニティの性化と地域社会全体の教育力向上を図る。

(2) 市町村委託

20の市町村（桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、白河市、西郷村、棚倉町、会津若松市、北塩原村、柳津町、三島町、西会津町、富岡町、檜葉町）に30の地域学校協働本部が設置され実施した。

(3) 市町村補助

なし

4 学校・家庭・地域連携サポート事業

(1) 目的

地域学校協働本部事業にかかる研修会を実施し、地域連携担当教職員やコーディネーター等の養成と資質向上、それに携わるボランティア等の拡大及び学校の理解促進を図る。

(2) 県事業

- ア 地域学校協働活動研修会 8回
（地区別研修7回 全県研修1回）

【全県研修】

期 日 令和元年6月3日(月)
会 場 郡山市労働福祉会館
参加者 129名
内 容

講 演

「これからの地域と学校に求められる連携・協働の在り方について」

国立教育政策研究所社会教育実践センター

専門調査員 白井 淳子

事例発表 I

「つながり広がる地域学校協働本部事業」

西会津町地域学校協働本部

西会津町教育委員会学校教育課主査

小塚 美由紀

家庭教育コーディネーター

紫藤 真理子

事例発表 II

「～子どもたちが健やかに育つ力を地域と共に～」

野木沢放課後子ども教室

放課後子ども教室コーディネーター

熊井 トシエ、遠沢 幸恵

石川町教育委員会生涯学習課係長 草野 智子

事例発表 III

「『おのだなかよし教室』の活動

～なかよく・かしこく・元気よく～」

おのだなかよし教室 安全管理員 鈴木 きよ子

白河市役所地域振興課副主査 佐藤 恵理

【県北地区】

期 日 令和元年10月25日(金)

会 場 吾妻学習センター

参加者 102名

内 容 講話・グループ協議

【県中地区】

期 日 令和元年7月30日(火)

会 場 たまかわ文化体育館

参加者 39名

内 容 実践発表・講演・演習・情報交換

【県南地区】

期 日 令和元年8月28日(水)

会 場 白河市 新白信ビル

参加者 51名

内 容 行政説明・事例発表・講義・グループ協議

【会津地区】

第1回

期 日 令和元年9月30日(月)

会 場 会津若松市立大戸小学校

参加者 86名

内 容 実践発表・情報交換・講演・実技演習

第2回

期 日 令和元年12月18日(水)

会 場 道の駅あいづ 湯川・会津板下

参加者 31名

内 容 行政説明・講義・実践発表・研究協議

【南会津地区】

期 日 令和元年8月19日(月)

会 場 南会津町御蔵入交流館

参加者 44名

内 容 実践発表・情報交換・講演・実技演習

【相双地区】

期 日 令和元年12月17日(火)

会 場 福島県環境創造センター環境放射線センター

参加者 58名

内 容 実践発表・情報交換・演習

イ 地域連携担当教職員等研修会 地区別研修会7回

【県北地区】

期 日 令和元年7月9日(火)

場 所 桑折町多目的スタジオ「イコーゼ！」
参加者 86名
内 容 講義・講演・グループ協議

【県中地区】

期 日 令和元年7月2日(火)
場 所 郡山市労働福祉会館
参加者 123名
内 容 講義・講演・実践発表

【県南地区】

期 日 令和元年6月10日(月)
場 所 白河合同庁舎
参加者 68名
内 容 講義・講演・実践発表・グループ協議

【会津地区】

期 日 令和元年7月1日(月)
場 所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下
参加者 69名
内 容 講義・講演・実践発表

【南会津地区】

期 日 令和元年6月17日(月)
場 所 南会津町御蔵入交流館
参加者 34名
内 容 講義・講演・実践発表

【相双地区】

期 日 令和元年7月17日(水)
場 所 福島県環境創造センター環境放射線センター
参加者 67名
内 容 講義・講演・実践発表

【いわき地区】

期 日 令和元年6月5日(水)
場 所 いわき産業創造館
参加者 163名
内 容 講義・講演・事例体験・グループ協議

5 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 13,124件
- イ 避難自治体支援
移動図書館（あづま号）による資料貸出
稼働18回 貸出2,906冊
（開催場所 飯舘村、楡葉町ほか 計28か所）

第4節 家庭教育

1 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

ア 福島県地域家庭教育推進協議会

第1回 令和元年5月22日(水) 杉妻会館
第2回 令和2年2月7日(金) 杉妻会館

イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議

各教育事務所域内（7か所）
各地区2回実施（6月～2月）

ウ 家庭教育応援企業推進活動

連携企業数

県北地区	12社（184社）
県中地区	17社（241社）
県南地区	14社（71社）
会津地区	4社（146社）
南会津地区	6社（65社）
相双地区	0社（10社）
いわき地区	19社（59社）
計	72社（776社）※（ ）累計

エ 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町PTA連絡協議会 63名
令和元年8月1日(木)
「聞いてますか、子どもの気持ち。語っていますか、親の思い。」～「自己肯定感」と「生きる力」を育む～

親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

- ・伊達地区PTA連絡協議会 200名

令和元年11月9日(土)

「子どもの創造的想像力を育む親の役割～AIに負けない子育てを考える～」

I P U・環太平洋大学教授

お茶の水女子大学名誉教授 内田 伸子

【県中地区】

- ・平田村立小平小学校PTA研修会 219名

令和元年7月6日(土)

「子どもたちを健康に導く運動プログラム“BALL GAME”体験会」

福島ファイアーボンズ 榊原 裕司、徳島 慎之介

国際ビジネス公務員大学校

堀越 啓子、高階 裕美、学生ボランティア3名

- ・郡山市PTA連合会西ブロック研修会 126名
令和元年8月18日(日)

「子どもが危ない！スマホ社会」

株式会社情報文化総合研究所

代表取締役 佐藤 佳弘

【県南地区】

- ・東白川郡埴町立笹原小学校PTAほか 120名
令和元年11月16日(土)

「メディアと心の健康」

福島県立矢吹病院 副院長 角田 智哉

- ・中島村連合PTA 200名
令和元年12月14日(土)

「はやぶさから宇宙へ 僕だって未来へ挑戦できる。」

北海道大学理学研究員 自然史科学 教授

JAXA地球外物質研究グループ長 坂本 尚義

【会津地区】

- ・金山町立金山中学校父母と教師の会ほか 56名
令和元年7月8日(月)

「インターネット・スマホ 子供にどう使わせるか
～ネット依存やLINEいじめ子供を守るには～」

会津大学短期学部産業情報学科 教授 中澤 真

- ・会津若松市立一箕中学校父母と教師の会ほか 391名
令和元年7月17日(水)

「インターネット・スマホ 子供にどう使わせるか
～ネット依存やSNSトラブルにならないために～」

会津大学短期学部産業情報学科 教授 中澤 真

- ・会津若松市立松長小学校PTAほか 256名
令和元年12月5日(木)

「脱！スマホのトラブル～危険を避けて、上手に使え～」

株式会社情報文化総合研究所

代表取締役 佐藤 佳弘

- ・会津美里町立本郷子ども園PTAほか 80名
令和2年1月25日(土)

「子どもメディア～親としての向き合い方～」

星総合病院

病院長補佐兼小児科部長 佐久間 弘子

【南会津地区】

- ・田島保育園PTAほか 105名
令和元年6月1日(土)

「進化するヨコミネ式～子どもの才能の伸ばし方～」

ヨコミネ株式会社 横峯 吉文

- ・南会津町立館岩小学校・館岩中学校PTA 30名
令和元年6月28日(金)

「子どもの読書活動の充実のために」

只見町立只見小学校長 吉野 徹

- ・南会津町立田島小学校・田島中学校PTA 160名
令和元年6月28日(金)

「ワークショップで考える『情報モラル』」

福島県生徒指導アドバイザー 目黒 朋子

- ・南会津町立館岩中学校・館岩小学校PTA 52名
令和元年6月29日(土)

「メディアとのかかわり方を考える～スマホに生活を支配されないために～」

南会津教育事務所 指導主事 伊藤 武徳

- ・下郷町立旭田小学校・下郷中学校PTA 81名
令和元年7月5日(金)

「親子でこれからのネット社会を生き抜くために」

南会津教育事務所 指導主事 伊藤 武徳

- ・南会津町立田島中学校区PTAほか 270名
令和元年7月8日(月)

「夢を叶えるために～明日に向かって進む、20年前の卒業生からのメッセージ～」

土っこ田島farm 代表取締役社長 湯田 浩和

- ・只見町立明和小学校・只見中学校PTA 51名
令和元年7月11日(木)

「家庭における保護者の子どもとの関わり方」

会津大学短期学部 幼児教育学科 木村 淳也

- ・暁の星幼稚園・田島小学校PTAほか 26名
令和元年9月13日(金)

「幼児期の問題行動への対処(対応)の仕方について」

南会津教育事務所 指導主事 佐藤 智

- ・南会津町立荒海小・中学校PTA 41名
令和元年9月20日(金)

「現代社会に生きる子どもの理解と子育て」

清和大学短期大学部 非常勤講師 佐久間 正弘

- ・南会津町立松沢小学校PTA 128名
令和元年12月12日(木)

「発達障がい？いじめ？笑い？人間って、やっぱりすばらしい！」

新潟お笑い集団NAMARA

保育士お笑い芸人 金子 ポボ

- ・南会津町立南郷小学校PTA 61名
令和2年2月21日(金)

「ネット社会の危険から子どもを守るために」

南会津教育事務所 指導主事 伊藤 武徳

【相双地区】

- ・南相馬市立石神第二小学校PTAほか 496名
令和元年6月28日(金)

「楽しい食事で作られる すこやかな心と体」

料理愛好家 わか(江川 和花)

- ・相馬市立飯豊小学校PTAほか 180名
令和元年7月2日(火)

「楽しい食事で作られる すこやかな心と体」

料理愛好家 わか(江川 和花)

【いわき地区】

- ・四倉・久ノ浜方部PTAほか 64名
令和元年9月1日(日)

「子どもの命を守るために～地域や保護者にできることは何か～」

- 福島県浜児童相談所 所長 佐藤 早苗
 ・いわき市立湯本第一中学校PTAほか 329名
 令和元年9月12日(木)
 「親子で一緒に考えよう！～脳を育てる本の読み方、スマホの使い方～」
 東北大学加齢医学研究所 特別研究員 榊 浩平
 ・いわき市立錦小学校・双葉町立双葉北小学校・双葉南小学校PTAほか 125名
 令和元年12月7日(土)
 「コーディネーション運動を親子で楽しもう！」
 ジュニアスポーツ指導員 安齋 博勝

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

ア 家庭教育支援者全県研修

令和元年7月28日(日)ビッグパレットふくしま 98名
 講義

「家庭支援の在り方～保護者の養育力向上に役立つ支援のために～」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

実演・演習

「『親育ち応援学習プログラム』を使ってみましょう！講師やインストラクターとして活動するときに『使える！』プログラムの実演・グループワークを皆さんで体験してみましよう！」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
 こども保育コース 講師 長谷川 美香
 家庭教育インストラクター 大友 靖子

選択研修

「発達障がい理解と保護者支援」

すかがわ子育てネットワークTUNAGU

代表 富森 崇

「『支援力』の向上を目指して」

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
 こども支援部門 特任教授 本多 環

「ネット依存の理解と対応」

独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター
 主任心理療法士 三原 聡子

イ 家庭教育支援者地区別研修 7地区 362名

【県北地区】

令和元年11月27日(水)県青少年会館 37名

講義・演習

「今求められる支援とは～親子の自己肯定感を育む支援に向けて～」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

【県中地区】

令和元年12月4日(水)郡山市労働福祉会館 33名

講義・演習 I

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻

こども保育コース 講師 長谷川 美香
 講義・演習 II

「子どもに愛が伝わっていますか～『聞く』『語る』、心豊かに生きる四つの条件～」

親業訓練シニアインストラクター 大屋 弘子

【県南地区】

令和元年12月2日(月)新白信ビル 52名

講義 I

「ナラティブアプローチと明日飛子ども自立の里の支援」

NPO法人明日飛子ども自立の里

理事長 清水 国明

講義 II

「インターネット・掲示板・SNSの現状と家庭におけるルールづくり」

白河市IT授業支援員 佐藤 裕

講義 III

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

【会津地区】

令和元年11月13日(水)

道の駅あいづ湯川・会津坂下 52名

講義・演習 I

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

講義・演習 II

「メディアとの上手な付き合い方～スマホのある時代の子育て～」

実践女子大学 人間社会学部人間社会学科

教授 駒谷 真美

【南会津地区】

令和元年9月4日(水) 御蔵入交流館 61名

講演

「子育てができる人は、仕事もできる！！」

株式会社ペンギンエデュケーション

代表取締役 横田 智史

令和元年11月4日(月) 御蔵入交流館 52名

講義・演習

「家庭教育支援について、みんなで考えよう」

桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
 こども保育コース 講師 長谷川 美香

主張発表「テーマ：家族」

「お父さんの仕事につきたい」

下郷町立江川小学校 6年 渡部 永遠

「家族と共に」

南会津町立伊南小学校 6年 八須賀 真優

「家族の絆」

只見町立只見中学校 3年 山内 友斗

「怪我を乗り越えて」
会津町立荒海中学校 3年 室井 勝輝
講演・読み聞かせ
「絵本でセラピー～子どもも大人も癒やす絵本との出逢い～」
フリーアナウンサー 引田 さいこ

【相双地区】

令和元年9月7日(土) 南相馬合同庁舎 16名
行政説明「親育ち応援学習プログラム」
相双教育事務所主任社会指導主事 佐藤 伸洋
演習
「福島県CAPグループによる『大人ワークショップ』」
福島県CAPグループ あいづCAP
田中 明子、芳賀 茂美、栗村 桂子
講義・演習
「家庭教育支援について、みんなで考えよう」
桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
こども保育コース 講師 長谷川 美香

【いわき地区】

令和元年10月11日(金) 中央台公民館 59名
講演
「家庭で地域で学校で～コミュニケーション上手になろう～」
コーチングSERERE 大石 稜子
講義・演習
「家庭教育支援について、みんなで考えよう」
桜の聖母短期大学 生活科学科福祉こども専攻
こども保育コース 講師 長谷川 美香

第5節 青少年教育

1 地域学校協働本部事業

(1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

(2) 内容

ア 県本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事兼指導主事）

(イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等（以下「ボランティア」と

いう。）の登録促進に関すること

- ・ボランティアの活動を推進する研修に関すること
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関すること
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関すること

イ 地域本部の設置

(ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関すること
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関すること
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関すること
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関すること
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関すること
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関すること

ウ 市町村本部の設置

(ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

(イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関すること
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関すること
- ・城内各学校との連携に関すること

エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

(ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

(イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関すること
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関すること
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関すること
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関すること

オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

家庭や地域における人と人とのかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

(2) 内容

ア 応募期間 令和元年6月17日(月)～8月30日(金)

イ 応募総数 45,477 組

ウ 最終審査会 令和元年11月8日(金)

エ 審査員 和合 亮一(県立本宮高等学校教諭・詩人)
佐々木 孝司(新地町教育委員会教育長)
金澤 武男(県公立学校退職校長会副会長)

オ 表彰式 令和元年12月14日(土)
ホテル福島グリーンパレス

カ 入賞数 絆部門・復興部門・ふくしま応援部門
最優秀賞各5組、優秀賞各5組、
佳作各10組

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、県公式Twitterに掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、配布により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

(1) 福島県子どもの読書活動推進会議

【第1回】令和元年7月18日(木)

杉妻会館3階「鈴蘭」

【第2回】令和2年1月30日(木)

杉妻会館3階「石楠花」

ア 目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
大石 みどり	福島県高等学校PTA連合会副会長	社会教育関係者
湯田 千賀子	福島県学校図書館協議会長	学校図書館関係者
籠田 まき子	小野町ふるさと文化の館副主幹	公立図書館等関係者
矢吹 貴美	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
藍原 恵美子	NPO法人夢ネットワーク理事長	読書活動に係るボランティア団体関係者
桑原 真希	平田村立こども園保育教諭	保育所・幼稚園等の関係者

(2) 読書活動支援者育成事業

【県北地区】	令和元年10月6日(日) 福島県立図書館	受講者 37名
【県中地区】	令和元年6月19日(水) 郡山市労働福祉会館	受講者 69名
【県南地区】	令和元年7月8日(月) 棚倉町立図書館	受講者 65名
【会津地区】	令和元年8月22日(木) 会津大学	受講者 92名
【南会津地区】	令和元年7月9日(火) 下郷ふれあいセンター	受講者 60名
【相双地区】	令和元年7月25日(木) 環境放射線センター	受講者 49名
【いわき地区】	令和元年7月5日(金) いわき産業創造館	受講者 87名
【中通り地区】	令和元年9月7日(土) 福島県立図書館	受講者 73名
【浜通り地区】	令和元年10月5日(土) いわき産業創造館	受講者 91名
【会津地区】	令和元年10月5日(土) 会津大学	受講者 100名

(3) 発達段階に応じた読書活動推進事業

令和の夏読書の世界再発見ツアー in ふくしま

期日：令和元年8月6日(火)

場所：福島県立図書館 受講者 119名

内容

乳幼児期における読書活動推進のために

講義・演習：「絵本で遊ぼう」

幼児教育専門家 藤田 浩子

小学校期における読書活動推進のために

講義・演習：「ブックトークをしてみませんか？」

JPIC 読書アドバイザー 児玉 ひろ美

中高校期における読書活動推進のために
講義・演習：「ビブリオバトル まずは自分から楽しんでみよう！」

文教大学教育研究所長 平 正人

図書館紹介

「小野町図書館の取組」

小野町図書館 副主幹兼司書 西牧 美也子

「福島県立図書館のひみつ」

福島県立図書館 専門司書 鈴木 史穂

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期日：令和元年11月9日(土)

場所：福島県立図書館

参加者：発表者20名(中学生13名、高校生7名)

観戦者200名

【中学生の部】

優勝 喜多方市立第三中学校 府栄野 幸羽

「天使は奇跡を希う」七月隆文

準優勝 南会津町立田島中学校 渡部 未徠

「告白」湊かなえ

優秀賞 白河市立表郷中学校 荒井 結花

「かがみの孤城」辻村深月

会津若松市立第二中学校 岡本 晴琉

「そして、バトンは渡された」瀬尾まいこ

【高校生の部】

優勝 福島県立田村高等学校 会田 遙輝

「線は、僕を描く」砥上裕將

準優勝 福島県立磐城高等学校 依田 輝

「54字の物語」氏田雄介

優秀賞 福島県立郡山高等学校 阿部 さくら

「食べごしらえおままごと」石牟礼道子

福島県立坂下高等学校 板橋 大

「嫌われる勇氣」岩見一郎・古賀史健

福島県立会津高等学校 坂内 風来

「帰ってきたヒトラー」ティーム・ヴェルメシュ

福島県立磐城高等学校 吉田 快斗

「不道德教育講座」三島由紀夫

福島県立安積高等学校 渡辺 愉子

「銃・病原菌・鉄(上下)」ジャレド・ダイヤモンド

(5) 第四次福島県子ども読書活動推進計画

これまでの成果と課題を踏まえ、第四次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

ア 第四次福島県子ども読書活動推進計画作成委員会

【第1回】令和元年6月18日(火)

自治会館502会議室

【第2回】令和元年10月3日(木)

自治会館101会議室

【第3回】令和元年11月28日(木)

自治会館502会議室

イ 教育委員会令和2年2月定例会

【策定】令和2年2月27日(木)

教育委員室(県庁西庁舎9階)

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	八木沼智恵子	須賀川市教委生涯学習スポーツ課内 須賀川市牛袋町5	河村 朝子	S46. 9. 13
いわきユネスコ協会	西山 允雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	S51. 10. 23
郡山ユネスコ協会	倉又 晴男	学校法人尚志学園高等学校内 郡山市大槻町字坦ノ腰2	宗像 金三	S53. 1. 24
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	小松 寛	S53. 11. 19
福島ユネスコ協会	門間 孝一	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	宗川 孝	S55. 7. 19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55. 11. 16
郡山次世代ユネスコ協会	大本 研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景2-9-3	鈴木秀太郎	H28. 1. 16
福島県ユネスコ連絡協議会	門間 孝一	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56. 12. 5

2 福島県ユネスコ活動研修会

令和元年11月19日(火) 福島市吉井田学習センター

参加者数 34名 テーマ 「地域を振り返り、新しい学びへ」

第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

1 「ふくしまの心」を育む自然体験応援事業

(1) 内容

対象者：福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の幼稚園、保育所（認可外保育施設を含む。）、特別支援学校幼稚部及び認定こども園、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

対象期間：令和元年5月10日～令和2年2月29日

実施内容：ア 小中学生を対象とした宿泊を伴う自然体験活動への補助

イ 保育所・幼稚園の幼児を対象とした体力向上等を目的とした自然体験活動への補助

ウ 社会教育団体が行う小中学生を対象とした長期宿泊型（4泊5日以上）の自然体験活動への補助

補助について：①活動費、②交通費、③宿泊費について、補助対象経費の80%以内か100万円の低い方

(2) 実績

ア 小・中学校自然体験活動支援事業

件数：309件 参加者：17,557名(うち 子ども 15,868名)

イ 幼稚園・保育所自然体験活動支援事業

件数：53件 参加者：5,053名(うち 子ども 3,014名)

ウ 社会教育団体自然体験活動支援事業

件数：1件 参加者：13名(うち 子ども 11名)

2 心のケアが必要な子どもを対象とした事業

(1) 内容

対象者：県内の不登校等で不安を抱えている子ども及び引率者等

対象期間：令和元年4月26日～令和2年2月29日

実施内容：県内3自然の家（郡山・会津・いわき）を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然体験活動や交流体験活動等を実施する。

(2) 実績

○郡山自然の家

実施日	主な内容	参加者数
6月29日(土)	講師の方の体験や、今の思いをみんなで語り合おう	児童、保護者、講師 3名
7月28日(日)	森からの贈り物でオブジェを作り、野外炊飯で心とお腹を満たそう	児童、保護者、講師 3名
9月28日(土)	FSGカレッジで、頑張っている人たちと交流をして、未来を想像しよう	児童、保護者、講師 5名
11月14日(木)	ニュースポーツ（フロッカー）、万年カレンダー作り等	児童生徒、保護者、引率者 9名

※10月に予定していた事業は台風の影響のため中止

○会津自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月30日(火)～31日(水) ※1泊2日	ツーリング、自然観察、カヌー、アスレチック等	児童生徒、保護者 41名
1月26日(日)	そり遊び、スノーシュー、自然観察等	児童生徒、保護者 18名

※11月に予定していた事業は参加者なく中止

○いわき海浜自然の家

実施日	主な内容	参加者数
7月5日(金)	魚釣り、磯遊び、室内ゲーム等	児童生徒、講師 13名
10月9日(水)	野外炊飯、オリエンテーリング等	児童生徒、講師 26名
2月5日(水)	スポーツ交流、クラフト等	児童生徒、講師 24名

※9月に予定していた事業は参加者なく中止、10月に予定していた事業は台風の影響のため中止

3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

(1) 内容

- 事業1 ふくしまの元気を届ける体験事業
 事業2 ふくしまの今を発信体験事業
 事業3 ふくしまを創る起業体験事業

(2) 実績

- 応募団体 83 団体
 採択団体 74 団体
 補助金額 86,160 千円

第 10 節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

ア 県立

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県立図書館	福島市森合字西養山 1	024-535-3220	福島県

イ 市町村立

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島市立図書館	福島市松木町 1-1	024-531-6551	福島市
福島市西口ライブラリー	福島市三河南町 1-20	024-525-4023	福島市
福島市子どもライブラリー	福島市早稲町 1-1 (こむこむ内)	024-526-4200	福島市
伊達市 教育部市立図書館	伊達市箱崎字川端 7	024-551-2132	伊達市
二本松市立二本松図書館	二本松市本町 1 丁目 102 番地	0243-23-5082	二本松市
二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町 242 番地	0243-55-3255	二本松市
しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎 500	0243-44-2112	本宮市
郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目 5-25	024-923-6601	郡山市
郡山市中央図書館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼 40-3	024-955-3842	郡山市
郡山市中央図書館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原 1	024-959-2205	郡山市
郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目 1-21	024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰 23-4	024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館 三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷 6	024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平 385	024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館 西田分館	郡山市西田町三丁目桜内 259	024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田 56	024-951-1512	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘 1-5	024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目 38	024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎 181-1	024-921-0030	郡山市
須賀川市図書館	須賀川市八幡町 134	0248-75-3309	須賀川市
須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町 85	0248-67-2138	須賀川市
須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前 22 番地	0248-65-3549	須賀川市
鏡石町図書館	鏡石町旭町 440-6	0248-62-1288	鏡石町
古殿町図書館	古殿町松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町
三春町町民図書館	三春町字大町 12-1	0247-62-3375	三春町
小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市図書館	田村市船引町船引字扇田 19	0247-82-1001	田村市
田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町 48-1	0247-78-2001	田村市
田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池 87-5	0247-79-2161	田村市
田村市図書館常葉分館	田村市常葉町常葉字町裏 1	0247-77-2013	田村市

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町 33-4	0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路 96-5	0248-23-3250	白河市
白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保 2	0248-32-4784	白河市
白河市東図書館	白河市東釜子字狐内 47	0248-34-1130	白河市
白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町小松 481	0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館 24-9	0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森町 21-1	0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町 68-6	0247-43-0808	塙町
矢祭もったいない図書館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128	0247-49-3151	鮫川村
会津若松市立会津図書館	会津若松市栄町 3-50	0242-22-4711	会津若松市
猪苗代町図書館歴史情報館	猪苗代町字古城町 132-7	0242-23-7855	猪苗代町
喜多方市立図書館	喜多方市字柳原 7503-1	0241-22-1855	喜多方市
南会津町図書館	南会津町田島字宮本東 22	0241-62-5522	南会津町
相馬市図書館	相馬市中村字塚ノ町 65-16	0244-37-2630	相馬市
新地町図書館	新地町谷地小屋字樋掛田 40-1	0244-62-5031	新地町
南相馬市立中央図書館	南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1	0244-23-7789	南相馬市
南相馬市立鹿島図書館	南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1	0244-46-5116	南相馬市
南相馬市立小高図書館	南相馬市小高区本町二丁目 89-1	0244-44-3049	南相馬市
浪江町図書館（休館中）	浪江町権現堂字沢沢町 6-1	0240-34-5024	浪江町
双葉町図書館（休館中）	双葉町大字長塚字鬼木 1	0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-21-3665	富岡町
いわき市立総合図書館	いわき市平字田町 120	0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷図書館	いわき市内郷綴町榎下 40-1	0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上 7-2	0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐図書館	いわき市常磐関船町作田 1	0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来図書館	いわき市植田町南町 1丁目 2-2	0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50	0246-32-5980	いわき市

ウ 法人

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
クローバー子供図書館	郡山市開成 6丁目 346-1	024-932-2118	財金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録・指定年月日
福島県立美術館	福島市森合字西養山 1	024-531-5511	福島県	美術博物館	59.7.16
福島県立博物館	会津若松市城東町 1-25号	0242-28-6000	福島県	総合博物館	61.11.28
須賀川市立博物館	須賀川市池上町 6	0248-75-3239	須賀川市	歴史博物館	46.7.10
いわき市立美術館	いわき市平字堂根町 4-4	0246-25-1111	いわき市	美術博物館	59.9.3
郡山市立美術館	郡山市安原町字大谷地 130-2	024-956-2200	郡山市	美術博物館	平 5.1.20
南相馬市博物館	南相馬市原町区牛来字出口 194	0244-23-6421	南相馬市	総合博物館	平 8.5.9

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録・指定年月日
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田 81	0242-85-7867	(公財)野口英世記念会	歴史博物館	29.10.21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1	0242-65-2600	会津民俗館	歴史博物館	55.10.3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下 33	0242-24-9170	(一財)白虎隊記念館	歴史博物館	63.6.30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-3077	南会津町	歴史博物館	平 21.6.16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23	0241-37-1088	(公財)諸橋近代美術館	美術博物館	平 11.8.17
藤田記念博物館(休館中)	白河市五郎窪 37-1	0248-24-1780	(公財)藤田教育振興会	美術博物館	54.9.1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田 1	0248-79-4811	(公財)DNP 文化振興財団	美術博物館	平 25.12.25

イ 博物館相当施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者	種別	登録・指定年月日
やないづ町立齋藤清美術館	柳津町柳津字下平乙 187	0241-42-3630	柳津町	美術博物館	平 11.9.28
龍が城美術館(休館中)	いわき市平字旧城跡 27-1	0246-22-1601	(一財)白龍会	美術博物館	30.2.10
会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内 1	0242-28-2525	(株)会津武家	屋敷歴史博物館	56.11.25
安積歴史博物館	郡山市開成 5-25-63	024-938-0778	(公財)安積歴史博物館	歴史博物館	59.9.8
磐梯山噴火記念館	北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36	0241-32-2888	(株)ワールドハウス目黒	科学博物館	平 5.7.1
會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山10番地	0242-75-2525	(株)会津武家屋敷	歴史博物館	平 12.11.28
はじまりの美術館	猪苗代町新町 4873	0242-62-3454	(福)安積愛育園	歴史博物館	平 28.12.6

ウ 類似施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町 50	0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段 86	0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町 5-54	024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館(福島市資料展示室)	福島市上町 39-1	024-563-7855	福島市
福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内	024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町 1-1	024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町 11-36	024-523-1202	福島市
UFOふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森 1-299	024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利 60	024-525-3785	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山橋内 20	024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町 10	024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇 265	024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1	024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町 1-102	0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町 36	0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町 2-3-1	0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵 183	0243-48-2569	大玉村
本宮市歴史民俗資料館	本宮市字南町裡 130	0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎 494-44	0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成 3-3-7	024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山 1-8-3	024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町 3-5	024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F	024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口 186	0248-67-2030	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川 235	0247-53-2305	古殿町

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石 1 - 2	0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田 200 - 2	0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地 144 - 6	0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下 287	0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷 5	0247-62-5263	三春町
三春郷土人形館	三春町字大町 30	0247-62-7053	三春町
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通 2	0247-72-2120	小野町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前 196 番地	0247-81-1215	田村市
白河市歴史民俗資料館	白河市中田 7 - 1	0248-27-2310	白河市
白河集古苑	白河市郭内 1 - 73	0248-24-5050	白河市
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田 25	0248-46-3614	白河市
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館 24 - 9	0248-54-1533	泉崎村
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元 86 - 1	0247-42-2510	塙町
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田 25	0247-46-2202	矢祭町
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町 8 - 1	0242-27-2472	会津若松市
若松城天守閣	会津若松市追手町 1 - 1	0242-27-4005	会津若松市
茶室麟閣	会津若松市追手町 1 - 1	0242-27-4005	会津若松市
会津町方伝承館	会津若松市大町 2 - 8 - 8	0242-22-8686	会津若松市
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸 344 - 4	0242-65-2481	猪苗代町
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原 7503 - 1	0241-24-3821	喜多方市
喜多方蔵の里	喜多方市字押切 2 丁目 109	0241-22-6592	喜多方市
喜多方市美術館	喜多方市押切 2 丁目 2	0241-23-0404	喜多方市
喜多方市カイギュウランドたかさと	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163	0241-44-2924	喜多方市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊 417	0241-44-2765	喜多方市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台 number / 下 842	0242-84-1233	会津坂下町
ほっと i n やないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙 151 - 1	0241-41-1077	柳津町
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲 149	0242-54-2368	会津美里町
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上 418	0241-52-2165	三島町
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原 1	0241-58-1677	昭和町
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲 4681	0241-62-3848	南会津町
久川城資料館	南会津町青柳字久川 23	0241-76-2191	南会津町
奥会津民俗館 南郷館	南会津町界字川久保 552	0241-73-2829	南会津町
奥会津民族館 館岩館	南会津町松戸原 55	0241-78-2110	南会津町
奥会津民族館 伊南館	南会津町青柳字久川 24	0241-76-7719	南会津町
檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原 887 - 2	0241-75-2342	檜枝岐村
会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田 33	0241-86-2175	只見町
只見町ブナセンター	只見町字町下 2590	0241-72-8355	只見町
河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台 850 - 5	0241-82-2870	只見町
相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先 13	0244-37-2191	相馬市
鹿島歴史民俗資料館 (廃止)	南相馬市鹿島区西町 3 - 1	0244-46-4281	南相馬市
埴谷島尾記念文学資料館 (休館中)	南相馬市小高区本町 2 - 89 - 1	0244-44-3049	南相馬市
葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合 11	0240-29-2008	葛尾村

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
双葉町歴史民俗資料館（休館中）	双葉町大字新山字本町 27-1	0240-33-4763	双葉町
大熊町民俗伝承館（休館中）	大熊町大字下野上字大野 669-3	0240-32-3011	大熊町
富岡町歴史民俗資料館（休館中）	富岡町大字本岡字王塚 622-1	0240-22-2626	富岡町
檜葉町歴史資料館（休館中）	檜葉町大字北田字鐘突堂 5-4	0240-25-2492	檜葉町
いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田 3-1	0246-42-3155	いわき市
いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢 6-1	0246-65-6166	財団法人
いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房 147-2	0246-82-4561	いわき市
いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這 50-1	0246-43-0391	いわき市
いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道 1-39	0246-83-0005	いわき市
いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内 6-1	0246-83-0005	いわき市
いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野 14-16	0246-29-2230	いわき市
原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚 3-183	024-593-0639	財団法人
種徳美術館	桑折町字陣屋 12	024-582-5507	桑折町
東北サファリパーク	二本松市沢松倉 1	0243-24-2336	株式会社
デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内 41	024-971-3900	私人
ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台 100	0248-89-1120	財団法人
（有）大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花 13	0248-76-5857	有限会社
（株）エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字齊藤字仁井道 126	024-942-1138	株式会社
リカちゃんキャッスル	小野町小野新町中通 51-3	0247-72-6364	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖 59	0248-23-2100	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生館 2	0248-23-3015	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原 160-13	0247-43-1480	有限会社
會津宮泉酒造（旧会津酒造歴史館）	会津若松市東栄町 8-7	0242-26-0031	株式会社
会津葵シルクロード文明館	会津若松市追手町 4-6	0242-27-1001	株式会社
（社）福島県伝統産業会館	会津若松市大町 1-7-3	0242-24-5757	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市市寺町 4761	0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹 7294-4	0241-24-3576	私人
うるし美術博物館	喜多方市市東町 4095	0241-24-4151	株式会社
御蔵入細井家資料館	南会津町静川字風下甲 175	0241-62-0906	私人
福島さくら遊学舎	三春町大字鷹巣字瀬山 213	0247-61-6345	株式会社

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

ア 県設置

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46	024-957-2111	福島県
福島県会津自然の家	会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1	0242-83-2480	福島県
福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山 53	0246-32-7700	福島県

イ 教育施設

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火 6-1	0248-36-2331	文部科学省
国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原 7136-1	0242-62-2530	文部科学省
市町村（条例）設置	※27 施設（別掲）		
他県設置等	※3 施設（別掲）		

《市町村（条例）設置 27 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
福島県青少年会館	福島市黒岩字田部屋 53-5	024-546-8311	公益財団法人
福島市社会教育会館「こぶし荘」	福島市庭坂字砥石山 40-13	024-591-3366	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作 1	024-597-2951	福島市
福島市勤労青少年ホーム	福島市入江町 1-1	024-531-6257	福島市
福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館	福島市早稲町 1-1	024-524-3131	福島市
二本松市青年の家	二本松市榎戸 1-92	0243-23-5121	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸 1-92	0243-23-5121	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石 3-1	0243-23-3721	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来 39-1	0243-33-2611	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒 82	024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西 112	024-982-2115	郡山市
郡山市勤労青少年ホーム	郡山市麓山 1 丁目 8-4	024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森 20	0248-79-2187	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎 44	0248-63-2154	須賀川市
須賀川市ふれあいセンター	須賀川市長祿町 79	0248-72-0200	須賀川市
鏡石町ふれあいの森公園	鏡石町堂前 90-1	0248-83-2381	鏡石町
鏡石町勤労者青少年ホーム	鏡石町中央 59	0248-62-2115	鏡石町
羽鳥湖畔オートキャンプ場	天栄村羽鳥字芝草 2-4	0248-85-2033	天栄村
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町字中道 2	0247-72-2125	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川町字当町 418 番地の 1	0247-26-2566	石川町
会津若松市勤労青少年ホーム	会津若松市城東町 14-52	0242-26-6662	会津若松市
会津若松市少年の家	会津若松市城東町 15-62	0242-39-1304	会津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田 3119-1	0241-22-1403	喜多方市
御蔵入の里会津山村道場うさぎの森オートキャンプ場	南会津町糸沢字西沢山 3692-20	0241-66-2108	南会津町
高清水自然公園	南会津町界字長地沢口 4298-12	0241-73-2115	南会津町
三島町生涯学習センター森の校舎カタクリ	三島町西方字上原 3580	0241-48-5577	三島町
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里 15-1	0244-62-3106	新地町

《他県設置等 3 施設》

名 称	所 在 地	電話番号	設置者
越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林 14 林班	0243-24-2561	越谷市
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山 2847-1	0241-78-2311	さいたま市
S Y D ぼんたいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-192	0241-33-2335	財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の

充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収集と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第11節 福島県立図書館

『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』

平成30年度～令和2年度

1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成30年3月に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第3次）』（平成30年度～令和2年度）の基本理念と4つの目標に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

併せて、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んだ。

(1) 図書館協議会

開催日 令和元年12月13日(金) 於：県立図書館
議題等

- ・福島県立図書館協議会会長及び副会長の選出
- ・図書館利用実績について
- ・只見線駅文庫の開設について
- ・台風19号被災支援について
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の取組について

図書館協議会委員名※所属団体等は就任時現在

[任期：令和元年10月21日～令和3年10月20日]

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	佐藤 佐敏	福島大学（人間発達文化学類教授）
	三瓶千香子	桜の聖母短期大学（キャリア教養学科准教授 生涯学習センター長・地域連携センター長）
	佐藤 克也	株式会社福島民報社 （編集局次長兼文化部長）
	小野 広司	福島民友新聞株式会社 （執行役員編集局長）
	三瓶 真二	公募
	森岡 こう	公募
家庭教育	高橋 明子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会（喜多方市教育委員会教育委員）
社会教育	須藤 薫	福島県公共図書館協会 （喜多方市図書館長）
学校教育関係	佐藤 秀美	福島県高等学校長協会 （福島県立いわき光洋高等学校長）
	志村 充代	福島県中学校長会 （郡山市立明健中学校長）

（会長）佐藤 佐敏 （副会長）佐藤 秀美

1 基本理念

『「知の拠点」として、全ての県民の教育と文化の振興を図り、ふくしまの未来をひらきます。』

福島県立図書館は、情報（資料）の提供（貸出・閲覧）やレファレンス等、県民への直接的サービスに努める他、社会（地域）や行政の課題解決に応えるため、「知の拠点」としての責務を果たします。

また、市町村立図書館（未設置自治体にあつては公民館図書室等）の円滑な活動を支援するため、情報（資料）を体系的に収集・保存・提供するとともに、市町村間のネットワーク体制の強化に努めます。そして、子どもの読書活動を推進し、未来を担う子供たちが、人生をより深く生きる力を身に付けられるよう支援するなど、ふくしまの復興の一翼を文化面から担います。

2 福島県立図書館が目指す4つの目標

「基本理念」の実現に向けて定めた、「福島県立図書館が目指す4つの目標」

(1) 県民のための図書館

福島県立図書館は、資料（情報）を収集し、保存し、提供することで、県民の皆さんに役立つ図書館を目指すとともに、全ての人が等しく利用できるサービス体制を目指します。

(2) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う、今とこれからの子どもたちのために、資料（情報）を収集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対話的で深い学びを支えることができる図書館を目指します。

(3) 市町村（図書館・公民館等）を支えるための図書館

県内市町村図書館等に対する協力・支援を充実させることにより、市町村の図書館活動を支えるとともに、ネットワーク体制を推進し、全県的な図書館活動の振興を目指します。

(4) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の情報を収集し、保存し、発信することで、全ての人が、いつでも、どこからでも、「ふくしま」を知ることができる「拠点」となることを目指します。

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や

書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料や福島県人著作の話題性のある資料の収集に努めた。地域資料に関しては通常の書店の販売ルートでは購入できないものなどもあるため、古書店等から伝統資料を購入したり、非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼したり、寄贈を呼びかけるチラシを館内で常設するなど収集に努めた。

行政資料についても各自治体・部局へ収集の依頼を行い、県職員へは全員へメールで要請した。収集した行政資料は、当館ホームページの「県立図書館所蔵 県内行政機関発行資料一覧」で情報提供を行った。「福島県行政資料コーナー」の紹介チラシを作成して館内で配布、グループウェアの掲示板に掲示した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても収集に努めた。寄贈資料に関してはホームページ上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、購入資料についても新地町からいわき市までの津波で被災した沿岸地域の震災前・震災後の様子を撮影した航空写真・衛星写真を収集した。

ウ 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び吹奏楽関係資料のほか、2020年度前期放送・NHK朝の連続テレビ小説「エール」の主人公のモデルとなった古閑裕而関連の資料等を含む61点を収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

エ 児童資料・研究資料の収集

(ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

(イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(平成5年-平成11年)168本を購入し提供している。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況 (単位：種)

区 分	購 入	寄贈・他	計
新 聞	25	56	81
雑 誌	237	776	1,013
官 報 等	3	0	3
合 計	265	832	1,097

資料受入状況 (単位：冊)

区 分	購 入	寄贈・他	計
一 般 資 料	5,223	2,420	7,643
地 域 ・ 行 政 資 料	1,089	4,452	5,541
児 童 資 料	2,133	391	2,524
児童図書研究資料	398	76	474
市町村支援資料	1,269	1,218	2,487
合 計	10,112	8,557	18,669

資料受入状況・推移 (単位：冊)

平成29年度	平成30年度	令和元年度
19,700	18,649	18,669

キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成28年度に創設した寄贈制度。令和元年度は、5団体(企業)から合計780冊の寄贈を受けた。

蔵書統計（資料別・分類別）

（単位：冊）

分類	区分	30年度累計	元年度増加	元年度除籍	利用替え	元年度累計
一般資料	0 総記	32,599	384	1,401	0	31,582
	1 哲学	26,287	316	30	0	26,573
	2 歴史	65,311	990	10	0	66,291
	3 社会科学	107,908	1,798	156	0	109,550
	4 自然科学	37,214	876	39	0	38,051
	5 工学・工業	36,466	895	385	0	36,976
	6 産業	29,025	588	12	0	29,601
	7 芸術	41,593	810	16	0	42,387
	8 語学	9,634	131	9	0	9,756
	9 文学	93,596	855	14	0	94,437
	計	479,633	7,643	2,072	0	485,204
地域資料	0 総記	18,409	365	14	0	18,760
	1 哲学	2,757	98	0	0	2,855
	2 歴史	38,518	1,121	7	6	39,638
	3 社会科学	66,865	1,509	2	0	68,372
	4 自然科学	10,119	250	0	0	10,369
	5 工学・工業	15,094	396	2	0	15,488
	6 産業	22,334	702	2	0	23,034
	7 芸術	17,205	571	0	0	17,776
	8 語学	926	10	0	0	936
	9 文学	28,707	519	1	0	29,225
	計	220,934	5,541	28	6	226,453
児童資料	研究資料	36,978	474	1	11	37,462
	児童図書	119,003	2,524	55	-1,502	119,970
	計	155,981	2,998	56	-1,491	157,432
逐次刊行物資料	雑誌	170,035	5,042	185	-6	174,886
	新聞合本	15,564	144	0	0	15,708
	新聞記事ファイル	3,832	2	0	0	3,834
	計	189,431	5,188	185	-6	194,428
特殊文庫	70,272	0	0	0	70,272	
館内用計	1,116,251	21,370	2,341	-1,491	1,133,789	
市町村支援計	62,386	2,487	683	1,491	65,681	
合計	1,178,637	23,857	3,024	0	1,199,470	

3 館内奉仕

開館日は286日、入館者は172,464人、1日平均603人の利用があった。前年度比において0.9ポイントの減であるが、現状維持と捉えている。ただし、震災前（平成22年度）に比べその回復度は7割程度であり、利用向上傾向にはない。

入館者数

開館日数	286日
入館者数	172,464
（1日平均）	603

入館者数・推移

（単位：人）

平成29年度	平成30年度	令和元年度
164,502	174,034	172,464

(1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常の生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けており、総件数は前年度より1,000件ほど増加した。また、近年職員の館内研修の強化を図っている。

調査相談件数 (単位：件)

	一般・地域・逐刊	児童資料	小 計
口 頭	7,516	3,597	11,113
電 話	1,544	35	1,579
文 書	44	0	44
F A X	23	0	23
電子メール	177	2	179
合 計	9,304	3,634	12,938

調査相談件数・推移 (単位：件)

平成29年度	平成30年度	令和元年度
12,074	11,949	12,938

当館のホームページについては、全体的にアクセス件数が伸びている。特に「蔵書検索」においては前年度より13万件増えている。アクセス件数の増加の要因としては、SNSによる情報の発信と、受取館指定サービスなどのWeb環境を活用したサービスの提供が影響しているものと捉えている。また、県内図書館ネットワークの環境基盤となっていることも考えられる。

ホームページアクセス件数 (単位：件)

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
トップページ	270,257	317,481	334,534
蔵 書 検 索	529,594	655,110	786,099
横 断 検 索	374,626	501,635	530,959
デジタルライブラリー	3,880	5,036	5,315
こどものへや	3,383	2,651	2,728
利 用 案 内	14,595	20,362	19,132

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第3次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

また、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、3月4日(水)より、閲覧席の削減や定期的な換気などの対策と、咳エチケット等の呼びかけに努めた。

(3) 館外個人貸出

貸出冊数は158,364冊、貸出者数は延べ41,712人で前年度より増加した。登録者数は13,813人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、11件、98冊と前年度より減少した。

館外個人貸出状況

分 類	冊数(冊)	構成比 (%)
総 記	2,624	1.7

分 類	冊数(冊)	構成比 (%)
哲学・宗教	4,566	2.9
歴史・地理	8,057	5.1
社会科学	12,629	8.0
自然科学	7,925	5.0
工学・工業	7,941	5.0
産 業	4,107	2.6
芸 術	8,123	5.1
語 学	1,362	0.9
文 学	21,606	13.6
地 域 資 料	7,568	4.8
新 聞 雑 誌	7,487	4.7
小 計	93,995	59.4
児 童	64,369	40.6
合 計	158,364	100.0

館外個人貸出状況・推移

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
冊 数 (冊)	150,699	155,550	158,364
のべ人数 (人)	39,979	41,513	41,712

館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

区 分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	合 計
新 規	3,169	3,128	3,104	9,401
更新者	1,408	1,530	1,474	4,412
合 計	4,577	4,658	4,578	13,813

館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人)

平成29年度	平成30年度	令和元年度
13,733	13,824	13,813

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件数 (件)	冊数 (冊)
官 公 庁 関 係	3	76
図 書 館 そ の 他	28	327
会 社 ・ 事 業 所	32	263
報 道 関 係	0	0
学 校	64	204
計	127	870

特別貸出状況・推移 (単位：冊)

平成29年度	平成30年度	令和元年度
755	433	870

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。「本のひろば」のコーナーでは「平成をふりかえる」「環境問題を考える」「天才・偉人たちの伝記」など7回実施した。時事展示として、「科学ではたらく」「子どもたちの教科書を見てみよう!」「万葉集を知る～「令和」改元を記念して」「明智光秀とその時代」など6回実施。ミニ展示としては、美しい写真により編集された「美しき図鑑の世界」を実施した。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」においては、「再生可能エネルギーを知る」など新たに3本を作成するとともに6本を更新し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和元年11月3日(日)には図書館見学会を実施し県立図書館の役割や機能について紹介するとともに書庫を案内した(参加者7名)。また、貴重資料を紹介する機会として、平成29年2月に開設した「長田弘文庫見学会」を11月10日(日)に実施した(参加者4名)。

(6) 地域資料

平成30年に没後70年を迎えた国際的歴史学者・朝河貫一博士(1873-1948)の功績を称え、令和元年度も「朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会」を開催した。講演会に合わせて関連のある所蔵資料を展示した。また、出張展示として「朝河貫一資料展示セット」について二本松市立図書館、福島県立安積高校、早稲田大学の3機関への貸出を行った。

企画展示は「ふくしま観光ガイドブック展」を開催した。明治から昭和に発行された福島県内の観光ガイドブックや絵葉書を展示したほか、県内各市町村発行のオリジナルティあふれる観光ガイドのパンフレット類の配布を行った。

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられるため、資料の内容細目データを入力したり、福島県史や県内各市町村史の目次データを当館ホームページで公開したりしているが、当館のホームページにアクセスすれば利用者自身が自分で調べたいことの答えにたどりつけるように、データ入力の実を図った。

貴重資料のデジタル化も行っており、「郷土誌 飯曾石橋村」など8点、「福島旧城郭絵図」など6点についてもデジタル化して閲覧や貸出・複写を容易に行えるように努めた。

また国立国会図書館デジタルコレクションでインターネット公開されている資料の中から、福島県に關係する資料を紹介した「ふくしまについて調べるためのデジタル化資料」をホームページで公開した。

同じく調査相談に役立つパスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規1本「ふくしまの城」、改訂1本「地域の出版文化を支える 福島民報出版文化賞」を作成した。

(7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』(令和元年度版)については、大熊町、双葉町、浪江町の3町以外から回答を得て発行した。

これまで契約しているオンラインデータベースに「聞蔵(きくぞう)Ⅱビジュアル」が加わり、朝日新聞の記事検索の利用が可能になった。

令和元年9月16日(月・祝)敬老の日に、「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」を開催し、国立国会図書館歴史的音源を利用してクラシック、わらべ歌の音楽などを公開図書室データベースコーナーで鑑賞した。同日、「かんたん・べんりなデータベース講座～新聞記事検索を中心に～」を各回4名で2回実施した。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて、「雑誌で感じる春」「開幕、山のシーズン」「いい湯だな」など、季節を配慮するなどして利用者の方に関心を持っていただけのような内容で行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、新規1本「「終活」について」、改訂1本を作成した。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して10代の子どもたちに向けた展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」(毎月第2木曜日)や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「ちいさなおはなしかい」(4月・5月・6月・7月・9月・10月・11月・12月・1月)

参加者合計 129名

・県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」(10月26日(土))を実施した。

参加者 33名

・県立美術館が実施事業「ワークショップマート～ものづくりの庭～」に合わせたおはなしかい「絵本とおりがみであそぼう!」(9月16日(月・祝))を実施した。

参加者 18名

・福島県国際交流協会との連携おはなしかい

「みんないっしょに世界のことばでおはなしかい」(8月17日(土))、「クリスマスのおはなしかい みんないっしょに世界のことばでおはなしかい」(12月7日(土))を実施した。

参加者合計 51名

ウ こども講座
 ・「図書館×福島県文化財センター白河館（まほろん）こども講座 ようかい手長・足長と考える ヒトと自然のかかわり」（6月23日（日））を実施した。

参加者 22名

エ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 646名

オ 職場体験の受け入れ

参加者 8名

カ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。また、教科書改訂にあわせて『福島県立図書館 小学校国語科教科書紹介図書 所蔵一覧』を発行した。

キ ミニコーナーでの展示

企画展示等の資料の展示を行った。

(ア) 「Hyvaa pivaa（こんにちは）！ フィンランド」
 フィンランドに関連する児童書や児童図書研究図書を展示した。

（令和元年5月10日（金）～6月5日（水））

(イ) 「八百板洋子様ご寄贈図書」

福島県出身の児童文学者・八百板洋子氏から寄贈された図書を展示した。

（令和元年12月6日（金）～令和2年2月11日（火））

ク 「子育て支援コーナー」の運営

図書館の子育て世代のための施設案内「ママ・パパこどもマップ」を更新した。また、子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。親子で楽しむ絵本の展示を行った。

ケ 子ども読書と科学のコラボ事業

「spffサイエンス屋台村inコミュニティ福島」（令和元年11月30日（土））に参加し、科学や実験に関連する資料の展示を行った。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」において福島県青少年健全育成条例により推奨された本を「ふくしまのこどもたちへ 福島県「優良図書」として案内した。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は、令和2年3月11日現在で13,124タイトルとなっており、令和元年度増加資料一覧を作成

しホームページで公開した。また、資料紹介として「ブックガイドNo.22」を刊行し利用促進を図った。

また福島民報と福島民友に掲載された震災・原発・復興関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和2年1月31日現在で更新し、3月、ホームページに掲載した。

さらに「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。令和元年度は、栃木市都賀図書館で出張展示が開催された（8月27日（火）～9月29日（日））。

(10) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

複写利用状況

区分	件数（件）	枚数（枚）
自・他館処理	3,503	43,284

複写利用状況・推移

（単位：枚）

平成29年度	平成30年度	令和元年度
49,297	48,507	43,284

(11) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台とこどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図った。また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を12月4日（水）に実施し、インターネット利用の啓発を図った。

インターネット利用状況

（単位：人）

区分	一般	児童	合計
人数	5,276	27	5,303

インターネット利用状況・推移

（単位：人）

平成29年度	平成30年度	令和元年度
6,067	6,210	5,303

(12) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) さようなら平成

（平成31年2月23日（土）～令和元年5月8日（水））

(イ) 「フィンランドの子どもの本～フィンランドと日本の外交樹立100周年～

（令和元年5月10日（金）～6月5日（水））

フィンランドの児童文学作家の作品を展示した。

(ウ) 「福島県文化財センター白河館（まほろん）移動展示 はま・なか・あいづ再生史 -遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-」

（令和元年6月7日（金）～7月3日（水））

福島県文化財センター白河館（まほろん）による展示。大災害に見舞われても生活再建を目指した人びとの「再生の歴史」を、浜通り・中通り・会津の3地方の遺跡から解説した。

(エ) 「レオナルド・ダ・ヴィンチ 芸術と科学の融合～没後500年～」

（令和元年7月5日（金）～9月4日（水））

「万能の人」と呼ばれるレオナルド・ダ・ヴィンチの没後500年にあたり、ダ・ヴィンチが持つ科学的な視点を切り口に、その作品や趣向などを取り上げた当館資料を紹介した。

(オ) 「ふくしま観光ガイドブック展」

（令和元年9月6日（金）～10月2日（水））

明治から昭和に発行された福島県内の観光ガイドブックや絵葉書を展示。大正から昭和に人気を博した吉田初三郎の描いた鳥瞰図を載せたガイドブックや、開通60年を迎えた磐梯吾妻スカイラインの開通間もないころの絵葉書など、貴重な資料を公開した。期間中、県観光交流課と県観光物産交流協会との連携により講演会「四季折々 ふくしま ほんものの旅」（第3回ふくしまを知る連続講座）を開催した。

(カ) 「福島県歴史資料館移動展示 奥会津の古文書 -三島町・金山町・昭和村を中心に-」

（令和元年10月4日（金）～11月10日（日））

福島県歴史資料館による展示。福島県歴史資料館が所蔵する昭和村の古文書や行政文書等を紹介した。

(キ) 「伊達市保原歴史文化資料館移動展示 福島の偉人『三浦謹之助博士』」

（令和元年11月12日（火）～12月4日（水））

伊達市保原歴史文化資料館による展示。

伊達市保原町出身で、明治天皇・大正天皇の診療も行った「三浦謹之助博士」について解説した。

(ク) 「新しい時代を伝える新聞・雑誌展」

（令和元年12月6日（金）～令和2年2月11日（火））

5月に新しい元号「令和」になったことにあわせ、当館が所蔵する新聞・雑誌から新しい時代を迎えた時の記事が掲載された新聞・雑誌を展示した。

(ケ) 「はしれ ディーゼルきかんしゃデーデ 原画展」

（令和2年2月20日（木）～4月1日（水））

福島県立図書館・児童図書館研究会福島支部主催、鈴木まもる、童心社、小野町ふるさと文化の館、日本貨物鉄道株式会社協力、JBBY 希望プロジェクト（日本国際児童図書評議会）協賛で実施。

東日本大震災発生から9年の節目に合わせ、震災直後、福島に燃料を運んだディーゼル機関車を題材

とした絵本『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』（すとうあさえ文 鈴木まもる絵 童心社 2013年刊）の原画展を開催した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と県民の作品等の展示を行った。

(ア) 「福島県の推奨図書 福島県青少年健全育成条例に基づく優良図書」（県立図書館）

（平成31年4月5日（金）～令和元年5月8日（水））

(イ) 「福島大学食農学類のめざすもの」

（令和元年5月10日（金）～6月5日（水））

(ウ) 「JICA 海外協力隊 活動写真パネル展」

（令和元年6月7日（金）～7月3日（水））

(エ) 「YA（ヤングアダルト）の本」（県立図書館）

（令和元年7月5日（金）～9月4日（水））

(オ) 「イタリア風景展」

（令和元年9月6日（金）～10月2日（水））

(カ) 「YA（ヤングアダルト文学）」（県立図書館）

（令和元年10月4日（金）～12月4日（水））

(キ) 「一目瞭然！ 会津美里町の魅力 ～只見線関連展示～」

（令和2年1月5日（日）～2月11日（火））

(ク) 「東日本大震災原子力災害パネル展」

（令和2年2月20日（木）～3月29日（日））

(13) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 講演会

朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会

「朝河貫一が文通したアメリカの女性たちー福島県立図書館所蔵の書簡からー」

開催日 令和元年7月14日（日）

講師 早稲田大学文学学術院 教授 甚野 尚志

参加者 62名

イ ふくしまを知る連続講座

第1回「私の好きなふくしまの山」

開催日 令和元年6月16日（日）

講師 西岡 義治

参加者 120名

第2回「はま・なか・あいづ再生史-遺跡に残された生活環境再建へのあしあと-」

開催日 令和元年6月23日（日）

講師 県文化財センター白河館副主幹 阿部 知己

参加者 62名

第3回「四季折々 ふくしま ほんものの旅」

開催日 令和元年9月15日（日）

第1部 季刊『ふくしまほんものの旅』について

講師 県観光物産交流協会観光部長 武藤 淳

第2部 登山と観光の情報サイト「やまふく」について

講師 県観光交流課副主査 清水 綾子

参加者 42名

第4回「からむし織の里・昭和村歴史紀行ー生業・信仰・戊辰戦争ー」

開催日 令和元年10月27日(日)

講師 公益財団法人県文化振興財団歴史資料課
主幹 渡邊 智裕

参加者 36名

第5回「福島の偉人 三浦謹之助博士～ふくしまに残した足跡と周辺の人々」

開催日 令和元年11月23日(土)

講師 伊達市教育部生涯学習課学芸員 高橋 信一
参加者 43名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成20年度から開催している。

開催日 令和元年7月6日(土)

場 所 福島県立図書館 講堂

内容

(講演1)

・テーマ「そのゴリラ、見えますか?～注意・気づきで安全な生活を送るために～」

・講師 春日 秀朗

(県立医大衛生学・予防医学講座助手)

(講演2)

・テーマ「ご存知ですか? 福島市保健所の正体～県型保健所と市型保健所の違い～」

・講師 中川 昭生

(福島市保健所長・福島県立医科大学臨床教授)

参加者 70名

エ 県民講座

福島大学、福島県立医科大学、法テラス福島との連携による講演会を令和元年度より実施している。

第1回「吉田富三記念福島がん哲学外来10周年記念市民公開講座 明るくがんと生きる」

開催日 令和元年6月22日(土)

講師 順天堂大学 病理・腫瘍学教授 樋野 興夫
参加者 155名

第2回「あなたの相続が変わる!～相続の基礎と相続法改正～」

開催日 令和元年8月4日(日)

講師 志野 大輔 弁護士(福島県弁護士会)

参加者 52名

第3回「消費者トラブルの現状と対処法」

開催日 令和元年11月24日(日)

講師 湯浅 亮 弁護士(鈴木芳喜法律事務所・福島県弁護士会)

参加者 23名

第4回「法教育的『特殊詐欺の見抜き方』」

開催日 令和2年2月9日(日)

講師 岩崎 優二 弁護士(福島県弁護士会・いわき支部)

参加者 25名

オ 朗読会

原國雄元アナウンサーらによる朗読会を2009年から開催していたが、今年度をもって終了した。

第1回「初夏の朗読会」

開催日 令和元年6月9日(日)

参加者:150名

第2回「冬の朗読会」

開催日 令和元年12月8日(日)

参加者:260名

カ 敬老の日 イベント

「歴史的音源(れきおん)で楽しむミニコンサート」

「かんたん・べんりなデータベース講座
～新聞記事検索を中心に～」

「ご家族との思い出の新聞を見てみませんか」

参加者:28名

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計28,380冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また、図書館を新規開館した自治体にも立ち上げの支援を行った。合計23自治体に巡回し、延べ23,976冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な7自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体全ての小学校を始め、希望が寄せられた公民館・認定こども園・中学校・仮設図書館に対して3,051冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、聴覚支援学校平校・西郷支援学校・富岡支援学校・石川支援学校・猪苗代支援学校の5校を巡回し、延べ1,450冊の資料を貸出した。

エ 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業(まほろん冬まつり)に参加し、5冊を貸出した。また、まほろんの企画展示「福島の製鉄」の関連資料を展示した。

オ その他

移動図書館事業のPRを目的に、福島県バス協会が開催したバスまつりに参加して、43冊を貸出した。

移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位：冊数)

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
23,506	26,786	28,380

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和元年度の利用状況は次のとおりである。

喜多方市教育委員会	297 冊
本宮市教育委員会	1,500 冊
川俣町教育委員会	410 冊
湯川村教育委員会	93 冊
平田村教育委員会	181 冊
浅川町教育委員会	500 冊
会津美里町教育委員会	2,177 冊
西会津町教育委員会	330 冊
合 計	5,488 冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和元年度の利用状況は次のとおりである。

学法石川高校	289 冊
会津坂下町教育委員会	305 冊
石川支援学校	18 冊
会津美里町教育委員会	873 冊
浅川町教育委員会	11 冊
合 計	1,496 冊

(4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の会津川口駅と会津柳津駅に設置した。

(5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和元年度は実績なし。

(6) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校及び特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テーマ(延べ277セット)を編成し貸出を行った。

令和元年度の利用状況は、17団体に対し73セット(3,008冊)を貸出した。

(7) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第69巻(通巻273号)を令和2年2月18日に発行した。主たる掲載事項としては、「令和元年 県立図書館の取組み」「令和元年県内図書館の動き」「県立図書館を支える人々」等

イ 令和元年版福島県公共図書館・公民館図書実態調査報告書(データ版)

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館等の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は6,338,087冊で、当該人口1人当たり3.69冊(前年度3.59冊)、年間増加冊数は216,077冊である。また、平成30年度中の貸出図書冊数は、6,682,978冊(当該人口1人当たり3.89冊)である。

ウ 福島県郷土資料情報

第60号を発行。7月に開催した朝河貫一博士から学ぶふくしまの未来講演会「朝河貫一が文通したアメリカ人の女性たち～福島県立図書館所蔵の書簡から～」と、年度内に5回実施した「ふくしまを知る連続講座」の概要について報告した。特集として福島県内の地名を調べる際に役立つ「郷土福島の地名調べ・虎の巻」を掲載した。連載記事としては「福島県立図書館所蔵貴重郷土資料探照 20 明治末期浜通りの郷土誌」、「福島県関係書誌 2019」を掲載した。100部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力と遠隔地返却

協力貸出(他館との資料の貸借)サービス、遠隔地返却(当館からの借受け資料を他館に返却する)サービスを行っている。近年、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる、受取館指定サービスの利用増と相まって、前年度比では若干ポイントを下げているが、市町村図書館を窓口とした遠隔地の県民へのサービス体制は強化されている。

相互貸借状況

(単位：件/冊)

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,029	4,386	409	685	1,438	5,071
借用	149	249	73	111	222	360
小計	1,178	4,635	482	796	1,660	5,431

相互貸借状況・推移

(単位：冊)

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
5,555	6,142	5,431

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し借受けた資料を
県内の公立図書館に返却した冊数）（単位：冊）

平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
6,865	7,578	7,212

(2) 図書館協力事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和元年度は、16 コースを編成し、31 自治体と 2 高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

(3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ 「図書館の意義と基本について」

(イ) 期 日 令和元年 5 月 24 日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 72 名

(オ) 講 師 小野町ふるさと文化の館
副主幹兼司書兼学芸員 籠田 まき子
義務教育課指導主事 川野邊 勝也
県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

(ア) テーマ 「図書館業務に活かす統計と指標
～統計の分析で何が変わるのか～」

(イ) 期 日 令和元年 12 月 6 日(金)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 30 名

(オ) 講 師 筑波大学 准教授 池内 淳

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

(ア) 期 日 令和元年 6 月 20 日(木)～21 日(金)

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 6 名

(エ) 講 師 福島県立図書館職員

(4) 第 17 回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「10 代の図書館利用を考える
～ヤングアダルトを中心に～」

イ 期 日 令和元年 10 月 18 日(金)

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84 名

オ 内 容

事例報告

・テーマ「福島県内のヤングアダルトサービス事例に学ぶ」

・報告者

福島市立図書館 主任司書 加茂 亜子

郡山市中央図書館 主任 仲田 千鶴子

須賀川市中央図書館 司書 小針 望

白河市立図書館 司書 佐藤 志帆

会津若松市立会津図書館 主任主事

石井 杏紗美

喜多方市立図書館 館長 須藤 薫

南相馬市立中央図書館 司書 菊地 伸江

新地町図書館 主任主査兼管理係長兼司書

目黒 美千代

ワールドカフェ

・テーマ 「福島県内のヤングアダルトサービス事例に学ぶ～10 代が利用する図書館～」

・進 行 県立図書館 専門司書 鈴木 史穂

(5) 令和元年度図書館地区別（北日本）研修会

情報化の進展など図書館に関する最新のテーマや地域における課題について研修を行い、図書館における中堅の司書としての力量を高めることを目的として実施している。

ア 期 日 令和元年 11 月 12 日(火)～14 日(木)

イ 会 場 福島県立図書館、白河市立図書館

ウ 参加者 北海道東北地区図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 48 名

エ 内容

基調講演「機能融合が生み出す新しい図書館とは」

講 師 松本大学松商短期大学部 教授 伊東 直登

講義①「求められるハイブリッドレファレンス」

講 師 千葉経済大学短期大学部 教授 齊藤 誠一

講義②「公共図書館とネットワーク情報資源の動向

講師 帝京平成大学 准教授 間部 豊

講義③「ヤングアダルトサービスの意義」

講師 相模原市立図書館 主任 清野 愛子

講義④「高齢者サービスに求められる地域連携の在り方」

講師 川崎市立宮前図書館 課長補佐 舟田 彰

講義⑤・施設見学・演習・グループワーク

・施設見学・演習「図書館サービスの展開と利用促進のための方策」

場所 白河市立図書館

講師 白河市立図書館 館長 田中 伸哉

・演習・グループワーク「図書館サービスの実際～その意義を考える～」

講師 青山学院大学 教授 小田 光宏

白河市立図書館 館長 田中 伸哉

(6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社

会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の市町村立図書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらさわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第12節 福島県立美術館

1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

山口 功	福島県中学校教育研究会美術専門部所属 (平成25年1月1日～)
番匠あつみ	福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属 (平成27年1月1日～)
杉 昭重	前公益財団法人福島県文化振興財団理事長 兼福島県文化センター館長 (平成29年1月1日～)
坂本 節子	福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長 (平成25年1月1日～)
齋藤 勝正	福島県美術家連盟会長 (平成29年1月1日～)
鈴木 仁	日本放送協会福島放送局長 (平成29年8月19日～)
星 眞智子	西会津国際芸術村事務長 (平成27年1月1日～)
清水 眞砂	世田谷美術館分館長 (平成27年1月1日～)
齋藤美保子	郡山女子大学短期大学部副学長・教授 (平成27年1月1日～)

舟木 藤弘 福島県立美術館友の会理事
(平成29年1月1日～)

イ 協議会の開催

- (ア) 期日 令和2年3月6日(金)
(イ) 内容 ・令和元年度事業実施の概要
・令和2年度事業計画案の概要等
・県立美術館の運営等

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

加盟団体	・全国美術館会議 (理事)
	・日本博物館協会 (会員)
	・日本博物館協会東北支部 (監事)
	・東北地区博物館協会 (監事)
	・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的にを行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

令和元年度は25点の作品及び2件の資料を寄贈により収集した。

(1) 収蔵作品点数(令和2年3月31日現在)

海外作品	450点
日本画	363点
洋画	912点
版画	1,148点
立体	145点
工芸	158点
書	39点
素描・下絵	216点
写真	410点
作品合計	3,841点
美術資料	65件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

中山 恵理	郡山市立美術館主任主査 (令和元年12月1日～)
松下 由里	群馬県立近代美術館次長兼学芸係長 (令和元年12月1日～)
三上 満良	元宮城県美術館副館長 (平成23年12月1日～)
水沢 勉	神奈川県立近代美術館長 (令和元年12月1日～)
村田 眞宏	豊田市美術館長 (平成23年12月1日～)

イ 委員会の開催

- (ア) 期日 令和2年2月21日(金)
(イ) 内容 ・平成30年度収集作品の報告
・令和元年度収集候補作品について

(3) 令和元年度収集作品等

ア 美術作品及び美術資料の収集

国内：日本画	酒井白澄	1点
	森田恒友	4点
	結城素明	5点
国内：洋画	森田恒友	2点
	堂本右美	1点
	吉井 忠	2点
国内：立体	佐藤玄々（朝山）	5点
	橋本高昇	1点
国内：工芸	緑川宏樹	3点
国内：素描・下絵	速水御舟	1点
国内：資料	結城素明資料	1件
	伊藤隆三郎資料	1件
	計 25 点、美術資料 2 件	

イ 図書資料の収集

収蔵図書数 61,179 冊

(4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施（虫菌害モニタリングと環境測定）

時期：令和元年6月3日（月）～17日（月）、

8月10日（土）～24日（土）

[報告書は令和元年6月27日（木）、令和元年9月22日（日）に提出]

内容：展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術品の修復

松岡映丘《沼川・入江・薄野・雪路》、平福百穂《赤茄子と芋》の修復を実施したほか、関根正二作品の状態点検調査を実施した。またジョルジュ・ルオー《ミセレーレ》の額を交換した。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 毎月1回、計12回測定

(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計45か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回（版画は年8回）展示替えを行っている。

コレクション展Ⅰ 平成31年3月26日（火）

～令和元年6月23日（日）

春の日本画：速水御舟「晩冬の桜」、村上華岳「早春風景」

特集展示 生誕100年 橋本章：「武装する都市」、「立つ一脱獄囚」

印象派と海外の名品：ピサロ「エラニーの菜園」、

クロード・モネ「ジヴェルニーの草原」

斎藤清の版画：「凝視（猫）」、「地の幸」

追悼 浜田知明と秀島由己男：浜田知明「初年兵哀歌（歩哨）」、秀島由己男「わらべ唄」

コレクション展Ⅱ

特集「美のおもちゃ箱 河野保雄コレクション展」

令和元年6月29日（金）

～9月1日（日）

近代の光と影：青木繁「漁夫晩帰 下図」、岸田劉生「白狗図」、野田英夫「少女」、長谷川利行「芝居小屋」、高橋忠彌「花・鳥・ランプ」、吉井忠「森林帯」、山中春雄「街（横浜）」、鶴岡政男「マスク（仮面）」、麻生三郎「街と人」

ガラス絵の小宇宙：長谷川利行「湯浴する女」、桂ゆき「ブドウとキツネ」、清宮質文「夜明け」、北川民次「教会に集る群れ」、松本榮「辻音楽師（メキシコ）」

美のおもちゃ箱：竹久夢二「花火」、初山滋「へんなぞう」、荻原守衛「洗濯する女」、桂ゆき「躍動するカップ」、中村直人「楽器」、盛秀太郎「こけし」、佐藤玄々（朝山）「青鳩」

関連事業

・特別講演会「生きている河野保雄コレクション」

講師：早川 博明（館長）

日時：令和元年7月28日（日）14時～15時30分

場所：講堂

参加者数：40名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：①堀 宜雄（専門学芸員）

②白木 ゆう美（学芸員）

日時：①令和元年6月30日（日）14時～15時

②令和元年8月4日（日）14時～15時

参加者数：①15名、②10名

コレクション展Ⅲ 令和元年9月7日（土）

～12月27日（金）

森田恒友展関連展示 喜多方美術倶楽部：小川芋銭「鍾馗図」、酒井三良「雪に埋もれつつ正月はゆく」昭和の洋画 吉井忠と仲間たち：麻生三郎「家族」、吉井忠「麦の穂を持つ女」

フランス美術の名品：カミーユ・コロー「ヴィル・ダヴレー」、ジョルジュ・ルオー「超人」

アメリカ美術特集 ベン・シャーンとアンドリュー・ワイエス：ワイエス「松ぼっくり男爵」、ベン・シャーン「ラッキードラゴン」、「リルケ『マルテの手記』より」

現代の版画：加納光於「星 反芻学」、李禹煥「遺跡地にて」、斎藤清「ヌード(4)」

コレクション展Ⅳ 令和2年1月5日（日）

～3月8日（日）

現代の日本画 中野蒼穹小特集：中野蒼穹「武蔵野」、

菊地養之助「縄をなう人」
佐藤玄々（朝山）の彫刻：「巢鶏」、「山嵐」
新収蔵 宮崎進／若松光一郎：宮崎進「北の祭」、若松光一郎「宇宙の記念碑（一）」、ドーミエ「日々の出来事（アクチュアリ）」、ロダン「影の頭部」
海外の版画：シャガール「死せる魂」、ルオー「流れる星のサーカス」
版画 斎藤清／川上澄生：斎藤清「会津の冬(21)」、川上澄生「女と洋燈」
関連事業

- ・トークイベント「宮崎進の作品を語る」
講師：宮崎 とみゑ（作家遺族）、赤松 祐樹（多摩美術大学美術学部非常勤講師）、黒川 創（作家）
司会：荒木 康子（学芸課長）
日時：令和2年2月9日（日）14時～15時
参加者数：15名

(2) 企画展

令和元年度は6回の企画展を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

ア 東日本大震災復興祈念 伊藤若冲展

- (ア) 会期 平成31年3月26日（火）
～令和元年5月6日（月・祝）
開催日数 38日（令和元年度 32日）
- (イ) 分野 絵画、版画、資料
- (ウ) 展示数 111点
- (エ) 主催 東日本大震災復興祈念「伊藤若冲展」実行委員会〔構成：福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、福島民友新聞社、福島中央テレビ〕
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,500(1,300)円、
学生 1,100(900)円、高校生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 116,344名
- (キ) 概要

東日本大震災復興を祈念し開催した伊藤若冲の回顧展。京都国立博物館で「伊藤若冲展」を企画した狩野博幸氏の監修により、重要文化財の『蓮池連地図』、『果蔬素涅槃図』を始め、海外からも借用し、水墨画を中心とした百点以上の作品により構成。若冲作品が最も早い使用例とされる、プルシアン・ブルー（紺青）の絵具（国重文）も参考展示した。

- (ク) 関連事業
・講演会「今を生きる若冲絵画-“旦那芸”の凄み-」
講師：狩野 博幸（美術史家、展覧会監修者）
日時：平成31年4月16日（火）14時～15時30分
場所：講堂
参加者数：250名
- ・A・O・Z（アオウゼ）連携企画レクチャー

- ①「伊藤若冲の芸術と生涯」
講師：伊藤 匡（専門員）
日時：平成31年3月12日（火）14時～15時30分
場所：A・O・Z 大活動室
参加者数：160名

- ②「伊藤若冲展 見どころはここ！」
講師：紺野 朋子（副主任学芸員）
日時：平成31年4月23日（火）14時～15時30分
場所：A・O・Z 大活動室
参加者数：180名

- ・ぬりえコーナー
日時：展覧会会期中
場所：エントランスホール
参加者数：約47,000名

イ やなぎみわ展 神話機械

- (ア) 会期 令和元年7月6日（土）～9月1日（日）
開催日数 51日
- (イ) 分野 写真、映像、立体、演劇
- (ウ) 展示数 44点
- (エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ
協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、JAふくしま未来、JAグループ福島
助成 芸術文化振興基金
協力 京都造形芸術大学、香川高等専門学校、群馬工業高等専門学校、福島県立福島工業高等学校、京都工芸繊維大学 ROBOCON 挑戦プロジェクト、一色事務所、堀内カラー、被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会
企画協力 一般社団法人 MIWA YANAGI OFFICE
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、
高校生 500(400)円、小・中学生 300(200)円
※（ ）内は前売料金または20名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 4,116名
- (キ) 概要

1990年代から現在に至るまで、現代美術のみならず演劇界でも忘れられないアートシーンを毎回創り出してきた美術家やなぎみわ(1967-)。《エレベーター・ガール》や《マイ・グランドマザーズ》などの写真作品で世界的な評価を得たが、2010年からは演劇プロジェクトを始める。本展は10年ぶりの美術館における個展となった。

本展では、舞台作品と並行し、日本神話をモチーフに福島市内の果樹園で桃を撮影した新作シリーズが、日本で初めてまとめて紹介されるとともに、巡回展各地の学校等（福島県立福島工業高等学校）と連携して制作されたマシンによる神話世界《神話機械》が、会場に生み出された。4台のマシンによる無人公演を1日3回実施。作家と地域を繋げ、巻き込みながら展覧会を作り上げる有意義な機会となった。

(ク) 関連事業

- ・やなぎみわトークショー
講師：やなぎみわ、聞き手：早川 博明(館長)
日時：令和元年7月6日(土)14時～
場所：講堂
参加者数：82名
- ・ライブパフォーマンス『MM』
構成・演出：やなぎみわ、出演：高山 のえみ、
音楽：内橋 和久
日時：①令和元年7月13日(土)19時30分～
②令和元年7月14日(日)19時30分～
場所：企画展示室
参加者数：①91名、②98名
- ・ロボット教室
講師：吉田 健(福島県立福島工業高等学校教諭)
日時：令和元年8月3日(土)13時～16時30分
会場：福島県立美術館、福島県立福島工業高等学校
参加者数：9名
- ・触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ
「神話と機械を見聞きする」
講師：やなぎみわ、嶋村 泰(ミュージシャン)
日時：令和元年9月1日(日)
①10時30分～12時、②14時～15時30分
場所：企画展示室
参加者数：①10名、②10名
(いずれも視覚障がい者と晴眼者含む)
- ・担当学芸員によるギャラリートーク
講師：荒木 康子(学芸課長)
日時：①令和元年7月27日(土)15時～16時
②令和元年8月10日(土)15時～16時
場所：企画展示室
参加者数：①10名、②10名
- ・ケンピ桃マルシェ
会期中、庭園で桃をはじめとする福島の野菜の
販売をGDMふくしま、JAふくしま未来の協力を得
て行った。
実施日：令和元年7月6日、13日、14日、20日、
8月2日、3日、24日、31日
- ・福島のおすすめ桃メニュー
市内のレストランやバーとともに、展覧会限定
の桃メニューを展開し、桃のピザやカクテルなど
を提供した。

ウ 生誕120年・没後100年 関根正二展

- (ア) 会期 令和元年9月14日(土)～11月10日(日)
開催日数50日
- (イ) 分野 絵画
- (ウ) 展示数 205点
(関根作品100点、資料57点、関連作家48点)
- (エ) 主催 福島県立美術館・福島民報社・福島テレビ

- (オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円、
高校生500(400)円、小・中学生300(200)円
※()内は20名以上の団体料金

- (カ) 観覧者数 6,235名

(キ) 概要

関根正二は、1919年にわずか20歳2ヶ月で夭折した洋画家である。関根は、福島県白河に生まれ、9歳で東京に移住し、わずかな期間美術研究所に通った程度であるが、卓越した素描力と鮮烈な色彩による謎めいた絵画世界をつくりあげ、代表作《信仰の悲しみ》(大原美術館)は国重要文化財に指定されている。

当館では3度目、20年ぶりの回顧展となる本展は、新発見作品、資料を含め、過去最大の展覧会となった。今までつながりがわかりづらかった関根の作品世界が、新発見資料や作品により、少しずつその連続性が見えるようになり、彼の絵画世界の謎を再考する好機であった。

(ク) 関連事業

- ・講演会「永遠の、《子供》と関根正二」
講師：貝塚 健
(石橋財団アーティゾン美術館教育普及部長)
日時：令和元年9月14日(土)14時～15時30分
場所：講堂
参加者数：90名
- ・ゲストトーク「油彩画の技法と読み解くヒント」
講師：田中 善明(三重県立美術館学芸普及課長)
日時：令和元年10月6日(日)14時～15時30分
場所：企画展示室
参加者数：37名
- ・ゲストトーク「関根正二の『塗り残し』」
講師：小林 俊介(山形大学教授、画家)
日時：令和元年10月20日(日)14時～15時30分
場所：企画展示室
参加者数：45名
- ・担当学芸員によるギャラリートーク
講師：堀 宜雄(専門学芸員)
坂本 篤史(主任学芸員)
日時：①令和元年9月22日(日)14時～15時
②令和元年10月19日(土)14時～15時
③令和元年11月1日(金)14時～15時
場所：企画展示室
参加者数：①21名、②17名、③22名

エ 森田恒友展

- (ア) 会期 令和元年11月23日(土・祝)
～令和2年1月19日(日)
開催日数43日
- (イ) 分野 日本近代洋画・日本画
- (ウ) 展示数 256点
- (エ) 主催 福島県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、福島民友新聞社、福島中央テレビ

協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
出品協力 東京国立近代美術館

助成 公益財団法人ポーラ美術振興財団

- (カ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円、
高校生 600(500)円、小・中学生 400(300)円
※()内は 20 名以上の団体料金

(キ) 観覧者数 2,292 名

(ク) 概要

埼玉県熊谷市出身の森田恒友は、不同舎や東京美術学校に学んだ後にヨーロッパに留学し、セザンヌの紹介者として知られた。また一方で、文芸、俳句と密接に関わって出版界で漫画家・挿絵画家としても活躍した。後半生は関東平野を題材にした穏やかな日本画を描いた。

恒友はまた、大正初期に会津地方に4度訪れ、会津若松城址や磐梯山周辺、阿賀川畔を題材に多くの作品を生み出した、福島ゆかりの作家でもある。埼玉県立近代美術館との共同企画により新資料が多く発見され、大規模な回顧展が実現した。

会期中、喜多方在住の作家による漫画絵巻物制作ワークショップを開催し、好評を得た。また、喜多方市美術館では、協力事業として「森田恒友関連展示」を行った。

県ゆかりの作家として、また近代画家として再評価する機会となった。

(ケ) 関連事業

・ゲストトーク

「小さいながらも真の画人―森田恒友の軌跡」

日時：令和元年12月21日(土)14時～

場所：企画展示室

パネリスト：吉岡 知子(埼玉県立近代美術館学芸員)

参加者数：30名

・担当学芸員によるギャラリートーク

講師：①増渕 鏡子(専門学芸員)

②増渕 鏡子(専門学芸員)

日時：①令和元年12月7日(土)14時～15時

②令和2年1月11日(土)14時～15時

場所：企画展示室

参加者数：①20名、②20名

・創作プログラム「まんが絵巻をつくろう！」

講師：久松 知子(アーティスト)

日時：令和元年11月24日(日)10時～15時

場所：実習室

参加者数：16名

オ Gallery F 2020 コレクション再発見

①生誕100年 建島覚造展 かたちの探求

②アートカード★チャレンジ

(ア) 会期 令和2年2月8日(土)～3月8日(日)

開催日数 25日

(イ) 分野 ①立体、②絵画、版画、工芸

(ウ) 展示数 ①9点、②24点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般 280(220)円、高校生以下無料

(カ) 観覧者数 1,125名

(キ) 概要

「Gallery F」とは、当館のコレクションの中から、今まで紹介できなかった作品や新収蔵・寄託作品を取り上げ、あるいはテーマを絞って掘り下げる小さな展覧会を意味する。4回目の今年は彫刻家、建島覚造とアートカードを使ったコレクション再発見の試み。

①「生誕100年 建島覚造」展では、日本の現代彫刻を代表する彫刻家建島覚造(たてはた・かくぞう 1919～2006)の、当館が所蔵する作品を中心に展示し、かたちと素材を探求した建島覚造の魅力を紹介した。

②「アートカード★チャレンジ」では、福島市立野田中学校3年生の生徒たちが、鑑賞教材アートカードを使って考えた展覧会を、実際に当館のコレクションを展示して再現した。

(ク) 関連事業

・ギャラリートーク

講師：酒井 哲朗(名誉館長)

日時：令和2年2月8日(土)14時～15時

場所：企画展示室

参加者数：18名

・ギャラリートーク

講師：三上 満良(元宮城県美術館副館長)

日時：令和2年2月22日(土)14時～15時

場所：企画展示室

参加者数：25名

・福島市立野田中学校生徒によるギャラリートーク

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

カ ブダベスト国立工芸美術館名品展

ジャポニズムからアール・ヌーヴォーへ

(ア) 会期 令和2年3月24日(火)～5月10日(日)

開催日数 43日(元年度7日)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月18日(土)をもって展覧会中止(開催日数23日)。

(イ) 分野 近代西洋工芸

(ウ) 展示数 193点

(エ) 主催 ジャポニズム福島展実行委員会[構成：福島県立美術館、福島中央テレビ、福島民友新聞社]

協賛 福島トヨタ自動車、佐藤燃料、福島県商工信用組合、JAグループ福島

(オ) 観覧料 一般 1,300(1,100)円、大学生・専門学校生 1,100(900)円、小・中・高校生 650(500)円

※()内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 1,409名(令和元年度)

(キ) 概要

日本の美術がどのようにして西洋に影響を与えたか、そして日本美術を西洋がどのように解釈したか、その歴史を辿る内容。ジャポニズムとアール・ヌーヴォーをテ

ーマに、ブダペスト国立工芸美術館の所蔵品から、ティファニー、ガレ、ドーム兄弟やラリックを含めた作品とともに、ジョルナイ陶磁器工房などハンガリーを代表する作品群を含めて約200点を紹介した。

(7) 関連事業

- ・講演会「開幕記念講演会」
 - ・講演会「海を渡った日本工芸とジャポニスム」
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

令和元年度は、県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、収集作家（関根正二、森田恒友、喜多方美術倶楽部関係の作家たち、山内神斧、宮崎進、建昌覚造、亜欧堂田善など）の調査を重点的に行った。

5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

団体総数は248団体8,408人で、そのうち解説を行ったのは60団体2,651人である。

(2) 鑑賞講座

館長講座「古典に帰れ—西洋美術の巨匠たち—」

第1回

「バロック（3） プッサン、ロラン、ラ・トゥール」

令和元年5月18日（土） 参加者数：28名

第2回

「ロココ（1） ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール」

令和元年7月20日（土） 参加者数：29名

第3回

「ロココ（2） ホガーズ、レノルズ、カナレットなど」

令和元年9月21日（土） 参加者数：26名

第4回

「新古典派とロマン派 アングル、ドラクロワなど」

令和元年11月23日（土） 参加者数：25名

第5回

「英独西の近代巨匠 ターナー、フリードリヒ、ゴッダ」

令和2年1月18日（土） 参加者数：25名

第6回

「19世紀写実派 ミレー、コロー、クールベ」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施している。

ア 「若沖ぬりえに挑戦！」

平成31年3月26日（火）～令和元年5月6日（月・祝）

・参加者数：約47,000名

イ 「イメージの手がかり～おもしろ紙コップを作る」

令和元年5月26日（日）

・講師：横山 信人（ベニヤ板造形作家）

・参加者数：11名

ウ 「橋本章的カオスとベタ塗り」

令和元年6月1日（土）、2日（日）、8日（土）

・講師：大町 亨（美術家、モダンアート協会会員）

・参加者数：16名

エ 「ロボット教室」

令和元年8月3日（土）

・講師：吉田 健（県立福島工業高等学校教諭）

・参加者数：9名

オ 「大地の絵具で絵を描こう」

令和元年8月17日（土）

・講師：佐藤 香（現代美術家）

・参加者数：20名

カ 「テンペラ絵具を作って描こう」

令和元年9月29日（日）、10月6日（日）、13日（日）、14日（月・祝）

・講師：小林 俊介（山形大学教授、画家）

・参加者数：13名

キ 「木炭で自画像を描く」

令和元年10月19日（土）

・講師：大北 孝（主任学芸員）

・参加者数：11名

ク 「まんが絵巻をつくろう」

令和元年11月24日（日）

・講師：久松 知子（アーティスト）

・参加者数：16名

ケ 「組み木のおもちゃを作ろう！」

令和元年12月15日（日）

・講師：古川 英樹（創作おもちゃ作家）

・参加者数：21名

コ 「冬に透ける街～水彩絵の具の光に透ける感覚を楽しもう～」

令和2年2月15日（土）

・講師：小原 風子（画家・絵本作家）

・参加者数：11名

サ 「写真のような鉛筆デッサン」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(4) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通してこどもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元をはかる。

令和元年度は、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・適応指導教室合わせて7校（参加者延べ137名）で開催した。ワークショップ作品は令和2年1月25日（土）～2月2日（日）の期間、当館企画展示室Bにて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 作家：三浦 麻梨乃（銅版画家）

プログラム：版画でつづる「ささやかな幸せ」

内容：自分の好きなもの、大切なものをモチーフとして、日々の出来事をドライポイントの技法で表現した。

開催校・開催日・人数：

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和元年10月3日（木） 13名

郡山市立御館中学校（2年生）

令和元年10月7日（月） 10名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和元年11月25日（月） 13名

福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）

令和元年11月26日（火） 13名

郡山市立御館中学校（2年生）

令和元年11月28日（木） 10名

(イ) 作家：坂内 直美（画家・女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻助手）

プログラム：「好きなもので自画像を描いてみよう！」

内容：自分の好きなものと自分の顔をキャンバス（幼稚園では画用紙）にミクストメディアで表現した。

開催校・開催日・人数：

二本松市立渋川小学校（3年生）

令和元年9月12日（木） 12名

川俣町立富田幼稚園（5歳児）

令和元年10月8日（火） 23名

福島県立相馬東高等学校（美術部）

令和元年10月26日（土） 3名

会津若松市立第一中学校（美術部）

令和元年11月2日（土） 15名

会津若松市立第一中学校（美術部）

令和元年11月9日（土） 15名

会津若松市立第二中学校（美術部）

令和元年11月16日（土） 10名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。令和元年度も前年度に引き続き、前期（福島県教育センター）、後期（県立美術館）の2回に分けて開催した。

前期日時：令和元年8月21日（水）13時～14時

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅠ」

大北 孝（主任学芸員）

後期日時：令和元年10月25日（金）10時～15時45分

講義・演習「学校と美術館の連携活動についてⅡ」

演習「鑑賞用教材を活用した鑑賞活動」

橋本 淳也（教育センター指導主事）、大北 孝

（主任学芸員）、白木 ゆう美（学芸員）

参加者：小学校教諭6名、中学校教諭3名、

高等学校教諭1名 合計10名

(5) 美術館への年賀状展

県内の小中高高校生から寄せられた手作り年賀状を全てエントランスホールに展示した。

会期：令和2年1月12日（日）～31日（金）

応募総数：213通 観覧者数：541名

(6) 博物館実習

学芸員資格取得のため実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時：令和元年8月20日（火）～25日（日）

受講者数：4名

(7) 友の会、協力会との連携事業

ア 福島県立美術館友の会 通常総会の開催

日時：令和元年5月20日（月）

場所：講義室

参加者数：18名（早川 博明（館長）、荒木 康子（学芸課長）参加）

イ 伊藤若冲展ボランティア

友の会有志を中心とするメンバーが、会期中の土日、荷物一時預かり及び観光紹介のボランティア活動を行った。

参加者数：会期中の土日18回 延べ72名

ウ ワークショップマート ～ものづくりの庭～

<NPO法人福島県立美術館協力会との共催>

漆作家や自家焙煎珈琲店、綿花農家など様々な異業種事業者が当館収蔵作品をテーマに「ものづくりワークショップ」を美術館エントランスホールで開催した。

また、当日は、友の会有志が、参加者への案内、アンケート調査等のボランティア活動を行った。

日時：令和元年9月16日（月・祝）10時～15時

場所：エントランスホール

企画・ディレクション：フライデースクリーン

参加者数：約1,000名

エ 友の会研修旅行

日時：令和元年9月28日（土）

旅行先：秋田県立近代美術館、
深横手市増田まんが美術館
参加者数：33名（早川 博明（館長）、伊藤 匡（専門員）ほか参加）

オ 友の会実技講座「木炭で静物を描く」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

カ アート チャリティ バザー

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、安い価格で販売した。バザーの収益金によりポータブル・マイクセットを購入し、美術館に寄付した。

日時：令和元年12月8日（日）9時30分～13時

場所：エントランスホール

参加者数：約150名

キ ミュージアム・コンサート

「ラテンジャズでホットな春を！」

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

ク 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞

ワークショップ「神話と機械を見聞きする」

<NPO 法人福島県立美術館協力会との共催>

「やなぎみわ展」関連事業として、作家を講師に開催した。見える人、見えない人一緒に、やなぎみわが表現する神話の世界を視覚だけでなく五感で体感しようという企画。まずは《神話機械》の4体のマシンを視覚障がい者、晴眼者が一緒に触察したり、お互いに話をしたりしながら鑑賞。その後、ミュージシャンの嶋村泰に加わってもらい、音と言葉によるパフォーマンス「黄泉比良坂」を参加者全員で作成し、上演した。

日時：令和元年9月1日（日）

①10時30分～12時、②14時～15時30分

場所：企画展示室

講師：やなぎみわ、嶋村 泰（ミュージシャン）

参加者数：①10名、②10名

（いずれも視覚障がい者と晴眼者含む）

ケ アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を行っている。令和元年度の小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含めた貸出総数は117か所、612セットである。

(8) その他の事業

ア 福島県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」、「色であそぼう」

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館展示室及び実習室の「鑑賞と工作のワークショップ」

日時：令和元年10月26日（土）

場所：福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数：33名

イ 「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

令和元年7月9日（火）～12日（金）

福島市立松陵中学校 2年生 2名

福島市立岳陽中学校 2年生 2名

ウ 委員等

- ・いわき市立美術館収集評価委員（荒木 康子学芸課長）
- ・郡山市立美術館協議会委員（荒木 康子学芸課長）
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員（伊藤 匡専門員）
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員
（増淵 鏡子専門学芸員）
- ・相馬市史調査編さん委員（増淵 鏡子専門学芸員）
- ・須賀川市立博物館資料収集選定委員
（増淵 鏡子専門学芸員）
- ・須賀川市文化財保護審議会委員
（増淵 鏡子専門学芸員）
- ・一般財団法人可月亭庭園美術館評議員
（増淵 鏡子専門学芸員）
- ・福島市写真美術館運営委員（紺野 朋子主任学芸員）
- ・西会津国際芸術村公募展審査員（大北 孝主任学芸員）
- ・裏磐梯猪苗代フォトコンテスト審査委員
（坂本 篤史主任学芸員）

エ 寄稿、発表、受賞等

- ・2019年美連協大賞（美術館連絡協議会）
- 「生誕120年・没後100年 関根正二展」大賞受賞
- 「森田恒友展」優秀カタログ賞-美連協展部門-受賞
- ・福島大学行政政策学類「博物館経営論」講師
平成31年4月12日（金）～令和元年7月26日（金）
全15回（伊藤 匡専門員）
- ・諸橋近代美術館講座
「イメージの探索者 マックス・エルンスト」
令和元年6月1日（土）（橋本 恵里学芸員）
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ講座
「関根正二展 見どころはここ！」
令和元年9月20日（金）（坂本 篤史主任学芸員）
- ・第8回福島市医師会市民文化講演会
「福島県立美術館のコレクションから一ワイエスとベン・シャーン」
令和元年10月26日（土）（荒木 康子学芸課長）
- ・福島県立医科大学
「博物館・美術館にみる芸術と文化」講師
①令和元年11月20日（水）（荒木 康子学芸課長）
「福島県立美術館コレクションから」
②令和元年11月27日（水）（増淵 鏡子専門学芸員）
「企画展 森田恒友展について」
③令和元年11月30日（土）（増淵 鏡子専門学芸員）
「展覧会見学と美術館バックヤードツアー」
- ・桜の聖母短期大学生涯学習センター講座
「アンドリュウ・ワイエスの世界」
令和元年11月22日（金）（坂本 篤史主任学芸員）

- ・山形大学地域教育文化学部「キャリア教育」講師
「美術館教育普及の仕事について」
令和元年12月5日(木) (白木 ゆう美学芸員)
- ・埼玉県立近代美術館レクチャー
「恒友をめぐる人と自然—会津を中心に」
令和2年2月23日(日) (増淵 鏡子専門学芸員)

- ③令和元年度博物館入館者数(1月末現在)について
- ④令和2年度当初予算(案)について

第13節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。令和元年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育

鈴木 廣美 いわき市立小名浜東小学校長
伊藤 俊幸 福島県立会津支援学校長

社会教育

長野 隆人(会長) いわき芸術文化交流館経営総務課広報グループチーフ

岡部 兼芳 社会福祉法人安積愛育園はじまりの美術館館長

家庭教育

滝沢 玲子 福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会津さざなみの会会員

学識経験者

佐藤 公(副会長) 磐梯山噴火記念館館長
川口 立喜 公立大学法人会津大学グローバル推進本部国際戦略室長・准教授
四家 久央 合名会社四家酒造店代表社員
大越 章子 日々の新聞社記者

公募

岩崎 和美 書道家

イ 会議

第1回 令和元年6月20日(木)

議題 ①会長、副会長の選出について
②平成30年度博物館入館者数について
③平成31年度当初予算について
④平成31年度事業計画について
⑤福島県立博物館の使命及び中期目標について

第2回 令和2年2月20日(木)

議題 ①令和2年度事業計画(案)について
②福島県立博物館第3期中期目標(令和元年度12月末現在)について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授、東京藝術大学客員教授	委員長
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	副委員長
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	
原田 一敏	東京藝術大学大学美術館副館長	
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	
玉川 一郎	福島県考古学会長	
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	
加藤 幸治	東北学院大学文学部歴史学科教授	
角屋 由美子	米沢市上杉博物館学芸主査	
奥村 弘	神戸大学大学院人文学研究科教授	

イ 会議

令和元年8月2日(金)

議題 ①今後3年間の展示計画について
②令和2年度・令和3年度開催予定企画展等について
③使命の改正、第3期中期目標について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

(7) 受贈 絵葉書「吾妻スカイライン」ほか 計89件
(1) 受託 短刀無銘ほか 計30件

イ 美術資料

(7) 受贈 佐野龍雲筆「浦上玉堂先生肖像」ほか 計14件

(イ) 受託
松平定信賛・谷文晁筆「異国船図」ほか 計4件

ウ 民俗資料

(ア) 受贈
鋸ほか 計265件

(イ) 受託
紙本著色野馬追図ほか 計32件

エ 考古資料

(ア) 受贈
石鏃ほか 計21件

(イ) 受託
元屋敷遺跡出土品 1件

オ 自然資料

(ア) 受贈
浅貝層産植物葉化石ほか 計850件

(イ) 受託
宮古層群産アンモナイト 1件

(3) 購入

ア 民俗資料

『都道府県別日本の祭り・行事調査報告書集成―北海道・東北地方および関東地方』（全4冊）ほか
計5件

イ 自然資料

現生貝類標本（ヤコウガイほか） 106件

ウ 図書資料

(ア) 一般図書 193冊
(イ) 定期刊行物 32種

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

令和元年度収蔵指定文化財一覧

(令和2年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本著色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本著色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本著色松平楽翁像	1	幅	館蔵
10	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本著色達磨図	1	幅	寄託
11	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本著色十六善神像	1	幅	寄託

収蔵資料数（令和2年3月31日現在）

分野	件数	備考
考古	20,236	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,917	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,322	書籍・文書資料ほか
美術	6,750	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	44,398	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	155	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	107,778	

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数（令和2年3月31日現在）

考古分野：27,851冊 民俗分野：5,035冊
歴史分野：10,789冊 美術分野：4,510冊
自然分野：17,599冊 保存分野：1,865冊
震災遺産：93冊 その他：59,828冊
合計：127,570冊

(イ) 収蔵映像資料数（令和2年3月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,374点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度から、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I. B. Museum SaaS を導入している。一部の登録項目の再構成については、令和元年度に改修を実施した。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

令和元年度は、博物館中期目標は第3期の1年目であり、資料情報の外部公開件数のみを数値目標として設定したが、本年度の公開件数は目標値に届かなかった。

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
13	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本著色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本著色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本著色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本著色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本著色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本著色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の 1幅寄託
19	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
33	福島県	重要文化財	考古資料	35	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信天山出土品	一括		館蔵
35	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神経塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
42	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	福島県	重要文化財	考古資料	48	四穂田古墳出土品	一括		寄託
45	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本著色恵日寺絵図	1	幅	寄託
46	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	舗	館蔵
47	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本著色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
48	福島県	有形民俗文化財		16	上行合人形	368	点	寄託
49	福島県	有形民俗文化財		3	(宇内薬師堂) 古絵馬	3	面	指定6面中の 3面寄託
50	福島県	有形民俗文化財		31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
51	福島県	有形民俗文化財		38	紙本著色野馬追図	2	舗	寄託
52	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

資料類別	登録資料 (令和元年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (令和元年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	0	12,130	0	3,532
民俗資料類	390	14,860	824	5,232
歴史資料類	17	45,721	700	12,688
美術工芸品類	1	6,230	13	36
自然標本類	431	25,644	517	12,263
合計	839	104,585	2,054	33,751

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

化石標本整理 11日 2人

岩石・化石標本整理 15日 1人

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち10名が参加

し、月1回の開催で文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。

(ウ) 民俗資料整理

民俗資料整理ボランティア1名を登録し、月例の収蔵庫資料整理日及び山口弥一郎調査資料の研究の資料整理日の作業に参加、資料の整理や情報提供の協力を得た。

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
慧日寺絵図(当館受託資料) 1幅	大和文華館	令和元年9月～11月	特別展「聖域の美—中世社境内の風景」
白河口戦争絵図(当館受託資料) 1点 新選組名簿(当館受託資料) 1点 陣中日誌(当館受託資料) 1点 土方歳三書状(当館受託資料) 1点	日野市立新選組のふるさと歴史館	平成31年4月11日～令和元年7月	特別展「土方歳三没後150年」
会津若松市田村山古墳出土 内行花文鏡(当館受託資料) 2点 会津坂下町森北1号墳出土 珠文鏡(当館受託資料) 1点	大安場史跡公園	令和元年6月27日～9月10日	企画展「FUKUSHIMA 前期古墳アラカルト」
山川浩和歌「さつま人」 1点 山川健次郎書「有文事者必有武備」 1点	若松城天守閣郷土博物館	令和元年9月1日～11月30日	企画展「明治の会津藩～新時代を生きた会津人」
松平定信像 1点	小峰城歴史館	令和元年8月～10月	特別企画展「白河藩主 七家二十一代」
アンモナイト類 42点	いわき市石炭・化石館	令和元年7月18日～9月10日	特別展「アンモナイト展」
須賀川市跡見塚古墳出土 象嵌鏝 1点	福島県文化財センター白河館	令和元年9月26日～12月26日	企画展「渦文—時を超える文様—」
木造建築継ぎ手一式	個人	令和元年9月6日～7日	令和元年度「福島県もりの案内人養成講座」
浪岡家文書 触(兵学寮差許ニ付) 1点 (諸組改革ニ付書状) 1点 明治元戊辰六月於西京被仰出書写 1点 浪岡右門頭令(顕令略歴書上) 1点	三春町歴史民俗資料館	令和元年9月17日～12月13日	特別展「武士の時代の終わり」

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
塵芥集(複製) 1点	桑折町種徳美術館	令和元年10月25日 ～12月	企画展「伊達氏と桑折西山城」
天神沢遺跡出土 石製品 10点 真野古墳群出土 金銅双鱼佩 1点	文化庁	令和元年5月7日 ～令和2年3月31日	「発掘された日本列島2019」

イ 写真資料

総数：106件124点

考古：13件16点 民俗：8件8点

歴史：51件65点 美術：27件27点

自然：6件7点 震災遺産：1件1点

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア 保存管理

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を7月6日～8月4日、11月28日～12月24日にかけて調査した。

(イ) 生物被害防除

7月、8月に各1回、新規収蔵資料などを対象にエキヒュームSを用いた文化財燻蒸を実施し、385件燻蒸処理した。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

ア 部門展示室リニューアル（民俗・考古）

(ア) 部門展示室（民俗）「雪国・会津の暮らしと祈り」

平成31年4月2日に、民俗分野の新しい部門展示室「雪国・会津の暮らしと祈り」を開室した。山・冬・雪をキーワードにして構成された3つのコーナー（「1、雪と山国の暮らし」、「2、植物と手仕事の文化」、「3、雪国の祈りと祭り」）から、厳しくも豊かな自然環境が生み出した暮らしの文化にスポットを当てている。

(イ) 考古部門展示室

令和元年6月29日に、考古分野の新しい部門展示室「よみがえる会津大塚山古墳」を開室した。

平成25年度から続いた会津大塚山古墳出土資料の保存修理を経て、新たにわかったことや最新の古墳時代研究を踏まえ、新しい会津大塚山古墳像を紹介する。

また、開室と同日に、学芸員による記念講演会「会津大塚山古墳を考える」を開催し、展示の見どころのほか、出土資料を通して見えてくる会津大塚山古墳の魅力を解説した。

イ テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全7回開催した。

- (ア) 「うるわしのうるしのうつわ一土の中から」
- (イ) 「いいたてミュージアム」
- (ウ) 「大須賀清光の土津神社図・円蔵寺図屏風」
- (エ) 「100年カエル館のときめくカエルアート図鑑」
- (オ) 「けんぱくの宝2019—武の美—」
- (カ) 「祈りのふくしま3」
- (キ) 「山口弥一郎のみた東北」

ウ ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全16回開催した。

- (ア) 「フタバスズキリュウの時代の貝」
- (イ) 「桧枝岐の歌舞伎衣装」
- (ウ) 「元号改元の今と昔」
- (エ) 「戦国武将の花押と印判①—伊達政宗」
- (オ) 「三葉虫の不思議」
- (カ) 「型をつくる・型からつくる」
- (キ) 「会津の経塚—500年前のタイムカプセル」
- (ク) 「松平容大夫人の白衣観音図」
- (ケ) 「暮らしと麻」
- (コ) 「戦国武将の花押と印判②—蘆名盛氏」
- (サ) 「戊辰戦争をくぐりぬけた刀」
- (シ) 「畏（わな）—栗城弥平民具コレクション」
- (ス) 「相馬藩主の御料理番—魚や鳥を調理する作法」
- (セ) 「斎藤一と会津」
- (ソ) 「いわきの石炭をつくった植物たち」
- (タ) 「古い道具と昔の暮らし—つくる・きる・あろう」

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和元年度は、3本の企画展示を開催した。

ア 春の企画展「とりもどすぎずな つながるみらい」

(ア) 会期 平成31年4月27日(土)～令和元年6月9日(日)
開館日数 39日間

(イ) 会場 企画展示室・エントランスホール

(ウ) 入館者数 4,710人

(エ) 担当学芸員 美術分野 川延 安直、小林 めぐみ

(オ) 趣旨

震災直後から活動を開始し、現在まで変容を重ねながら継続、発展している7つの文化芸術事業を紹介し、震災から9年目の福島で、あらためて震災の被害から得た文化芸術のムーブメントを捉え、震災以降に生まれた交流を未来に届ける場となることを企図した。

(カ) 展示構成

- a プロジェクト FUKUSHIMA! (大友 良英、山岸 清之進 and more)
- b Daylily Art Circus、ほか (開発 好明)
- c I am flower project
(原案：片桐 功教、企画・運営：西会津国際芸術村)
- d 流転 (中筋 純)
- e Koi 鯉 アートのぼり (渡邊 晃一+福島大学芸術による地域創造研究所)
- f 光の鳥プロジェクト+ミズアオイプロジェクト (吉田 重信)
- g HEART MARK VIEWING (日比野 克彦)

(キ) 関連事業

- ・「アーティストトーク1 福島の開発好明」
- ・「アーティストトーク2 つなぐアート-HEART MARK VIEWING」
- ・「アーティストトーク3 プロジェクト FUKUSHIMA!のこれまで・これから」
- ・「ワークショップ1 HEART MARK VIEWING」
- ・「ワークショップ2 オーケストラ FUKUSHIMA！」
- ・「ワークショップ3 光の鳥を飾ろう」
- ・「ワークショップ4 福興ダルマをつくろう」

(ク) 成果

東日本大震災から9年目を迎える中、あらためて平成23年から多くの方が福島に支援の手をのばしてくださったこと、平成23年以降も地域で継続する活動が福島の文化力を高めていることを来場者と共有することができた。7つのプロジェクトを紹介する作品や資料の展示とあわせて、平成23年からの歩みを年表で紹介し、本展が各プロジェクトのアーカイブズともなった。

トークイベントはプロジェクトの振り返りや意義の共有に繋がり、ワークショップは来場者にもプロジェクトに参加してもらう機会となった。

イ 夏の企画展「福島復興祈念展 興福寺と会津～徳一がつかない西と東」

(ア) 会期 令和元年7月6日(土)～8月18日(日)

開館日数 39日間

(イ) 会場 福島県立博物館企画展示室、部門展示室(歴史・美術)

(ウ) 主催 興福寺と会津展実行委員会(福島民友新聞社・福島中央テレビ・福島県立博物館)

(エ) 入館者数 41,211人

(オ) 担当学芸員 美術分野

川延 安直、小林 めぐみ、塚本 麻衣子

(カ) 趣旨

平安時代の高僧・徳一が、奈良・興福寺から会津を訪れたことにより、会津の仏教文化は花開いた。本展は東日本大震災復興によせる興福寺の思いを受け、国宝3件・重要文化財8件を含む興福寺の寺宝16件を紹介。あわせて、徳一ゆかりの会津の寺院を中心に、会津の寺宝18件を展示した。各種解説パネルや図録により、興福寺と会津の結びつきや、度重なる戦乱や災害から復興を遂げてきた興福寺の歴史を伝える構成とし、関連事業として解説会、トークイベント等を開催、興福寺・会津の仏教文化・仏教美術の魅力を紹介した。

(キ) 展示構成

- a 興福寺の寺宝 徳一時代とそれから
- b 徳一と会津

(ク) 関連事業

- ・開幕式・内覧会・レセプション
- ・展示解説会
- ・夜の仏像鑑賞会
- ・ワークショップ「福島の孔雀石でほとけさまを描こう」
- ・ワークショップ「仏像福笑い 仏像について楽しく知ろう！」
- ・公演「声明の響き～仏教伝統の調べ～」
- ・コンサート「奉る音～ギター・編鐘と篠笛・箏が奏でる祈りのコンサート」
- ・連続講座プレイベント①「興福寺と会津～その歴史と美術」
「興福寺の今昔～1350年の歴史・美術・教への紹介」
「興福寺と会津のえにし～徳一の事跡と会津の仏教美術」
- ・連続講座プレイベント②「阿修羅像を未来へ」
「興福寺のあゆみ」
「阿修羅像、1300年を超えて未来に」
- ・館長講座特別編「風土の旅学―東北編 第4回 徳一」
- ・美術講座「興福寺と会津展 みどころ案内」
- ・特別講演「福島復興への祈り～興福寺と会津展によせて」

(ク) 成果

徳一が生きた時代の仏像をはじめ、興福寺の国宝・重要文化財を福島県で初公開したことに加え、徳一ゆかりの会津の寺院等の寺宝を紹介したことにより、平安時代に遡る興福寺と会津の結びつきを広く知っていただく機会となった。また、会津の仏教文化の奥深さ・広がりをも改めて見直すことにもつながった。

ウ 秋の企画展「あにまるず ANIMAL×Zoo—どうぶつの考古学」

(ア) 会期 令和元年9月7日(土)～11月17日(日)

開館日数 63日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

- (エ) 入館者数 8,708 人
- (オ) 担当学芸員 考古分野: 高橋 満
- (カ) 趣旨
狩猟・装身・象形・マツリに関わる考古資料から、原始・古代のヒトと動物の関係性を読み解き、その多様な世界を紹介した。

- (キ) 展示構成
第1章 イノシシとシカの年代記
第2章 狩りとイノリとマツリとオクリ
第3章 何これ？不思議！カワイイ！どうぶつ園
- (ク) 関連事業
・展示解説会
・講演会1「同位体人類学-ふくしま縄文人の食にせまる」
・講演会2「はにわの鳥から考える鳥と人のつながり」
・縄文笛コンサート
・ミニ講演会&放鷹実演「会津の空に鷹が舞う」
・国史跡清戸迫横穴 VR 体験

- (ケ) 成果
考古学や埋蔵文化財への興味や関心を広く喚起し、その魅力を多様な世代や階層に幅広く伝えるため、身近な存在である動物をテーマに展覧会を構成した。考古学研究者やコアな考古学ファンにとどまらず、日常生活の中で博物館へ足を運ぶことが多くはない「ライト層」へ訴求できるように分かりやすい展示を目指した。その結果、アンケートによる来場者動向によると20代～50代の4世代がそれぞれ20%前後の来場割合を占めており、来場世代比に偏りがなかった。

考古学そのものをテーマにした講演会の座学と動物や考古学にかかわる実演などを比較的多く開催し、多くの方の来館があった。

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。令和元年度は、前年から継続展示した「震災遺産を考える」のほか、第3期中期目標で掲げている震災遺産の保全・活用による東日本大震災の共有と継承を図る活動として、冬季特集展「震災遺産を考える—それぞれの9年—」を開催した。

ア 特集展「震災遺産を考える」

- (ア) 会期 平成31年2月16日(土)～4月11日(木)
開館日数47日間(平成31年度の会期9日間)
- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 共催 大熊町、双葉町、浪江町
- (エ) 観覧者数 717人(会期中の累計観覧者数3,503人)
- (オ) 担当学芸員 平成30年度震災遺産保全チーム
- (カ) 趣旨
平成30年度より継続展示。これまでに収集・保全した「震災遺産」を展示し、震災に向き合う機会とした。
- (キ) 展示構成
第1章 地震と破壊

- 第2章 混乱と避難
- 第3章 災害と時間
ソフトウェアで観覧する
親子で震災遺産を考える
図書コーナー

- イ 特集展「震災遺産を考える—それぞれの9年—」
- (ア) 会期 令和2年2月11日(火)～4月12日(日)
開館日数:54日間(令和元年度の会期43日間)
- (イ) 会場 企画展示室
- (ウ) 後援 公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
- (エ) 観覧者数 2,086人(令和2年3月31日時点、会期中の累計観覧者数2,323人)
- (オ) 担当学芸員 震災遺産保全チーム担当学芸員
- (カ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産に関わった人たちの証言から震災遺産を振り返り、それぞれの9年間を共有することをめざした。

- (キ) 展示構成
 - ① 命一半杭一成さん
 - ② 繰り返した避難生活から感謝の日々へ—伊藤まりさん
 - ③ 負けたままではいられない—金谷清子さん
 - ④ ふるさとへの想い—林富士雄さん
 - ⑤ 情報の架け橋として—鈴木裕次郎さん
 - ⑥ 光の鳥 子どもたちのメッセージ
 - ⑦ 富岡は負けん！—平山勉さん
 - ⑧ 大熊町の記憶—鎌田清衛さん
 - ⑨ 東日本大震災・原子力災害伝承館所蔵予定

- (ク) 関連事業
・展示解説会(2月分)
※以下事業新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
・講演会&トークイベント「ひなん暮らし—過去・現在・未来—」
・防災講座「楽しいそなえ」
・展示解説会(3月以降)

- (ケ) 成果
震災遺産の特集展は毎年テーマを変えながら続けており、今回の展示では人に注目した。今回の展示に合わせて積極的に資料に関する当事者の物語を聞き取り調査することで、震災遺産資料について9年間の空白を埋めて歴史資料としての厚みを増すことができた。解説会では被災地に思いを馳せ、涙ぐまれる方もおられ、アンケート等の来場者の意見としても「忘れないためにも県内外問わず多くの人に見てほしい」との意見を多くいただいた。

(4) 指定文化財の公開

令和元年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア 国指定

〈国宝〉

(ア) 四天王立像（多聞天像・広目天像）ほか 計3件

〈重要文化財〉

(イ) 地藏菩薩立像ほか 計10件

(ロ) 青森県薬師前遺跡墓坑出土品のうち

猪牙製垂飾5点ほか 計8件

(ハ) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 計1件

イ 県指定（福島県指定）

〈重要文化財〉

(ア) 寺脇貝塚出土品のうち骨角器26点ほか 計3件

(イ) 陣ヶ峯城跡出土品のうち木製品及び炭化物8点
計1件

(ロ) 関和久官衙遺跡出土品のうち墨書土器4点ほか
計4件

(ハ) 八槻都々古別神社御正体 一面 計1件

(5) 展示解説

ア 展示解説員

令和元年度の展示解説員の人数は13名で前年度と変わらなかった。企画展についても、通常の展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応を行った。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものであり、4月27日から2月24日の期間実施した。

＜実施状況＞ 実施日数：74日 総参加人数：474人

(イ) 通し解説

不定期に常設展・企画展を解説するもので、主として来館する個人・団体の要望に応じ、展示解説員1名が全体を解説する。

実施回数：54回

(ロ) 部屋送り解説

不定期に常設展・企画展を解説するもので、主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている展示解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：19回

(ハ) 体験講座

体験講座などの展示解説員が主体となって実施する講座は開催されなかったが、従来展示解説員が作成・飾り付けを行っていた団子さしを、参加者に作成・飾り付けしてもらって体験型で実施した。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図った。

イ 学芸員

企画展及び特集展の開催中は、展示解説員だけでは昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっており、令和元年度は年間で363回を数えた。

ウ 展示解説のための資料等

(ア) 『展示解説シート』

展示室見学の参考とするため、主にグループで入館する児童や生徒に配布した。2か月ごとにテーマを決めて、常設展示総合展示室（A～F）の各部屋からおすすめ資料を選定し、紹介する。

(イ) 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したもので、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

(ロ) Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パンフレット（14ページ）で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

(6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置され、囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分があり、無料で使用できる。昔のおもちゃが用意され自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。また、資料に触れるハンズオンコーナーを常設することで、子どもたちも博物館に親しむことのできる空間作りを目指している。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア 衣装

(ア) 衣装着付け

季節ごとに入れ替えを行いながら、時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のまま着られる衣装だが、着付けの技術や衣装についての知識を深めるため、新任の展示解説員に研修を行うなど、より質の高いサービスを提供できるように努めている。

令和元年度は忍者衣装、会津木綿着物を新たに追加し、衣装の充実を図った。また、新たに当館の収蔵資料を活用した撮影スポットを設置したことで、より多くの方に着付けを楽しんでいただけるよう工夫した。

a 衣装着付け件数 418件

b 着付けた衣装

春：打掛・番具足・忍者衣装（イベントのみ）

夏：水干・直垂・忍者衣装（イベントのみ）

秋：会津木綿着物・当世具足

冬：壺衣装・山伏

(イ) 衣装展示

春：小直衣・十二単

夏：大鎧・稚児鎧

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：素襖・南蛮装束

イ 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー /

1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

ウ おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。ただ、おもちゃの経年劣化に加えて利用者の増加もあり、修理を必要とするおもちゃの数も増えている。

おもちゃの修理：46件

エ ハンズオンコーナー

来館者が実際に体感することで、様々な学びを促進するためのコーナー。令和元年度は「土器パズル」（縄文土器の写真を再現するパズル）、「化石にさわろう！」（当館収蔵の様々な化石を実際に手に取ることが出来るコーナー）、「福島県地図パズル」（各市町村の形を、それぞれの市町村の木で製作してあるパズル）を常設展示として設置した。7月～9月にかけては蚊帳を設置し、一昔前の暮らしを体感できるコーナーを作った。また、会津工業高等学校建築インテリア科と連携した木製玩具の製作、設置をしたり、当館収蔵資料を活用した撮影スポットを設置したりとコーナーの充実を図った。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和元年度は以下の7テーマの調査を実施した。

ア 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗分野

(イ) 調査概要

平成27年度から引き続き資料整理作業を行い、特に簡易整理が終了した山口弥一郎の調査ノート、調査資料、カード、日記・手帳について、再分類と番号のふり直しを進めた。また映像資料・音声資料の一部をデジタル化した。本事業は令和元年度が最終年度となったが、その成果報告としてテーマ展の開催と報告書の刊行を行った。テーマ展「山口弥一郎のみた東北」では、「1. 学問との出会い」「2. 東北を襲う津波と凶作」「3. 戦中・戦後の農村に暮らす」「4. 学校教員と郷土研究」「5. 文化財の保護と後進の育成」「6. 大学教育と研究の集大成」という6つのコーナーから山口の生涯と研究の軌跡を紹介した。『山口弥一郎旧蔵資料調査報告書』は「Ⅰ 解題編」「Ⅱ 目録編」「Ⅲ 論考編」の3部構成とし、山口の人物像や資料の概要、資料目録、事業参加者による論考等を掲載した。

イ 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古分野

(イ) 調査概要

県内出土古人骨の共同研究を東京大学と継続し、新地町三貫地貝塚及び西会津町塩喰岩陰遺跡出土人骨の年代及び同位体のデータを取得した。塩喰岩陰遺跡人骨の年代は前期初頭よりも古くなる可能性があり、県内最古例の出土人骨であることが分かった。また川俣町前田遺跡で検出された人骨を伴う土壇墓や出土人骨の検討を行った。

ウ 会津の三十三観音めぐりの調査研究

(ア) 分野 美術分野・民俗分野

(イ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行い、調査結果を講演会などに活かした。また、会津の三十三観音めぐりを楽しくわかりやすい発信と今後の教育普及や活用のために、実際にめぐった知見を活かした「会津の三十三観音めぐりすごろく」を作成した。

エ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 震災遺産保全チーム

(イ) 調査概要

東日本大震災を福島県の歴史として位置づけるために、また常設展示へ向けた取り組みとして学習会を行った。「地域の暮らしを主体的に考える場となる」ことをチームのビジョンとし、それに向けてテーマを決め、外部講師、博物館OBからの協力も得て学芸員が分担して実施した。内容は以下のとおり。

- ・山口弥一郎について 内山学芸員（民俗分野）
- ・磐梯山の噴火からの復興
佐藤公（磐梯山噴火記念館館長）
- ・福島第一・第二原子力発電所の建設について
栗原学芸員（歴史分野）
- ・水力発電所について 大里学芸員（民俗分野）
- ・高度経済成長とエネルギー 筑波学芸員（歴史分野）
- ・近世の災害と対応—会津藩を事例として—
阿部学芸員（歴史分野）
- ・総合展示「自然と人間」福島の鉱山概要
竹谷陽二郎氏（自然分野、当館学芸員OB）

また、今までに収集した震災遺産のデータを深めるために、収集した震災遺産に関係する人たち7人へ聞き取り調査を行った。

オ 古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 調査概要

展示ケース内で金属試験片（銀・銅）に発生した金属腐蝕膜（錆）の分析値より腐蝕速度を予測した。

カ 浜通りにおける古生代大型化石の研究

(ア) 分野 自然分野

(イ) 調査概要

福島県内産古生代巻貝化石の現状把握のため、いわ

き市石炭化石館収蔵資料について調査を行った。福島県立博物館に所蔵されている巻貝化石について鑑定作業を行った。

キ 福島県成立前後の近代資料の調査研究

(ア) 分野 歴史分野

(イ) 調査概要

地租改正の測量場面を描いた秋田県立博物館所蔵の「文明開化地租改正地面測量取之図」を調査した。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

令和元年度は、前年度に登録した松崎達夫家寄贈資料(若松城下葉種問屋資料)の公開に向けて、登録内容の確認及び修正を行った。また未登録であった斎藤一(藤田五郎)関係資料の登録並びに未公開であった相原秀郎家・和泉富夫家・久米幹男家の寄贈資料を公開した。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア 研究成果の公表(職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物(単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

阿部 綾子「小室梅尾「会津籠城絵詞一会津藩の女中が記録した籠城戦の体験」」『福島県立博物館紀要』第34号 p.33-40

猪瀬 弘瑛・渡辺 昇「広野町桜沢に分布する白亜系双葉層群足沢層から産出する二枚貝化石群集」『福島県立博物館紀要』第34号 p.11-15 福島県立博物館

内山 大介編『山口弥一郎旧蔵資料 調査報告書』(福島県立博物館 調査報告第41集)

内山 大介「山口弥一郎と柳田民俗学—方法としての「寄寓採録」と「帰郷採録」—」『山口弥一郎旧蔵資料 調査報告書』(福島県立博物館 調査報告第41集) p.71-76

内山 大介「書評 菊池和子『震災を生きる人々—福島芸能の灯消さず』」『福島の民俗』第48号 福島県民俗学会 p.124-126

内山 大介「寄稿 三陸地震 被災地くまなく 山口弥一郎の足跡たどる」『福島民友』

内山 大介「奉納される傘鉾と吊り下げ物—東北日本海地域における傘鉾の展開—」『まつり』81号(特集 傘鉾と吊り下げ物) まつり同好会 p.31-64

内山 大介「小荒井豊山筆『製鋸図』と会津の鋸鍛冶」『民具マンスリー』52巻6号 神奈川大学日本常民文化研究所 p.1-7

内山 大介「県立博物館がとらえる地域と民俗展示—福島県立博物館部門展示室リニューアル」『民具マンスリー』52巻4号 神奈川大学日本常民文化研究所 p.1-7

大里 正樹「【民具短信】黒船来航を伝える農具」『民具マンスリー』52-6(通巻618) p.22-24 神奈川大学日本常民文化研究所

大里 正樹「磐城民俗研究会の活動と山口弥一郎—『民間伝承』記事と収蔵資料から—」『福島県立博物館調査報告第41集 山口弥一郎旧蔵資料調査報告書』 p.87-90 福島県立博物館

大里 正樹「書評 古川利意『古川利意年賀状版画集』」『福島の民俗』48号 p.123-124 福島県民俗学会

片岡 太郎・上條 信彦・佐々木 理・高橋 満「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」日本考古学協会第85回総会研究発表要旨 pp.206-207 一般社団法人日本考古学協会

鈴木 苑子・猪瀬 弘瑛・上松 佐知子・大石 雅之・指田 勝男・藤田 英留「埜町に分布する中新統久保田層より産した鯨類化石と古環境」『福島県立博物館紀要』第34号 p.1-10 福島県立博物館

高橋 充「戦国期奥羽の書状の形態をめぐって—『堅紙・堅切紙系書状』の展開—」矢田俊文編『戦国期文書論』 p.187-211 高志書院

高橋 充「報告要旨 戦国期の蘆名氏と会津」『国史談話会雑誌』60号 p.76-77 東北大学国史談話会

高橋 充・時枝 務「信夫山頂遺跡出土品の研究(7)」『福島県立博物館紀要』第34号 p.17-32 福島県立博物館

高橋 充・布尾 幸恵「宮城県図書館蔵『会津全図』について」『福島県立博物館紀要』第34号 p.41-59 福島県立博物館

高橋 満「博物館における震災の継承—震災遺産保全のケーススタディ」博物館研究 vol.54 No7、pp.19-22 公益財団法人日本博物館協会

高橋 満 編著「あにまらず ANIMAL×Zoo どうぶつの考古学図鑑」福島県立博物館企画展図録

高橋 満「福島県浜通り地域中・北部における製塩土器類の類例と評価」『中才遺跡(2次調査)—災害公営住宅建設事業(西ヶ原第二工区)における記録保存のための発掘調査』南相馬市埋蔵文化財調査報告書第32集、pp.138-143、南相馬市教育委員会

西山 剛・内山 大介・筑波 匡介「専門家によるポイント解説(3)被災時の博物館」『ICOM 京都大会からみたあたらしいミュージアムのかたちとは?』ICOM 京都大会2019 報告会・ワークショップ 報告書 京都歴史文化施設クラスター実行委員会・ICOM 京都大会2019 組織委員会・ICOM 日本委員会 p.21-24

平澤 慎「古墳時代 東北」『考古学ジャーナル』727号 p.58-59 ニューサイエンス社

(イ) 学会発表

内山 大介 「震災・原発事故と文化財レスキュー～災害から地域文化を守るために～」

内山 大介 「会津彼岸獅子と都市近郊の地域社会」

内山 大介 「民俗学者・山口弥一郎の研究者人生と旧蔵資料」

内山 大介 「山口弥一郎の学問形成とノート利用の変遷－旧蔵資料アーカイブの試みから－」

片岡 太郎・上條 信彦・佐々木 理・高橋 満 「福島県三島町荒屋敷遺跡出土漆器の製作技法研究」

菅原 滋・杉崎 佐保恵・中山 芳彦・谷口 秀哉・石丸 伊知郎 「近赤外ハイパースペクトラルイメージング法による陶器上の接着剤と印刷物上のニス分布の測定」

鈴木 苑子・上松 佐知子・猪瀬 弘瑛 「福島県の上部中新統久保田層より産したクジラ化石と古環境」

高橋 充・布尾 幸恵 「宮城県図書館蔵『会津全図』について」

高橋 充 「戦国期の蘆名氏と会津」

高橋 満 「震災遺産の保存活用」「これからの地域と歴史・文化遺産」

高橋 満 「東日本大震災と地域博物館」「近年の特別展・企画展の動向」

高橋 満 「関東地方 霞ヶ浦周辺における 縄文時代製塩遺跡の構造と理解」「日本列島における製塩技術史の解明Ⅰ－縄文から古代まで拡張して見えるもの」

西山 剛・内山 大介・筑波 匡介 「専門家によるポイント解説(3)被災時の博物館」『ICOM 京都大会からみたあたらしいミュージアムのかたちとは?』

イ 他団体による委嘱等

阿部 綾子

- ・相馬市史編さん調査執筆員
- ・郡山市文化財保護審議委員会委員
- ・史跡若松城跡御三階復元検討会委員(会津若松市教育委員会)

猪瀬 弘瑛

- ・ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携コーディネーター

内山 大介

- ・国立歴史民俗博物館共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」共同研究員
- ・福島県立医科大学医学部非常勤講師
- ・日本民具学会理事・評議員
- ・会津の御田植祭調査委員会副委員長
- ・会津坂下町史編さん専門委員
- ・郡山市文化財保護審議委員会委員
- ・(仮称)郡山市歴史情報・公文書館基本計画策定に係る懇談会委員

・福島県民俗学会事務局長

・八戸地方えんぶり調査委員会調査委員(八戸市教育委員会)

大里 正樹

- ・三島町史編さん専門委員
- ・会津坂下町史編さん専門委員
- ・福島県民俗学会事務局長
- ・沖縄国際大学南島文化研究所特別研究員

川延 安直

- ・喜多方市美術館収集委員会委員
- ・「ふるさと風景展」審査員(喜多方市美術館)
- ・いわき市文化財保護審議委員会委員
- ・須賀川市文化財保護審議委員会委員
- ・白河市文化財保護審議委員会委員
- ・福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
- ・福島大学芸術による地域創造研究所研究員
- ・やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員

小林 めぐみ

- ・福島芸術計画×Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員(福島県、東京都)
- ・会津漆器技術後継者訓練校講師(会津漆器協同組合)
- ・やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
- ・会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員(公益財団法人会津若松文化振興財団)
- ・只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員(只見町ユネスコエコパーク推進協議会)
- ・只見町ぶなと川のミュージアム運営委員会委員
- ・福島大学芸術による地域創造研究所研究員
- ・会津の御田植祭調査委員会委員
- ・会津坂下町史編さん委員

佐藤 洋一

- ・南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- ・国立歴史民俗博物館共同研究『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」共同研究員

高橋 充

- ・二本松城跡整備検討委員会委員
- ・向羽黒山城跡調査整備委員会委員(会津美里町教育委員会)
- ・相馬市史編さん専門委員
- ・会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員(会津若松市教育委員会)
- ・神指城跡調査指導委員会委員(会津若松市教育委員会)
- ・阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員(国見町教育委員会)
- ・伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員
- ・伊達市立博物館(仮称)整備検討委員会委員
- ・棚倉町中世城館等調査指導委員会委員

- ・会津坂下町史編さん委員会委員
- ・北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員
- ・小峰城跡石垣検討委員会委員（白河市）
- ・堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員（湯川村教育委員会）
- ・須賀川市文化財保護審議会委員
- ・医学部講義「芸術と文化（博物館・美術館にみる芸術と文化）」（福島県立医科大学）

高橋 満

- ・会津坂下町史編さん委員
- ・文化庁第11回指定文化財（美術工芸品）企画
- ・展示セミナー講師
- ・「資源利用史 研究クラスター」研究推進員（明治大学）
- ・富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員
- ・福島大学コア・アクティブ科目非常勤講師

田中 敏

- ・会津坂下町史編さん委員
- ・御三階復元検討委員会委員（会津若松市教育委員会）

- ・会津藩主松平家墓所整備指導会議委員（会津若松市教育委員会）
- ・白河市天王山遺跡検討委員会委員

藤原 妃敏

- ・会津若松市文化財保護審議委員
- ・新鶴民俗資料館運営委員（会津美里町教育委員会）
- ・喜多方市文化財保護審議委員会委員
- ・笹山原No.16 遺跡調査指導委員（郡山女子短期大学）
- ・福島県考古学会副会長（福島県考古学会）
- ・南相馬市博物館運営協議会委員
- ・会津坂下町史編さん委員

ウ 研究助成金等

高橋 満

- ・科研費・基盤研究（C）「霞ヶ浦沿岸における縄文時代土器製塩史復元のための基礎的研究」研究代表者
- ・科研費・基盤研究（A）「日本列島における製塩技術史の解明」研究分担者

6 教育普及事業

(1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師によるさまざまな講座・講演会等を実施している。令和元年度の各講座開催数は130、総参加者数は14,897人であった。

ア 令和元年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	11	1,191
(2) 考古学講座	4	95
(3) 民俗講座	8	229
(4) 歴史講座	10	493
(5) 自然史講座	2	70
(6) 保存科学講座	2	26
(7) 美術講座	5	268
(8) 防災講座	1	51
(9) 実技講座	4	61
(10) 実演	2	60
(11) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説等）	51	6,788
(12) ミュージアムイベント	6	852
(13) 子育て世代対応事業	9	357
(14) 体験的学習事業	3	3,220
(15) 共催事業	2	307
(16) 後援事業	5	464
(17) ライフミュージアムネットワーク事業	3	218
(18) 友の会事業	1	90
(19) 復興応援パートナー事業	1	57
計	130	14,897

イ 令和元年度講座・講演会等行事一覧

(ア) 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
館長講座 風土の旅学—東北編①松尾芭蕉	赤坂 憲雄 (館長)	平成 31 年 4 月 19 日(金)	87
館長講座 風土の旅学—東北編②江戸の旅人たち	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 5 月 17 日(金)	95
館長講座 風土の旅学—東北編③イザベラ・バード	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 6 月 21 日(金)	110
館長講座 風土の旅学—東北編④特別編・徳一	赤坂 憲雄 (館長) 玄侑 宗久 (僧侶/小説家)	令和元年 7 月 19 日(金)	375
館長講座 風土の旅学—東北編⑤柳田国男	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 8 月 16 日(金)	87
館長講座 風土の旅学—東北編⑥武田久吉	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 9 月 20 日(金)	55
館長講座 風土の旅学—東北編⑦柳宗悦	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 10 月 18 日(金)	54
館長講座 風土の旅学—東北編⑧岡本太郎	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 11 月 22 日(金)	55
館長講座 風土の旅学—東北編⑨司馬遼太郎	赤坂 憲雄 (館長)	令和元年 12 月 19 日(木)	116
館長講座 風土の旅学—東北編⑩つげ義春	赤坂 憲雄 (館長)	令和 2 年 1 月 17 日(金)	74
対談「震災・アート・地域 北川フラム×赤坂憲雄」	赤坂 憲雄 (館長) 北川 フラム (アートディレクター)	令和 2 年 2 月 21 日(金)	83

(イ) 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
部門展示室リニューアル記念講座「会津大塚山古墳を考える」	平澤 慎 (学芸員) 藤原 妃敏 (専門員)	令和元年 6 月 29 日 (土)	40
縄文土器をつくろう 1	考古分野学芸員	令和元年 7 月 27 日(土)	20
縄文土器をつくろう 2	考古分野学芸員	令和元年 7 月 28 日(日)	20
縄文土器の野焼き	考古分野学芸員	令和元年 9 月 28 日(土)	20

(ウ) 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
部門展示室リニューアル記念講座①「雪国・会津の民家と暮らし」	内山 大介(主任学芸員)	令和元年 5 月 12 日(日)	25
部門展示室リニューアル記念講座②「雪国・会津の自然と手仕事」	山口 拡(副主任学芸員)	令和元年 6 月 16 日(日)	32
部門展示室リニューアル記念講座③「雪国・会津のまつり」	大里 正樹 (副主任学芸員)	令和元年 7 月 7 日(日)	30
部門展示室リニューアル記念講座④雪国・会津の食文化～エゴの不思議!～	江川 トヨ子 (主任学芸員)	令和元年 8 月 4 日(日)	9
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り① 奥会津の木地師」	民俗分野学芸員	令和元年 11 月 17 日(日)	25
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り② 金沢の羽山ごもり」	民俗分野学芸員	令和元年 12 月 15 日(日)	18
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り③ からむしと麻」	民俗分野学芸員	令和 2 年 1 月 19 日(日)	32
ミニ映画会「ふくしまの技と祭り④ 元山と番匠」	民俗分野学芸員	令和 2 年 2 月 16 日(日)	58

(エ) 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
はじめてさんの古文書講座① 近世編 (3回連続)	阿部 綾子 (主任学芸員)	令和元年 5 月 25 日(土)	32
はじめてさんの古文書講座② 近代編 (3回連続)	栗原 祐斗 (学芸員)	令和元年 6 月 8 日(土)	29
はじめてさんの古文書講座③ 中世編 (3回連続)	高橋 充 (専門学芸員)	令和元年 6 月 23 日(日)	29
福島再発見! 古文書講座① 近代編 (3回連続)	栗原 祐斗 (学芸員)	令和元年 8 月 24 日(土)	40
福島再発見! 古文書講座② 近世編 (3回連続)	阿部 綾子 (主任学芸員)	令和元年 9 月 28 日(土)	47
福島再発見! 古文書講座③ 中世編 (3回連続)	高橋 充 (専門学芸員)	令和元年 10 月 26 日(土)	35
企画展先取り講座「ふくしまの旅」①近代ふくしま交通網の整備と旅行	栗原 祐斗 (学芸員)	令和元年 11 月 30 日(土)	40
企画展先取り講座「ふくしまの旅」②江戸時代の旅—会津藩士の赴任旅行—	阿部 綾子 (主任学芸員)	令和元年 12 月 14 日(土)	115

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展先取り講座「ふくしまの旅」③いい湯だな～ 会津東山の今と昔	高橋 充 (専門学芸員)	令和2年2月1日(土)	73
企画展先取り講座「ふくしまの旅」④災害とツーリズム	筑波 匡介(副主任学芸員)	令和2年2月15日(土)	53

(ウ) 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
化石標本をつくろう	自然分野学芸員	令和元年10月19日(土)	42
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司(野鳥研究家)	令和元年11月10日(日)	28

(カ) 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
和紙にふれる①	鈴木 晴彦(文化財保存修理技術者) 杉崎 佐保恵(主任学芸員)	令和元年12月7日(土)	13
和紙にふれる②	鈴木 晴彦(文化財保存修理技術者) 杉崎 佐保恵(主任学芸員)	令和元年12月8日(日)	13

(キ) 美術講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
触って見てみる刀剣講座	藤安 将平(将平鍛刀場刀匠)	令和元年11月23日(土・祝)	20
聞いて見てみる刀剣講座	藤安 将平(将平鍛刀場刀匠)	令和元年11月23日(土・祝)	71
ちょっと不思議な仏教美術のせかい①仏像アバンギャルド	塚本 麻衣子(副主任学芸員)	令和元年12月21日(土)	53
ちょっと不思議な仏教美術のせかい②絵巻物ワンダーランド	塚本 麻衣子(副主任学芸員)	令和2年1月11日(土)	60
ちょっと不思議な仏教美術のせかい③聖者のイメージ	塚本 麻衣子(副主任学芸員)	令和2年1月25日(土)	64

(ク) 防災講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ミニ防災講座 楽しいそなえ	筑波 匡介(副主任学芸員)	令和元年9月1日(日)	51

(ケ) 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
須賀川の絵のぼり オリジナル小旗をつくろう	大野 青峯・大野 久子(須賀川絵のぼり吉野屋)	令和元年5月4日(土・祝)	14
縄文の編み組みを再現しよう	國井 秀紀(福島県文化振興財団)	令和元年8月25日(日)	17
唐人和風をつくろう	齋藤 誠一(つくし工房)	令和元年9月22日(日)	13
漆を楽しむワークショップ	会津漆器協同組合青年部の皆さん	令和元年12月1日(日)	17

(コ) 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
大堀相馬焼の絵付け	山田 慎一(大堀相馬焼窯元・いかりや商店)	令和元年7月21日(日)	30
会津・三島の編み組み細工	三島町生活工芸館の皆さん	令和元年11月16日(土)	30

(ク) 子育て世代対応事業

テーマ	講師	期日	参加人数
博物館でも読み聞かせ	おはなしのへや/ゆかいな仲間たち	平成31年4月7日(日)	22
博物館でも読み聞かせ	ハーモニー/心に虹のおはなし会	令和元年5月11日(土)	25
博物館でも読み聞かせ	手作り絵本の会	令和元年6月8日(土)	22
博物館でも読み聞かせ	ハーモニー/おはなしのへや	令和元年7月13日(土)	35
博物館でも読み聞かせ	会津大学短期大学部	令和元年8月10日(土)	41
博物館でも読み聞かせ	ゆかいな仲間たち/おはなしの会ゆがわ	令和元年9月14日(土)	18

テーマ	講師	期日	参加人数
野口英世記念ふくしま国際音楽祭 2019 ピアノ アニマルズ	碓井 俊樹、榊原 聡子 (ピアニスト)	令和元年9月27日(金)	151
博物館でも読み聞かせ	おはなしのへや/たんぼぼの会	令和元年11月9日(土)	26
博物館でも読み聞かせ 特別バージョン	会津大学短期大学部	令和2年1月11日(土)	17

(シ) 体験的学習事業

テーマ	講師	期日	参加人数
子どもミニミニ博物館	当館学芸員	平成31年4月27日(土)～令和元年5月6日(月・祝)	1,354
親子で探検!はくぶつかんのウラ側	当館学芸員	令和元年8月3日(土)	24
子どもミニミニ博物館	当館学芸員	令和元年8月11日(日・祝)～18日(日)	15

(ス) 共催事業

テーマ	主催	期日	参加人数
映画上映会「からむしのこえー会津のものづくり」+座談会「会津のものづくりの未来像」	鞍田 崇 (明治大学准教授) 分藤 大翼 (信州大学准教授) 春日 聡 (国立歴史民俗博物館客員准教授)	令和2年1月13日(月・祝)	264
フォーラム「レスキュー・レプリカその先に」	大河内 智之 (和歌山県立博物館主任学芸員) 吉野 高光 (双葉町教育委員会生涯学習係長) 藤井 光 (美術家)	令和2年2月22日(土)	43

(セ) 後援事業

テーマ	主催	講師・所属	期日	参加人数
福島県史学会 研究報告会	福島県史学会	福島県史学会会員	令和元年6月1日(土)	50
令和元年度福島県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会	福島県市町村教育委員会連絡協議会	塚本 麻衣子 (副主任学芸員)	令和元年7月25日(木)	80
会津史談会 文化史講座「会津彼岸獅子と都市近郊の地域社会」	会津史談会	内山 大介 (主任学芸員)	令和元年11月21日(木)	54
会津史学会公開講座「会津盆地を支配した古代王者にせまる」	会津史学会	辻 秀人 (東北学院大学教授)	令和元年11月24日(日)	150
会津民俗研究会公開講座「伊勢参宮日記について」「私の四国八十八か所歩き遍路旅日記」	会津民俗研究会	滝沢 洋之、伊藤 誠 (会津民俗研究会)	令和2年2月24日(月)	130

(ソ) ライフミュージアムネットワーク事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
オープンディスカッション ソーシャルインクルージョン (テーマ:障がいとミュージアム)	新井 浩 (福島大学教授) 上島 雅彦 (竹田綜合病院) 久保田 翠 (認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ理事長)	令和元年10月27日(日)	11
ライフミュージアムネットワーク 2019 フォーラム1「活かす・生きるミュージアム」	大澤 苑美 (八戸市まちづくり文化推進室主事兼学芸員) 西澤 真樹子 (なにわホネホネ団団長) 寺沢 秀文 (満蒙開拓平和記念館館長)	令和2年1月18日(土)	54
ライフミュージアムネットワーク 2019 フォーラム2「記憶と人間の方舟として」	鷺田 清一 (せんだいメディアテーク館長) 赤坂 憲雄 (館長)	令和2年2月14日(金)	153

(タ) 復興応援パートナー事業

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
福島しあわせ運べるように合唱団ミニコンサート	福島しあわせ運べるように合唱団	平成31年4月6日(土)	57

(2) ミュージアムイベント

福島市の文化や博物館の活動について、気軽な雰囲気の中で知っていただくための催し。県民の皆様は博物館を身近に感じてもらうことで、今まで博物館に縁遠かった人々を含め、様々な人の集う空間になるよう企画し、6件実施した。

ア 山ノ内磐水と玄如節

- (ア) 日時 令和元年6月15日(土) 13時30分～15時
- (イ) 会場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 72人
- (エ) 共催・出演 玄如節顕彰会

イ 会津磐梯山・市民盆踊り

- (ア) 日時 令和元年8月15日(木) 19時～20時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会場 福島県立博物館 前庭
- (ウ) 参加者数 152人
- (エ) 共催 会津磐梯山盆踊り保存会

ウ 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日時 令和元年8月24日(土) 17時30分～18時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会場 福島県立博物館 常設展示室 企画展示室
- (ウ) 参加者数 88人
- (エ) 講師 学芸員

エ 「Coderanni」コンサート

- (ア) 日時 令和元年9月16日(月・祝) 13時30分～15時
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 215人 解説会 13人
- (エ) 出演 会津室内楽団「アンソングル・Coderanni」の皆様

オ 親子でやすらぐ子守唄コンサート

- (ア) 日時 令和元年10月17日(木) 10時～11時30分
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 230人

(エ) 出演 第1部 トーク

西舘 好子 (NPO法人日本子守歌協会理事長)
赤坂 憲雄 (館長)

第2部 子守歌演奏

雨宮 知子 (歌手)、岸本 あかね (ピアノ)

カ けんぱく映画会「縄文にハマる人々」

- (ア) 日時 令和元年10月20日(日)
13時30分～15時30分
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 95人

(3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

ア 展示室での自主学習 (しおり・ワークシート)

- (ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)
本年度企画展にあわせてワークシートの内容について一部見直しを行った。
- (イ) 常設展総合展示室案内シート
一部ワークシートの内容見直しや、新規に家族での来館に対するワークシートの導入検証を行った。

一部ワークシートの内容見直しや、新規に家族での来館に対するワークシートの導入検証を行った。

イ 学習プログラム

各団体のニーズに応じたきめ細かい事前相談に取り組んでいるが、幅広い年齢層に対応できるプログラム作りに工夫改善を図っている。令和元年度は幼児に向けて前年度開発した「未就学児対応学習プログラム」を協力園の園児たちに試行した。

ウ 指導者向け研修

令和元年度は「博物館を使った授業でできること、伝えたいことを考える」をテーマに、学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施した。

・令和元年8月1日(木) 午前の部 2名、午後の部 18名

エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。令和元年度については学習用具・教材等の貸出実績はなかった。

オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和元年度の実施回数は7回で、参加者は339人であった。

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
令和元年9月4日(水)	小林めぐみ	美術	地域に根ざす日本の伝統文化を学ぶ (会津型について・日本の文様について)	会津若松市立第二中学校	2年・美術(地域の工芸学習)
令和元年9月12日(木)	筑波匡介	震災	昭和中学校防災教室	昭和村立昭和中学校 全校生徒	防災教育
令和元年10月8日(火)	相田優	自然	環境教育～自然に学ぶ	慈光こども園 年長児	環境教育
令和元年10月9日(水)	猪瀬弘瑛	自然	地層や火山について	会津若松市立湊小学校	6年・理科「大地のつくり」 「変わり続ける大地」

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
令和元年10月 10日(木)	相田優	自然	環境教育～自然に学ぶ	慈光第二こども 園 年長児	環境教育
令和元年11月 13日(水)	平澤慎	考古・連 携交流	職業人講話	会津学鳳高校	1年・キャリア教育
令和元年11月 22日(金)	筑波匡介 弦巻優太	震災	防災教育出前講座	三島町三島中学 校全校生徒	防災教育

カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和元年度は5校からの要請があり、受け入れを実施した。

○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・会津若松市立第一中学校（2年生：3名） 2日間
- ・会津若松市立第三中学校（2年生：3名） 3日間
- ・会津若松市立第四中学校（2年生：3名） 2日間
- ・会津若松市立第六中学校（2年生：2名） 2日間
- ・会津若松市立一箕中学校（2年生：1名） 1日間

キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和元年度は県内出身及び県内大学に在学する学生11名を受け入れた。

実習期間 令和元年8月27日(火)～9月1日(日)

(4) 生涯学習・研究支援

ア 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,705冊である。

イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数

考古：27件48点 歴史：18件149点 美術：1件3点
民俗：1件2点 自然：4件1,338点 計51件1,540点

ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

令和元年度の派遣回数は21回で、参加者は1,484人であった。

講師派遣一覧

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
1	令和元年6月12日(水)	塚本麻衣子	美術	興福寺の国宝がやってくる	福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ
2	令和元年6月15日(土)	高橋充	歴史	戦国期の蘆名氏と会津	東北大学国史談話会
3	令和元年6月22日(土)	塚本麻衣子	美術	徳一と会津の仏教文化	磐梯山慧日寺資料館
4	令和元年6月26日(水)	高橋満	考古	東日本大震災と地域博物館	文化庁
5	令和元年6月28日(金)	高橋充	歴史	戦国時代の福島	会津美里町教育委員会
6	令和元年7月27日(土)	内山大介	民俗	文化遺産としての民俗・地域研究としての民俗学	福島大学
7	令和元年8月25日(日)	阿部綾子	歴史	戊辰戦争 会津での戦い～奥女中が伝えた会津籠城戦～	只見町
8	令和元年9月12日(木)	内山大介 大里正樹	民俗	金山町民具資料の整理について	福島大学
9	令和元年9月13日(金)～ 15日(日)	内山大介 大里正樹	民俗	金山町民具資料の整理について	金山町・福島大学
10	令和元年9月29日(日)	高橋充	歴史	蒲生秀行の生涯と宇都宮・若松	宇都宮市
11	令和元年10月2日(水)	高橋充	歴史	ガイダンス・福島の博物館と城・町	福島県立医科大学
12	令和元年10月9日(水)	内山大介	民俗	医療と民俗Ⅰ 妊娠と出産	福島県立医科大学
13	令和元年10月16日(水)	内山大介	民俗	医療と民俗Ⅱ 死と葬送	福島県立医科大学
14	令和元年11月3日(日・祝)	高橋充	歴史	会津・米沢街道を往来した人々	北塩原村
15	令和元年11月16日(土)	高橋充	歴史	伊達政宗の挑戦、蒲生氏郷の理想	JR 東日本企画

No.	月 日	講 師	分野	演 題 ・ 内 容 等	主 催
16	令和元年 11 月 19 日(火)	猪瀬弘瑛	自然	棚倉をクジラが泳いでいたところ	棚倉町
17	令和元年 12 月 5 日(木)	藤原妃敏	考古	会津に人が住み始めた頃の話	磐梯町中央公民館
18	令和 2 年 1 月 13 日(月・祝)	内山大介 筑波匡介	震災	専門家によるポイント解説「被災時の博物館」	京都歴史文化施設クラスター実行委員会、ICOM 京都大会 2019 組織委員会、ICOM 日本委員会
19	令和 2 年 1 月 25 日(土)	阿部綾子	歴史	中村藩士の禄高～明治四年の禄高調から～	相馬郷土史研究会
20	令和 2 年 1 月 27 日(月)	塚本麻衣子	美術	会津の仏像の見所紹介	極上の会津プロジェクト協議会
21	令和 2 年 2 月 13 日(木)	高橋充 塚本麻衣子	歴史 美術	江戸時代の観音めぐり 三十三観音めぐりと会津の仏教文化	極上の会津プロジェクト協議会

(5) 博物館友の会活動への支援

福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年 3 月 10 日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(エ) 令和元年度会員数

個人会員：135 家族会員：31 高校生会員：0
賛助会員：4 合計：170

イ 令和元年度事業概要

(ア) 友の会主催特別講演会の開催

日 時：令和元年 11 月 4 日(月・振休)13 時 30 分
講 師：平澤 慎(学芸員)
演 題：東日本における会津の古墳
来場者：90 名

(イ) 研修旅行

○春の研修旅行

研修先：十日町市博物館 新潟県立歴史博物館
期 日：令和元年 7 月 30 日(火)
参加者：33 名

※秋については参加希望者が定員に達せず中止

(ウ) 会報の発行

第 119 号・第 120 号・第 121 号と 3 回の会報を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

「とりもどすきずなつながるみらい」 35 名参加

「興福寺と会津」 50 名参加

「あにまるぞうどうぶつ考古学」 26 名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の 2 サークルが活動している。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成 11 年に設立。会員数 35 名。令和元年度は次の活動を行った。

- いわき市御斎所鉱山(鉱物：菱マンガン鉱)
- 新潟県阿賀町草倉鉱山(鉱物：黄銅鉱、石英、水晶)
- 黒沢鉱山、田代鉱山(鉱物：黒鉱、方鉛鉱)
- 昭和村(化石：貝化石)
- 和久観音山(鉱物：電気石、石川石)
- 水引鉱山(鉱物：磁硫鉄鉱、硫砒鉄鉱)
- 「自然史講座：化石標本をつくろう」
- 新潟県阿賀町中ノ沢での鉱物採集(輝沸石、メノウ、玉髓)
- 学習会
- 総会 研修会

(イ) 古文書愛好会

平成 14 年度に発足した古文書愛好会は随時 20～25 名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは 5 つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。令和元年度の活動人数は 24 名で、月 1 回・第 2 土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

7 文化財・自然資料レスキュー

(1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和元年度には次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。幹事会を3回実施(9月6日、10月30日、2月12日)した。

なお、年度末の幹事会において、以下のことが決定され、救援本部の設置要綱が改正された。

- 東日本大震災及び原発事故に起因する被災文化財への対応は今後も必要である。救援本部の設置期間は、令和4年3月31日まで延長する。
- 今後の自然災害発生時の文化財レスキューは、現在県で進めている「大規模自然災害発生時の被災文化財に係る相互応援協定」により対応することとし、救援本部は東日本大震災及び原発事故に起因する文化財レスキューに特化(限定)して対応に当たる。
- 各市町村からの要請に基づいて活動を行うことに変わりはない。ただし、救援本部会議の構成員を、これまでの幹事会構成員に絞り、より機動力を高める。市町村構成員すべてに対して会議のために集まっていたかなくとも、救援の内容に応じた招請で対応する。他の市町村等の協力が必要な場合についても調整する。
- 以上の方針に従って、設置要綱を改正する。

イ 被災地域の資料への対応

(ア) 蛭沢稻荷神社資料の返還(7月11日)

震災後に旧相馬東高校校舎へ避難させていた「蛭沢稻荷神社奉納絵馬・地引大漁図及び船模型」(県指定文化財)等の資料を神社の絵馬堂へ返還した(資料の一部は南相馬市博物館へ搬入)。

(イ) 双葉町羽鳥観音堂仏像移送(7月27日)

帰還困難区域の観音堂・不動堂にある仏像の管理が困難であるため、檀家・双葉町教育委員会とともに、仏像4体を双葉町歴史民俗資料館へ移送した。

(2) 令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う被災文化財等レスキュー

令和元年10月12日に日本に上陸した令和元年東日本台風(令和元年台風19号)に伴う河川の氾濫により、資料館・博物館等の文化財を収蔵する施設が被災し、文化財等の水損被害が各地で発生したことから、次の活動を行った。

ア レスキュー作業の体制

福島県立博物館では文化財課や福島県立美術館、福島県文化財センター白河館(まほろん)、ふくしま歴史資料保存ネットワーク(福島大学)と連絡をとりながら、被害状況に関する情報収集や現況確認調査などに協力した。被災資料の保全作業のため学芸員が交替で作業に参加した。

イ 被災地域の資料への対応

(ア) 本宮市

本宮市歴史民俗資料館の収蔵資料(古文書、美術

・工芸品、考古資料、発掘調査記録、民俗資料など)が被災した。一部は近くのサンライズもとみやへ一時避難させ保全作業が行われたが、被害の規模が大きく、十分な対応がとれない状況も生じた。

(イ) 田村市

田村市文化センターの収蔵資料(古文書、美術・工芸品、発掘調査記録など)が被災し、田村市歴史民俗資料館や船引就業改善センター等に一時避難させ、保全作業が行われた。

(ウ) 伊達市

旧梁川町史編さん室の収蔵資料(古文書、民具など)及び旧霊山町稚蚕飼育所の収蔵資料(民具、考古資料など)が被災した。一部は伊達市役所梁川総合支所へ一時避難させ、おもに水損資料の保全作業が行われた。

8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

(1) 震災遺産保全チームの組織

活動母体である実行委員会が解散後は、博物館内の「震災遺産保全チーム」が分野横断のプロジェクトチームとして活動を続けている。令和元年度は民俗2名、考古1名、歴史3名、自然1名、美術1名、保存科学1名の計9名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害史担当学芸員を中心に取り組んだ。また常設展示に向けて各分野からテーマを持ち寄り学習会を設けた。

(2) 震災遺産の調査・保全

資料情報を充実させるための追加調査等を行った。浪江中学校避難所資料、旧相馬女子高避難所資料、浪江町新聞販売店資料、富岡はげん、鎌田氏作成フロッタージュ作品、南相馬市半杭牧場牛舎柱レプリカについて聞き取り調査を行い、その成果を特集展として公開した。

(3) 他団体・他機関との連携・協力

筑波大学の白井哲哉教授を研究代表者とする科学研究費補助金基盤研究(A)「防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築—国際比較の観点から—」(課題番号:17H00772)による研究の一環として、2月に原子力発電所事故のあったウクライナのチェルノブイリへの調査に同行した。また東日本大震災・原子力災害伝承館との連携を図り、担当課と協議しながら伝承館の広報を委託している公益財団法人福島イノベーション・コースト構想機構と協力体制を構築した。

(4) 普及事業

特集展「震災遺産を考える－それぞれの9年－」を実施した。調査をもとに、7人のその後をまとめ、資料に人の物語を加えた展示を行った。

会津方部高等学校歴史地理公民研究会などの学校教員の研究会へ積極的に授業提案を行った。震災遺産を活用した主体的で対話的な授業の内容として提案し、その結果、防災教育としてゲストティーチャーの依頼を受けた。(昭和中、三島中)授業では震災遺産を教室へ持ち込み、資料を前に自分たちで考えて防災について対話的な内容として実施した。

ICOM(世界博物館会議)京都大会にライフミュージアムネットワーク実行委員会からの依頼で前年度作成した牛舎柱のレプリカを展示した。

9 ライフミュージアムネットワーク

(1) 事業趣旨

東日本大震災後を契機に【いのち(ライフ)】と【くらし(ライフ)】に再び誠実に向き合い同じ志を共有するネットワークを強化・拡大することでミュージアムの社会的使命を拡張することを目指し、平成30年度よりライフミュージアムネットワーク実行委員会を設立、活動を行った。

(2) 組織

ア 主催 ライフミュージアムネットワーク実行委員会
イ 構成団体

南相馬市博物館、はじまりの美術館、三島町生活工芸館、一般社団法人ふくしま連携復興センター、原爆の図丸木美術館、山の暮らし再生機構、福島県立博物館

ウ 委員長 赤坂憲雄(館長)

エ 事務局 福島県立博物館

(3) 実施期間

ア 実施期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

イ プロジェクト活動期間

令和元年5月16日～令和2年3月31日

(4) 助成

文化庁令和元年度地域と共働した博物館創造活動支援事業

(5) 事業内容

リサーチ、オープンディスカッション、フォーラム、スタディツアーを実施し、記録集(『ライフミュージアムネットワーク2019活動記録集』、2,000部)を作成した。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度まで「福島県郡山自然の家」について、「学校法人国際総合学園」に、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <https://www.koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

第14節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」(以下「自然の家」という。)を開設。

イ 福島県会津自然の家
 福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1
 〒969-6504 TEL 0242-83-2480
 FAX 0242-83-2481
 URL <https://www.aizu-nc.fcs.ed.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家
 福島県いわき市久之浜町田之網字向山 53
 〒979-0335 TEL 0246-32-7700
 FAX 0246-32-7730
 URL <https://www.iwaki-nc.fcs.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

- ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第 15 節 福島県郡山自然の家

1 概要

(1) 沿革

郡山自然の家は、昭和 47 年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来 48 年が経過し、平成 30 年 12 月には、延べ利用者数が 170 万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約 11km、郡山中央スマートインターから車で約 6 分、郡山南インターより約 8 分、という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲ま

れている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成 31 年 4 月 1 日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開するとともに、生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、年代や性別を問わず利用しやすい施設とすべく対応を進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業の展開や、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声に応えるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するとともに、クラフト活動で使用する木材等については、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せるなど対応に努めた。また、放射線量が比較的高い場所の除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃除去を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、利用団体数 492 団体、延べ利用者数 30,020 人となった。

(2) 職員組織

職 名	人員
所長	1
指導部長	1
事務局長	1
指導部主任	1
指導員	1
体験指導員	3
事務員	2
運転手	1
計	11

(3) 令和元年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

- (イ) 団体が主体的に活動できるように、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、4 月と 7 月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやニュースポーツなどの実技研修のほか、施設の概要説

明や活動計画の立案に際して指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるよう支援に努めた。

- (イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、施設見学や活動計画の調整など、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。
- (ウ) 利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営改善に努めた。

イ 魅力ある企画事業の運営

- (ア) 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、外部講師やボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を積極的に進めた。
- (イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、施設利用者の満足度を高める運営に努めた。
- (ウ) 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

ウ 広報の充実と利用促進

- (ア) 多くの団体に利用してもらえるよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行った。学校利用の拡大については、各種企画事業の案内をその都度電子メールで送付するなど、より多くの学校に利用していただけるようPR活動を行った。また、未来キッズ生き生き事業については、中通り地区の全小学校・全児童に案内を配付し周知に努めた。
- (イ) 企画事業案内や事業の実施状況をホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供に努めた。
- (ウ) 企画事業では、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、新聞社やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多くの方の参加につながることができた。
- (エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザビークラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して利用手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

- (ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について働きかけを行った。

また、特に次の点に力を入れてきた。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検の徹底。
 - ・食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底。
 - ・食物アレルギー対応のための、利用団体との情報共有及び食堂との連携。
 - ・スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検。
 - ・松食い虫による倒木防止のため、森林組合との連携による計画的な伐採と日常の安全点検。
- (イ) 防災に関しては、食堂及び警備会社等委託業者の参加協力を得て全所をあげた消防訓練や避難訓練を実施した。また、総合防災訓練として消防・警察の協力の下、専門的な見地から非常時における対応について指導をいただくとともに、日常の自主点検について再確認する機会となった。施設の特徴として、不特定多数の方が利用する本施設において、利用者の安全確保は最優先事項であり、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成するとともに、その対応について職員研修により来所者への積極的な声かけの必要性や、車止めや施設の施錠に万全を期すなど理解を深めた。

安全な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大であり、そのため相互の信頼関係を日々醸成するため情報の共有・伝達を丁寧に行った。

オ 施設・設備の整備

- (ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある木の枝を除伐したり、コースロープを設置したりして、安全・安心に利用できるような対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検においては職員が実際に利用し、器具の状態を確認するとともに随時、必要な補修整備に努めた。
- (イ) 館内については、季節ごとの掲示に心がけ、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示し、生きた壁面利用に計画的に取り組んだ。
館内外の表示については、年齢性別障がいの有無にかかわらず、利用者が情報をわかりやすく入手できるようユニバーサルデザインの観点に基づき、取組を続けている。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

- ア 本館 172名 (15部屋)
- イ ロッジ 126名 (9棟)
- ウ テント 120名 (20張)

(3) 敷地面積

237,587.59㎡

(4) 建物面積

延床面積 3,806.08㎡

- ・本館（管理棟・宿泊室・研修室・浴室）
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

ア 野外活動設備

（みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所）

イ その他

（野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナッグゴルフ、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビ（ほか）

3 利用状況

(1) 令和元年度利用者数

延べ利用者数 30,020 人

内訳	学校教育団体	234 団体	12,877 人
	社会教育団体	175 団体	6,604 人
	ファミリー	22 団体	94 人
	企画事業	61 団体	10,445 人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会

(ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高め、同時利用校（園）との調整を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 17 日（水）
対象 5 月～8 月まで利用の学校（園）
参加者数 52 名
- 期日 令和元年 7 月 26 日（金）
対象 9 月～10 月以降利用の学校（園）
参加者数 43 名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・活動プログラム実技研修
- ・活動計画書の作成・調整

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ週間

(ア) 目的

カタクリの群生、桜を觀賞し、春の自然を満喫する。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 1 日（月）～21 日（日）
対象 一般
参加者数 1,320 名

(ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を觀賞した。

イ さくらウォーク

(ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 13 日（土）
対象 一般
参加者数 65 名

(ウ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約 5km・10km に分かれて散策をした。帰所後は、みどりの広場でのアスレチック体験、総合活動館での自由活動を楽しんだ。

ウ オープニングセレモニー

(ア) 目的

平成 31 年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 16 日（火）
対象 郡山市立多田野小学校（堀口分校含）
4、5 年生と先生方
参加者数 44 名

(ウ) 活動内容

児童代表あいさつの後、今回は所内に自生するツタを使用しテープカットのセレモニーを行った。その後、アスレチックと総合活動館に分かれ自由に活動し楽しんだ。

エ 春のオープンデー

(ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 平成 31 年 4 月 28 日（日）
対象 一般
参加者数 395 名

(ウ) 活動内容

アーチェリー、インラインスケート、フィールド活動、アスレチック開放、会津自然の家及びいわき海浜自然の家のクラフト活動などを提供した。

オ 親子でチャレンジ（未来キッズ生き生き事業と併催）

(ア) 目的

家族や親子でアーチェリーに挑戦し、その後、野外炊飯に取り組む。体力の増進を図るとともに、参加者の絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- 期日 令和元年 6 月 16 日（日）
対象 小学生とその家族
参加者数 39 名

- (ウ) 活動内容
雨のため体育館にて室内アーチェリーを楽しんだ後、親子で野外炊飯(カレー作り)を行った。
- カ 夢冒険キャンプ(未来キッズ生き生き事業と併催)
- (ア) 目的
キャンプ生活をとおして、自然との共存を図りながら様々な困難に打ち勝つことのできる子どもを育成する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和元年8月8日(木)～10日(土)
対象 小学4～6年生
参加者数 110名
- (ウ) 活動内容
2泊3日で5班に分かれ、クラフト活動や野外炊飯、野外活動を行った。また、猪苗代湖での湖水浴のほか、たらい舟体験や宝探しゲームを楽しんだ。
- キ 第17回郡山自然の家オープンデー
(未来キッズ生き生き事業と併催)
- (ア) 目的
本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和元年9月8日(日)
対象 一般
参加者数 650名
- (ウ) 活動内容
アーチェリー、インラインスケート、フィールド活動、アスレチック開放、県内の自然の家の活動体験、学校法人国際総合学園各専門学校の似顔絵体験などのプログラムを楽しんだ。
- ク 親子五色沼ハイキング
- (ア) 目的
家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しむとともに、家族間の交流を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和元年10月20日(日)
対象 小学生を含む家族・グループ
参加者数 31名
- (ウ) 活動内容
現地ガイドと共に親子で秋の裏磐梯五色沼自然探勝路(約3.6km)の散策を楽しんだ。
- ケ 手ぶらでも煮会
- (ア) 目的
野外炊飯等をとおして食についての意識を高め、家族やグループとの親睦を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和元年10月27日(日)
対象 小学生を含む家族・グループ
参加者数 81名

- (ウ) 活動内容
各家族・グループに分かれていも煮会を楽しんだ。
- コ 自然の家をたのしもう!
- (ア) 目的
本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和元年11月10日(日)
対象 幼児から小学生を含む家族
参加者数 104名
- (ウ) 活動内容
アーチェリー、インラインスケートの体験プログラムとアスレチックの開放を行った。
- サ 親子でハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
- (ア) 目的
クリスマスお菓子の家作りやミニ門松作りをとおして、伝統文化を体験する機会とするとともに、家族や友だちとの交流を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和元年12月15日(日)
対象 幼児から小学生とその家族
参加者数 61名
- (ウ) 活動内容
クリスマスお菓子の家作りとミニ門松作りに分かれて活動した。参加者全員でクリスマスパーティを楽しんだ。
- シ 親子スケート教室
- (ア) 目的
スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和2年1月12日(日)
対象 幼児から小学生を含む家族
参加者数 35名
- (ウ) 活動内容
磐梯熱海アイスアリーナで講師からスケートの基本的な動きの指導を受け、自由滑走を楽しんだ。
- ス わくわく!ファミリー冬のつどい
- (ア) 目的
スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族の絆と交流を深める。
- (イ) 期日、対象及び参加者数
期日 令和2年2月15日(土)～16日(日)
対象 小・中学生とその家族
参加者数 56名
- (ウ) 活動内容
猪苗代スキー場で講師からスキーの基本的な動きの指導を受け、個々の技量に応じた滑走を楽しんだ。
- セ サザンピーククラブ感謝デー
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) 協力事業

ア 逢瀬公園さくらまつり(福島県総合緑化センター主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 平成31年4月13日(土)

参加者数 410名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

イ 春のオープンデー(いわき海浜自然の家主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年5月19日(日)

参加者数 520名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

ウ 春のオープンデー(会津自然の家主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年5月26日(日)

参加者数 458名

(イ) 活動内容

プラ板キーホルダー作りの提供。

エ 安積山登山

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年6月9日(日) 参加者数 180名

(イ) 活動内容

安積山縦走トレッキング(総距離約16km)の運営補助。

オ サマースクール(郡山市青少年会館主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年7月24日(水)～26日(金)

参加者数 174名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの出前講座の提供。

カ FSG カレッジリーグ学園祭

(学校法人国際総合学園主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年8月25日(日) 参加者数 247名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

キ ミュージックライブ

(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年9月16日(月・祝)

参加者数 260名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

ク なすかしの森ファミリーフェスティバル

(那須甲子青少年自然の家主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年10月6日(日) 参加者数 600名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

ケ 逢瀬公園秋の感謝祭(福島県総合緑化センター主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年10月20日(日) 参加者数 381名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

コ 福島ファイヤーボンズ ホームゲーム出店

(福島ファイヤーボンズ主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和元年11月25日(月) 参加者数 192名

令和元年11月26日(火) 参加者数 166名

令和元年12月11日(水) 参加者数 157名

令和元年12月14日(土) 参加者数 156名

令和元年12月15日(日) 参加者数 158名

令和2年2月22日(土) 参加者数 144名

令和2年2月23日(日) 参加者数 152名

(イ) 活動内容

缶バッジ作りの提供。

サ お正月を楽しもう!(郡山市青少年会館主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和2年1月5日(日) 参加者数 24名

(イ) 活動内容

伝承遊びの出前講座の提供。

シ ウィンターフェスティバル!(会津自然の家主催)

※雪不足のため中止

ス いなわしろフェスティバル 冬

(国立磐梯青少年交流の家主催)

(ア) 期日及び参加者数

期日 令和2年1月19日(日) 参加者数 1,415名

(イ) 活動内容

事業運営の補助。

(4) 年間継続事業

ア みどりの広場アスレチック&活動館開放します!

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 平成31年4月20日(土) 参加者数 22名

令和元年5月11日(土) 参加者数 20名

令和元年5月25日(土) 参加者数 38名

令和元年11月16日(土) 参加者数 31名

令和元年12月7日(土) 参加者数 20名

令和2年1月25日(土) 参加者数 21名

令和2年2月8日(土) 参加者数 38名

対象 県中地区の特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族

b 期日 平成31年4月21日(日) 参加者数 51名

令和元年5月12日(日) 参加者数 18名

令和元年5月26日(日) 参加者数 33名
 令和元年11月17日(日) 参加者数 44名
 令和元年12月8日(日) 参加者数 50名
 令和2年1月26日(日) 参加者数 97名
 令和2年2月9日(日) 参加者数 69名

対象 県中地区の幼児及び小学生とその家族

(ウ) 活動内容

みどりの広場アスレチック (10基)、活動館開放

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

親子にプログラムを体験してもらい、心身の健康や体力向上へつなげていく。

(イ) 対象

中通り地区の幼児から小学生とその家族

(ウ) 期日、対象及び参加者数

a 期日 令和元年6月30日(日)

対象 県北地区 参加者数 80名

b 期日 令和元年7月7日(日)

対象 県中、県南地区 参加者数 228名

c 期日 令和元年9月8日(日)

対象 中通り全地区 参加者数 650名

(エ) 活動内容

午前3、午後3のプログラムを選択制で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所の活動館を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

期日 令和元年11月12日(火)～令和2年3月13日(金)までの平日、9時～16時

対象 県中地区内の幼稚園・保育園

参加者 26園、733名対象

(ウ) 活動内容

活動館やアスレチックを利用した運動

第16節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和元年度末で39年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和元年度の利用者数は、51,527人で、前年度を5,161人上回った。天候上の理由で企画事業の中止や新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各種団体受入を中止したものの、企画事業の工夫や出前講座を積極的に実施することで、利用促進に努めることができた。

また、6つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利

用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	人員
所長	1
主幹(兼)次長	1
主事	1
専門員	1
主任社会教育主事	1
社会教育主事	2
指導主事	1
体験活動指導員	3
嘱託運転手	1
計	12

(2) 令和元年度重点目標と成果

年間利用者数4万人以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。【 】の数値は職員による自己評価の平均値(4段階評価)

ア 教育目標を達成する研修プログラムを充実します。

(ア) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季に応じて体験できる野外活動の充実【3.67】

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った野外活動ができるようにした。

(イ) 利用者層に応じた、健康増進や体力づくりのための活動プログラムの更新と提供【3.89】

新たに活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

(ウ) ボランティアの確保及び活動機会の充実【3.33】

ボランティアセミナーを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。

(エ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養【3.56】

所内の安全に関する研修を計画的に実施したり、お互いのプログラム指導を見合ったりしながら、所員全体のスキルアップに努めた。

イ 「好感度」の高い施設を目指す親切的な接遇に努めます。

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇【3.56】

団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 利用者一人一人の立場に立った支援【3.67】

利用者のねらい達成のために、必ず団体に担当所員がつき、積極的に支援を行った。

(ウ) 各団体の自立的活動による、目標達成の支援【3.78】

社会教育団体の利用数増加に伴い、自立的な活動が可能となるよう補助及び支援を行った。

- (エ) 適切な会計事務の執行、服務規律の厳正な保持【3.78】
会計事務にかかる研修を受講したり、服務倫理委員会を定期的に開催したりして、会計事務の適正化を図った。
- (オ) 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓【3.44】
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の環境づくりに努めることができた。
- ウ 生涯学習施設の拠点として、対象や内容の多様化を図るなど企画事業を充実します。
 - (ア) 自然体験活動の促進及び家族やグループ間交流に係る事業の工夫【3.44】
高寺山登山や東松峠ウォーキング大会などの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。
 - (イ) 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとられない事業の企画・立案【3.33】
企画事業において様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。
 - (ウ) R-PDCAサイクルの確実な実施【3.33】
R-PDCAサイクルを確実に実施することにより、反省点を活かして、次の事業などの計画立案を進めることができた。
- エ 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。
 - (ア) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底【3.89】
労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。
 - (イ) 利用者への適時的確な指導助言【3.89】
気象条件等、様々な状況の変化に対応し、所員の連携を図りながら、助言に努めることができた。
 - (ウ) 感染症（インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症、胃腸炎等）の発生防止【3.56】
食堂業者との連携も密にし、疾病の発症や感染症の発生の防止に努めることができた。
 - (エ) 迅速・計画的な施設の整備、修繕【3.44】
日常点検を大切にし、危険箇所を発見したらすぐに整備、修繕を行った。
- オ 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。
 - (ア) ホームページの充実及び適時的確な更新【3.67】
タイムリーな話題を時期を逃さず、ホームページにアップするよう、担当を中心に全所員で更新に努めた。
 - (イ) フェイスブック等の活用による情報発信の工夫【3.89】
新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを活用し、利用促進につなげることができた。
 - (ウ) 誘客活動の工夫（保育所・幼稚園・こども園、小中高・特別支援学校、大学、各市町村教育委員会、企業等へのていねいな働きかけ）【3.78】

- 学校、公民館など教育施設への出前事業や企業訪問を行い、利用者の拡大につなげる事ができた。
- (エ) 記録（データ）の確実な蓄積、分析及び活用【3.67】
利用者アンケートや食堂アンケートなどの声を、確実に集計、分析し、改善につなげる事ができた。
- カ 組織として機能する自然の家を目指し、基盤づくりに努めます。
 - (ア) 将来的な指定管理者制度導入に対する取組【3.78】
研修プログラムや企画事業等のマニュアル化や電子データ化の推進（指導部）、施設・設備の円滑な管理や会計事務等のマニュアル化並びに帳簿等の整理（総務部）に努めた。
 - (イ) 指導部と総務部の情報共有及び関係機関との連携強化【3.78】
職員会議や朝の打合せなどで指導部と総務部の情報共有を図り、関係機関との円滑な対応につなげる事ができた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

- ア 本館 26室 292名（うち1室障がい者用）
- イ ロッジ 10棟 150名
- ウ テント 10張 60名

(3) 敷地面積

249,848.98㎡

(4) 建物面積

- ア 延床面積 5,893.8㎡
 - (ア) 管理研修棟（鉄筋造2階建）
 - (イ) 宿泊棟（鉄筋造2階建）
 - (ウ) プレイホール（鉄筋造）
 - (エ) アセンブリホール（鉄筋造）
 - (オ) 機械棟（鉄筋造3階建）
 - (カ) ロッジ（木造平屋建）
 - (キ) 野外活動管理センター（鉄筋造）
 - (ク) 炊飯場（鉄筋造）
 - (ケ) 薪置場（コンクリートブロック造）
 - (コ) 車庫（鉄筋造）
 - (ク) 野外便所（鉄筋造）

(5) 運動広場面積

8,500㎡

(6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具

- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー（クロスカンリースキー）
- サ そり
- シ スノーシュー
- ス 営火場（4か所）
- セ 諸活動コース
- ソ その他

3 利用状況

(1) 令和元年度の利用団体数

延べ利用者数 51,527人

内訳	学校教育団体	259団体	19,239人
	社会教育団体	229団体	27,739人
	ファミリー	17団体	105人
	企画事業		4,444人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を確認する。
- b 児童生徒が安全に生活し、充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項と効果的な活動計画が作成できるようにする。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 第1回：平成31年4月17日(水)
5月16日(木)～6月16日(日)に利用する学校教職員32名参加
- b 第2回：平成31年4月23日(火)
6月18日(火)～7月19日(金)に利用する学校教職員41名参加
- c 第3回：平成31年4月24日(水)
8月27日(火)～10月6日(日)に利用する学校教職員23名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き、準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

イ ボランティアのつどい

(イ) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。

- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種オープンデー等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 第1回：令和元年5月12日(日) 19名参加
第2回：令和2年2月15日(土) 4名参加
- b 高校生、一般

(ウ) 研修内容

- a ボランティア概論
- b 野外クッキング研修
- c 本所プログラム研修

(2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

(ア) 目的

- a 高寺山山開き前日に歴史勉強会を開催し、いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山及び周辺の歴史や文化を学び、興味を持って高寺山山開きに参加させるようにする。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 平成31年4月20日(土) 32名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

- a 歴史勉強会

イ ステップアップセミナー

(イ) 目的

- a 放課後子ども教室や児童クラブの指導者に対し、信頼関係づくりゲームや木工工作を研修することにより、子どもたちの活動の充実が図れるようにする。
- b 本所ならではの活動プログラムを実際に体験していただくことで、関係機関の利用促進につなげる。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 平成31年4月26日(金) 46名参加
- b 放課後子ども教室、児童クラブ職員

(ウ) 活動内容

- a 信頼関係づくりゲーム
- b クラフト
- c 情報交換

ウ 通学キャンプ

(イ) 目的

- a 本所での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、他校との交流を図ることにより中学校進学の不安を少しでも解消できるようにする。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
 - a 第1回：令和元年10月24日(木)～26日(土)
喜多方二中学校区 13名参加
 - 第2回：令和元年10月31日(木)～11月2日(土)
坂下中学校区 52名参加
 - 第3回：令和元年11月7日(木)～9日(土)
北会津中学校区 12名参加
 - b 小学校5、6年生
 - (ウ) 活動内容
 - a 交流活動
 - b 学習(宿題・読書)
 - c 屋外活動
- エ 冬休み楽習宿

- (ア) 目的
 - a 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。
 - b 自主性や創造性を育みながら、学習の仕方や基本的な生活習慣を身に付けさせる。
 - c 児童のふれあいや東京大学の学生ボランティアとのふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
 - a 令和元年12月26日(木)～28日(土)
児童67名、保護者等26名参加
 - b 県内の小学校4～6年生
 - c 大学生5名

- (ウ) 活動内容
 - a お楽しみ交流会
 - b 学習(国語、社会、算数、理科)
 - c 体力づくり
 - d 大学生との情報交換会

(3) 利用促進事業

- ア 第15回高寺山山開き(会津坂下町との共催)
 - (ア) 目的
 - a いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山を広く内外に広報し、地域振興に資する。
 - b 参加者同士が共に汗を流し登山することより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。
 - (イ) 期日、対象及び参加者数
 - a 平成31年4月21日(日) 346名参加
 - b 一般対象
 - (ウ) 活動内容
 - a 山開き式典
 - b 高寺山登山
 - c お楽しみ抽選会、豚汁サービス

- イ 春のオープンデー(未来キッズ生き生き事業との併催)
 - (ア) 目的
 - a 自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。

- b 子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し楽しい活動をさせる。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
 - a 令和元年5月26日(日) 619名参加
 - b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
 - c ボランティア等47名
- (ウ) 活動内容
 - a プログラム体験コーナー(無料)
カヌー、アスレチック、森遊び、火おこし体験、ミニ樹木OL、UFOゴルフ、クラフト

- ウ サマーキャンプ「さまきやん」
 - (ア) 目的
 - a 会津自然の家でのテント泊を通して、自然に親しんだり、仲間とふれあったりすることができる。
 - b 夏ならではの川活動や森活動などの自然体験を楽しむことができる。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
 - a 令和元年8月9日(金)～11日(日) 2泊3日
39名参加
 - b 会津域内の小・中学生
 - c 講師3名、ボランティア16名

- (ウ) 活動内容
 - a 交流活動
 - b 野外炊飯
 - c 班別活動(ワークショップ・木工クラフト)
 - d 川遊び・森遊び
 - e バードウォッチング

- エ お月見コンサート2019
 - (ア) 目的
 - a 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

- (イ) 期日、対象、参加者数、出演者数
 - a 令和元年9月14日(土) 173名参加
 - b 一般対象
 - c ピアノ演奏、ゴスペル及び民話の出演者40名

- (ウ) 活動内容
 - a 会津の民話
 - b ゴスペルライブ
 - c 音楽コンサート

- オ あったかふれあいまつり ※台風接近により中止
- カ 東松峠ウォーキング大会2019

- (ア) 目的
 - a 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化的遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。
 - b 東松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を募ることにより、交流・地域の活性化を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 令和元年 10 月 19 日(土) 82 名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

<コース>

高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→東松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様(希望者)→高寺コミュニティーセンター ※片門薬師堂(希望者)

キ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ

(ア) 目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 第 1 回：令和元年 11 月 16 日(土) 67 名参加
- 第 2 回：令和元年 11 月 17 日(日) 66 名参加
- 第 3 回：令和元年 11 月 24 日(日) 69 名参加

- b 一般対象
- c 講師各回 2 名

(ウ) 活動内容

- a そば打ち実演
- b そば打ち体験
- c そば茹で実演
- d 実食

ク 手作り森のクリスマス

(ア) 目的

- a クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。
- b 手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらうとともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 第 1 回：令和元年 12 月 14 日(土) 57 名参加
- 第 2 回：令和元年 12 月 15 日(日) 57 名参加

- b 県内の小・中学生とその家族対象
- c 講師各回 1 名

(ウ) 活動内容

- a クリスマスケーキ作り(シフォンケーキ)
- b クリスマスクラフト作成(スノードーム)
- c 試食

ケ ウィンターフェスティバル

※ 雪不足のため中止

コ クラフトキッズフェア

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(4) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的、対象

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待

し、プレイヤーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康、運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

会津地方の 12 歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

(イ) 名称、期日及び参加者数

- a 春のオープンデー・・・・・・・・・・前
令和元年 5 月 26 日(日)
- b 会津自然の家里山開放デー①
令和元年 6 月 9 日(日) 140 名参加
- c 会津自然の家里山開放デー②
令和元年 7 月 21 日(日) 403 名参加
- d 会津自然の家里山開放デー③
令和元年 9 月 1 日(日) 133 名参加
- e 雪遊びファミリーデー(ニュースポーツ開放デー)
第 1 回：令和 2 年 1 月 26 日(日) 22 名参加
第 2 回：令和 2 年 2 月 2 日(日) 42 名参加
第 3 回：令和 2 年 2 月 9 日(日) 51 名参加
第 4 回：令和 2 年 2 月 16 日(日) 76 名参加

第 17 節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成 8 年 7 月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年 11 月 1 日から財団法人いわき市教育文化事業団(平成 26 年 4 月 1 日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称)を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成 23 年度に本館周辺、平成 24 年度につどいの広場・いこいの広場及び第 5 営火場周辺、平成 25 年度にトリムランド、平成 26 年度に野営場周辺の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。しかし、山林部については、平成 29 年 3 月に冒険の森及びキャンプ場の除染を行ったが、一部で放射線量がいわき市の基準値まで低下していないこと、また、使用休止中に傷んだ遊歩道や各種遊具などの再整備が必要であることから、フィールドアスレチックや冒険の森などの山での活動プログラムの再開はできていない。放射線量については、活動エリア内を定期的に測定し、データをホームページで公開している。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて、平成 25 年度から砂の芸術、磯遊び、魚釣りを再開し、平成 28 年度から川での活動として再開したいかだ乗り、カヤック乗りも平成 30 年度から四倉漁港に活動場所を戻し、あわ

せてボディボードを再開した。海浜に隣接した施設としての特性を活かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、地元のいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

令和元年度の利用状況は、475 団体、延べ利用者数 38,808 人であった。令和元年 10 月の台風 19 号に伴う断水や令和 2 年 2～3 月の新型コロナウイルスの影響があり、平成 30 年度と比較すると、団体数は 88%、延べ利用者数は 86%であった。

しかしながら、学校教育団体の利用状況は平成 30 年度と比較すると延べ約 3,100 人（6 団体）増加しており、特に小学校は 147 団体の利用があった。その内、いわき市内の小学校は 47 団体で、地元からの利用が回復傾向にある。

(1) 令和元年度重点目標と成果

震災の影響で、未だに自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。山林部での活動内容が制限されていることから、野外活動やクラフト活動において、自発的な活動を促し、また集団で活動する楽しさや目的を達成した時の喜びを体感することができるよう、プログラムの内容を見直して体験活動の充実を図った。

(イ) オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業において、指定管理者が受託しているいわき市内の教育文化施設と連携し新たなプログラムを加えるなど、内容を充実させ、利用の促進及び施設の広報につなげることができた。

(ウ) 小・中学校等への利用促進のための積極的な情報提供、PR 活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行った。また、公民館への出前講座でクラフトなどのプログラムを提供し、連携を図りながら新たな利用者の開拓を行った。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅広いプログラムの開発とクラフト活動の充実を努めた。

(イ) 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、支援方法の検討・改善に努めた。

(ウ) 利用が制限されている冒険の森のナイトハイコースに代わり、多目的広場周辺を整備し、夜の自然の様子に親しむことができるコースを設定した。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

(イ) 学校・社会教育団体とともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な助言を行い安全教育の充実を図った。

(ウ) 危機管理マニュアルを作成し、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にしているが、平成 30 年度の台風及び水害を教訓に危機管理マニュアルの見直しを行い、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。

また、無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

(エ) トリムランドの利用前に所員が点検を行うとともに、年 1 回の公園施設製品安全管理士による点検を行い、安全管理に努めた。

(オ) 放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。

(カ) 所内にハチトラップを設置してスズメバチ対策を行った。また、所外での活動に備えて平成 30 年度に引き続き 2 台の AED をレンタルして安全対策の充実を図った。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会や、法人が受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

(イ) 利用団体からの意見や要望などを分析し、多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

(ウ) 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。

(ア) 環境ボランティアによる所内美化活動を通年で実施したほか、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を年 1 回行い、地域との連携を密接にするとともに地域に根ざした施設づくりに努めた。

(イ) 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

(ウ) いわき市内の高校・大学を通じて高校生・大学生がボランティア養成講座に参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。

(エ) 地域の公民館、教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、支所、消防署、交番とも連携して安全対策を図りながら、利用者がより良い環境の中で体験を深めることができるよう図った。また、地域のまちづくり活動に協力するなどして、各種団体との連携強化に努めた。

(オ) 地域のスポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供している。

(2) 職員組織

職名	人員
所長	1
次長	1
専門指導員	1
主査	1
指導員	3
教育指導専門員	1
体験活動指導員	5
運転手	2
環境整備員	1
事務補助員	2
計	18

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

(2) 宿泊定員

- ア 本館定員 300名 (和室 28室)
- イ ロッジ定員 160名 (10棟)
- ウ テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

350,171 m²

(4) 建物面積

- ア 延床面積 6,696.97 m²
 - (ア) 中心施設
 - 本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
 - 体育館
 - (イ) 野外施設
 - 管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- ア つどいの広場 7,000 m²
- イ 多目的広場 8,890 m²
- ウ 自然観察園 4,050 m²
- エ みんなの広場 4,700 m²

(6) 設備備品等

- ア 体育館
 - (バレーボールコート 2面、バスケットボールコート 1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート 2面、卓球台 3台、ピアノ 1台、キンボール ほか)
- イ 野営場
 - (野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか)
- ウ 野外活動設備
 - (フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場 5か所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース ほか)
- エ 多目的広場
 - (ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか)
- オ その他
 - (視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか)

3 利用状況

(1) 令和元年度利用者数

延べ利用者数	38,808人
内訳	学校教育団体 193団体 20,380人
	社会教育団体 246団体 15,691人
	ファミリー 8団体 132人
	企画事業 2,605人

4 企画事業

(1) 研修会事業

- ア 学校教育団体指導者事前研修会
 - (ア) 目的
 - 本所の利用にあたって、自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。
 - (イ) 期日、対象及び参加者数
 - ・期日 第1回平成 31年 4月 24日(水)～25日(木)
 - 第2回令和元年 5月 9日(木)～10日(金)
 - 第3回令和元年 5月 29日(水)～30日(木)
 - ・対象 令和元年度利用の学校教育団体
 - ・参加者数 (延べ人数)
 - 第1回 50名 第2回 47名 第3回 44名
 - (ウ) 研修内容
 - ・施設紹介と利用の仕方について
 - ・活動プログラムの紹介
 - ・活動計画書の作成・調整

イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）

(ア) 目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立案や実施についての理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年5月17日(金)
- ・対象 令和元年7月1日以降の利用団体及び参加希望団体

- ・参加者数 34名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・海浜活動（磯遊び）

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年5月12日(日) 参加者数 14名
令和元年7月14日(日) 参加者数 5名
令和元年9月29日(日) 参加者数 4名
令和元年12月22日(日) 参加者数 5名
- ・対象 高校生、大学生、一般

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 春のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

連携：会津自然の家、郡山自然の家

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、様々な体験活動を通して、本所への理解と利用促進を図る。また、子どもたちがボランティアスタッフや地域団体とふれ合うことで、豊かな人間性の育成を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年5月19日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 993名

(ウ) 内容

ファミリーゴルフ、マウンテンバイクなどのスポーツ体験で身体を動かし、缶バッジ作り、キーホルダー作りなどのクラフト体験を楽しんだ。いわき市内の高校生サークルによるフラダンスショー、パトカー・消防車両展示、タッチプールによる舟戸海岸に棲息する生物の展示など、地域の団体と連携したプログラムも提供し、好評を得た。また、野外炊飯（豚汁）、海浜レストラン、海浜風呂などでも楽しんだ。

イ 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

初夏の海で、釣りや磯遊びを楽しみながら、親子で協力して活動することで絆を深める。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年6月16日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 34名

(ウ) 内容

久之浜漁港の堤防で魚釣りを楽しみながら、海への理解を深めた。釣りの補助に当たったボランティアスタッフとの交流により、子どもたちが感謝の気持ちを学ぶことで、豊かな人間性を育むことができた。

ウ スポーツフェスティバル（未来キッズ生き生き事業）

※台風19号の影響による断水のため中止

エ 秋のオープンデー（未来キッズ生き生き事業）

※台風19号の影響による断水のため中止

オ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然のすばらしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年11月9日(土)～10日(日)
- ・対象 小学生（4～6年生）
- ・参加者数 8名

(ウ) 内容

四倉漁港・舟戸海岸を巡る海岸ウォークラリー、ネイチャーゲーム、キャンドルファイア、野外炊飯（豚汁、手打ちうどん）などを行い、参加者同士の親睦を深めた。いわき市内には台風19号の影響が残る地域もあり、参加者は例年より大幅に減少した。

カ アウトドアクッキング

(ア) 目的

自然の中で家族や仲間と協力して調理をする楽しさを体験しながら、参加者間の交流の機会を提供し、併せて、本所への理解及び利用促進を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- ・期日 令和元年11月17日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 22名

(ウ) 内容

野外炊飯場のかまどを利用し、協力しながらダッチオーブンを使った煮込みハンバーグ、直火での焼きリンゴ作りを行い、野外炊飯の楽しさや共同作業の大切を学んだ。

キ 親子のつどい

(ア) 目的

親子での共同作業による季節にふさわしい体験活動を通して、家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和元年12月14日(土)～15日(日)
 - ・対象 幼児から小学生とその家族
 - ・参加者数 27名

(ウ) 内容
家族でクラフト体験(クリスマスリース作り)、
野外炊飯(海鮮パエリア、オニオングラタンスープ、
焼きバナナ)、交流ゲームなどを楽しんだ。

ク 冬を楽しもう!～スキー教室～

(ア) 目的
雪で遊ぶことが少ないいわきの親子を対象に、会
津地方のスキー場で県内の風土の豊かさを感じなが
ら、冬の自然体験活動の楽しさを学ぶ。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年1月12日(日)
 - ・対象 小学生とその家族
 - ・参加者数 40名

(ウ) 内容
裏磐梯スキー場でスキーやそり遊びなどのウィン
タースポーツを体験した。

ケ クラフトのつどい

(ア) 目的
創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生
涯学習の振興を図る。自然の素材を生かしながらオ
リジナル作品を作ることで、地域の豊かな自然環境
を体感する。併せて、本所への理解及び利用促進を図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和2年2月16日(日)
 - ・対象 幼児から中学生とその家族
 - ・参加者数 332名

(ウ) 内容
ジオードを割って水晶を探す体験、草木染め(藍
染め)、革細工のキーホルダー作り、ストーンア
ートなどの創作活動を楽しみ、段ボール迷路やトリム
ランドで身体を動かした。

コ 森の音楽会

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(3) その他の企画事業

ア 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的
本所のアスレチック施設等を利用して、身体を動
かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を
図る。

- (イ) 期日、対象及び参加者数
- ・期日 令和元年11月17日(日) 参加者数 346名
 - 令和2年1月19日(日) 参加者数 168名
 - 令和2年2月9日(日) 参加者数 178名
 - ・対象 幼児から小学生とその家族

(ウ) 内容
所内のアスレチックで身体を動かし、エアートラ
ンポリンやラダーゲッター等の屋内スポーツ、凧あ
げなどを楽しんだ。

(4) 連携事業

ア ウィンターフェスティバル 主催:会津自然の家
※暖冬の影響でスキー場の利用ができず中止

イ 出前講座(全7件)

(ア) 目的
自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団
体等への利用促進を図り、また、生涯学習支援をす
る出前講座を行う。

- (イ) 期間、対象及び参加者数
- ・期日 平成31年4月1日(月)～
令和2年3月31日(火)
 - ・参加者数 651名

(ウ) 内容
県内の自然の家の企画事業や、いわき市内の生涯
学習施設・公民館・老人福祉施設等で、クラフトの
出前講座を実施。